

# **TOSHIBA**

## **TX03 ペリフェラルドライバ ユーザーガイド (TMPM341)**

第一版  
2017 年 9 月

**東芝デバイス&ストレージ株式会社**

## **本製品取り扱い上のお願い**

- ソフトウェア使用権許諾契約書の同意無しに使用しないで下さい。

**© 2017 Toshiba Electronic Devices & Storage Corporation**

## 目次

1.	はじめに .....	1
2.	TX03 ペリフェラルドライバの構成 .....	1
3.	ADC .....	2
3.1	概要 .....	2
3.2	API 関数 .....	2
3.2.1	関数一覧 .....	2
3.2.2	関数の種類 .....	3
3.2.3	関数仕様 .....	3
3.2.4	データ構造 .....	15
4.	CG .....	17
4.1	概要 .....	17
4.2	API 関数 .....	17
4.2.1	関数一覧 .....	17
4.2.2	関数の種類 .....	18
4.2.3	関数仕様 .....	18
4.2.4	データ構造 .....	35
5.	DAC .....	36
5.1	概要 .....	36
5.2	API 関数 .....	36
5.2.1	関数一覧 .....	36
5.2.2	関数の種類 .....	36
5.2.3	関数仕様 .....	36
5.2.4	データ構造 .....	37
6.	DMAC .....	38
6.1	概要 .....	38
6.2	API 関数 .....	38
6.2.1	関数一覧 .....	38
6.2.2	関数の種類 .....	39
6.2.3	関数仕様 .....	39
6.2.4	データ構造 .....	49
7.	EXB .....	53
7.1	概要 .....	53
7.2	API 関数 .....	53
7.2.1	関数一覧 .....	53
7.2.2	関数の種類 .....	53
7.2.3	関数仕様 .....	53
7.2.4	データ構造 .....	55
8.	FC .....	58
8.1	概要 .....	58
8.2	API 関数 .....	58
8.2.1	関数一覧 .....	58
8.2.2	関数の種類 .....	58
8.2.3	関数仕様 .....	58
8.2.4	データ構造 .....	62
9.	GPIO .....	63
9.1	概要 .....	63
9.2	API 関数 .....	63
9.2.1	関数一覧 .....	63
9.2.2	関数の種類 .....	63
9.2.3	関数仕様 .....	64
9.2.4	データ構造 .....	74
10.	OFD .....	76
10.1	概要 .....	76

10.2	API 関数.....	76
10.2.1	関数一覧.....	76
10.2.2	関数の種類.....	76
10.2.3	関数仕様.....	76
10.2.4	データ構造.....	79
11.	PHC.....	80
11.1	概要.....	80
11.2	API 関数.....	80
11.2.1	関数一覧.....	80
11.2.2	関数の種類.....	81
11.2.3	関数仕様.....	81
11.2.4	データ構造.....	86
12.	SBI.....	88
12.1	概要.....	88
12.2	API 関数.....	88
12.2.1	関数一覧.....	88
12.2.2	関数の種類.....	88
12.2.3	関数仕様.....	89
12.2.4	データ構造.....	94
13.	SSP.....	96
13.1	概要.....	96
13.2	API 関数.....	96
13.2.1	関数一覧.....	96
13.2.2	関数の種類.....	97
13.2.3	関数仕様.....	97
13.2.4	データ構造.....	105
14.	TMRB.....	107
14.1	概要.....	107
14.2	API 関数.....	107
14.2.1	関数一覧.....	107
14.2.2	関数の種類.....	108
14.2.3	関数仕様.....	108
14.2.4	データ構造.....	118
15.	TMRD.....	120
15.1	概要.....	120
15.2	API 関数.....	120
15.2.1	関数一覧.....	120
15.2.2	関数の種類.....	121
15.2.3	関数仕様.....	121
15.2.4	データ構造.....	130
16.	SIO/UART.....	132
16.1	概要.....	132
16.2	API 関数.....	132
16.2.1	関数一覧.....	132
16.2.2	関数の種類.....	133
16.2.3	関数仕様.....	133
16.2.4	データ構造.....	147
17.	WDT.....	150
17.1	概要.....	150
17.2	API 関数.....	150
17.2.1	関数一覧.....	150
17.2.2	関数の種類.....	150
17.2.3	関数仕様.....	150
17.2.4	データ構造.....	153

## 1. はじめに

本ソフトウェアは、東芝製TX03シリーズマイコンTMPM341x用ペリフェラルドライバセットです。

TX03ペリフェラルドライバでは、ユーザーアプリケーション内で各ペリフェラルを簡単に使用するためのマクロ、データ構造、関数および使用例を用意しています。

TMPM341x ペリフェラルドライバは以下の仕様に基づいています。

➤ スタートアップルーチンといくつかの関数を除き、C 言語で記述されています。

## 2. TX03 ペリフェラルドライバの構成

### **/Libraries**

TX03 CMSIS ファイルと TMPM341x ペリフェラルドライバが格納されています。

### **/Libraries/ TX03\_CMSIS**

このフォルダには TMPM341x CMSIS ファイルのデバイス・ペリフェラル・アクセス・レイヤーが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_Periph\_Driver**

TMPM341x ペリフェラルドライバの全てのソースコードが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc**

TMPM341x ペリフェラルドライバのヘッダファイルが格納されています。

### **/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src**

TMPM341x ペリフェラルドライバのソースファイルが格納されています。

### **/Project**

TMPM341x ペリフェラルドライバのテンプレートプロジェクトと使用例が格納されています。

### **/Project/Template**

TMPM341x ペリフェラルドライバのテンプレートプロジェクトが格納されています。

### **/Project/Examples**

TMPM341x ペリフェラルドライバの使用例が格納されています。

### **/Utilities/TMPM341-SK**

TMPM341-SK ボードのハードウェアリソース用の設定ファイル、およびドライバファイル (例: led, key) が格納されています。

**\*補足:** 本ドキュメントにおいて、“TMPM343x” は TMPM341FDXBG /TMPM343FYXBG です。

## 3. ADC

### 3.1 概要

本デバイスは、12ビット逐次変換方式アナログ/デジタルコンバータ(ADコンバータ)を内蔵しており、15チャンネルのアナログ入力を持っています。

12ビット A/D コンバータは、以下のような特徴があります。

- (1) 通常 AD 変換、最優先 AD 変換の起動
  - ソフトウェアによる起動
  - 外部トリガ入力(ADTRG)によるハードウェア起動
  - 16ビットタイマによる起動
- (2) 通常 AD 変換機能の動作モード
  - チャンネル固定シングル変換モード
  - チャンネルスキップシングル変換モード
  - チャンネル固定リピート変換モード
  - チャンネルスキップリピート変換モード
- (3) 最優先 AD 変換機能の動作モード
  - チャンネル固定シングル変換モード
- (4) 通常 AD 変換終了、最優先 AD 変換終了時、割り込み発生機能
- (5) 通常 AD 変換機能、最優先 AD 変換機能は以下のステータスフラグを持っています。  
AD 変換結果格納フラグ、オーバーランフラグ、AD 変換終了フラグ、AD 変換ビジーフラグ
- (6) AD 監視機能
  - AD 変換結果とあらかじめ設定した値とを比較し、特定の条件で割り込みを発生
- (7) AD 変換クロックを  $f_c$  または  $f_{PLLAD}$  から選択し、ADC 内部のプリスケアラにて 1/2～1/16 に分周可能
- (8) AD 変換終了時、2 種類の DMA リクエストをサポート
- (9) スタンバイモードをサポート
- (10) 出力スイッチングモニタ機能

ADCドライバ API は、各モジュールの設定機能を持ち、チャンネル選択、モード設定、モニタ機能設定、割り込み設定、ステータスリード、AD 変換結果の取得などの機能を提供します。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_adc.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_adc.h

### 3.2 API 関数

#### 3.2.1 関数一覧

- ◆ void ADC\_SWReset(void)
- ◆ void ADC\_SetClk(uint32\_t **Sample\_HoldTime**, uint32\_t **Prescaler\_Output**)
- ◆ void ADC\_Start(void)
- ◆ void ADC\_SetScanMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetRepeatMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetINTMode(uint8\_t **INTMode**)
- ◆ void ADC\_SetInputChannel(uint8\_t **InputChannel**)
- ◆ void ADC\_SetScanChannel(uint8\_t **StartChannel**, uint8\_t **Range**)
- ◆ void ADC\_SetVrefCut(uint8\_t **VrefCtrl**)

- ◆ void ADC\_SetIdleMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetVref(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetInputChannelTop(uint8\_t **TopInputChannel**)
- ◆ void ADC\_StartTopConvert(void)
- ◆ void ADC\_SetMonitor(ADC\_CMPCR<sub>x</sub> **ADCMP<sub>x</sub>**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_ConfigMonitor(ADC\_CMPCR<sub>x</sub> **ADCMP<sub>x</sub>**, ADC\_MonitorTypeDef\* **Monitor**)
- ◆ void ADC\_SetHWTrg(uint8\_t **HwSource**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetHWTrgTop(uint8\_t **HwSource**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ ADC\_State ADC\_GetConvertState(void)
- ◆ ADC\_Result ADC\_GetConvertResult (uint8\_t **ADREG<sub>x</sub>**)
- ◆ void ADC\_SetClkSupply(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void ADC\_SetDMAReq(uint8\_t **DMAReq**, FunctionalState **NewState**)

## 3.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

- 1) AD 変換設定:  
ADC\_SetClk(), ADC\_SetScanMode(), ADC\_SetRepeatMode(), ADC\_SetINTMode(),  
ADC\_SetInputChannel(), ADC\_SetScanChannel(), ADC\_SetVref(),  
ADC\_SetInputChannelTop(), ADC\_SetMonitor(), ADC\_ConfigMonitor(),  
ADC\_SetHWTrg(), ADC\_SetHWTrgTop()
- 2) AD 変換の許可/禁止と開始:  
ADC\_Start(), ADC\_StartTopConvert()
- 3) AD 変換ステータス/結果の読み出し:  
ADC\_GetConvertState(), ADC\_GetConvertResult()
- 4) その他:  
ADC\_SWReset(), ADC\_SetVrefCut(), ADC\_SetIdleMode(), ADC\_SetClkSupply(),  
ADC\_SetDMAReq()

## 3.2.3 関数仕様

### 3.2.3.1 ADC\_SWReset

ADC のソフトウェアリセット

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
ADC\_SWReset(void)

**引数:**

なし

**機能:**

ADC をソフトウェアリセットします。

**補足:**

ADxCLK<ADCLK>を除くレジスタは、すべて初期化されます。  
ソフトウェアリセットを行う場合、初期化に 3μs の時間が必要となります。

**戻り値:**

なし

## 3.2.3.2 ADC\_SetClk

AD 変換サンプルホールド時間とプリスケアラ出力(SCLK)の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
ADC_SetClk(uint32_t Sample_HoldTime,
           uint32_t Prescaler_Output)
```

引数:

**Sample\_HoldTime**: 以下から ADC サンプルホールド時間を選択します。

- **ADC\_CONVERSION\_CLK\_10**: 10x <ADCLK>
- **ADC\_CONVERSION\_CLK\_20**: 20x <ADCLK>
- **ADC\_CONVERSION\_CLK\_30**: 30x <ADCLK>
- **ADC\_CONVERSION\_CLK\_40**: 40x <ADCLK>
- **ADC\_CONVERSION\_CLK\_80**: 80x <ADCLK>

**Prescaler\_Output**: 以下から ADC プリスケアラ出力(ADCLK)を選択します。

- **ADC\_FC\_DIVIDE\_LEVEL\_1**: fc
- **ADC\_FC\_DIVIDE\_LEVEL\_2**: fc / 2
- **ADC\_FC\_DIVIDE\_LEVEL\_4**: fc / 4
- **ADC\_FC\_DIVIDE\_LEVEL\_8**: fc / 8

機能:

**Sample\_HoldTime** で ADC サンプルホールド時間を設定し、**Prescaler\_Output** でプリスケアラ出力を設定します。

補足:

AD変換中は、この関数を使わないでください。またAD変換状態を確認するための **ADC\_GetConvertState()** がBUSYでない場合、この関数をコールすることができます。

サンプルホールド時間と変換時間例は下記のようになります。

<b>Prescaler_Output</b>	<b>Sample_HoldTime</b>	<b>Conversion time</b>		
		fc=32MHz	fc=40MHz	fc=54MHz
ADC_FC_DIVIDE_LEVEL_1 (fc)	ADC_CONVERSION_CLK_10	1.25 $\mu$ s	1.00 $\mu$ s	-
	ADC_CONVERSION_CLK_20	1.56 $\mu$ s	1.25 $\mu$ s	-
	ADC_CONVERSION_CLK_30	1.88 $\mu$ s	1.50 $\mu$ s	-
	ADC_CONVERSION_CLK_40	2.19 $\mu$ s	1.75 $\mu$ s	-
	ADC_CONVERSION_CLK_80	3.44 $\mu$ s	2.75 $\mu$ s	-
ADC_FC_DIVIDE_LEVEL_2 (fc / 2)	ADC_CONVERSION_CLK_10	2.50 $\mu$ s	2.00 $\mu$ s	1.48 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_20	3.13 $\mu$ s	2.50 $\mu$ s	1.85 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_30	3.75 $\mu$ s	3.00 $\mu$ s	2.22 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_40	4.38 $\mu$ s	3.50 $\mu$ s	2.59 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_80	6.88 $\mu$ s	5.50 $\mu$ s	4.07 $\mu$ s
ADC_FC_DIVIDE_LEVEL_4 (fc / 4)	ADC_CONVERSION_CLK_10	5.00 $\mu$ s	4.00 $\mu$ s	2.96 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_20	6.25 $\mu$ s	5.00 $\mu$ s	3.70 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_30	7.50 $\mu$ s	6.00 $\mu$ s	4.44 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_40	8.75 $\mu$ s	7.00 $\mu$ s	5.19 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_80	-	-	8.15 $\mu$ s
ADC_FC_DIVIDE_LEVEL_8 (fc / 8)	ADC_CONVERSION_CLK_10	10.0 $\mu$ s	8.00 $\mu$ s	5.93 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_20	-	10.0 $\mu$ s	7.41 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_30	-	-	8.89 $\mu$ s
	ADC_CONVERSION_CLK_40	-	-	-



	ADC_CONVERSION_CLK_80	-	-	-
--	-----------------------	---	---	---

上記一覧で"-"で示される部分の設定は禁止されています。ADCLK は1 $\mu$ s から10 $\mu$ s 間の値で設定してください。

戻り値:

なし

### 3.2.3.3 ADC\_Start

AD 変換の開始

関数のプロトタイプ宣言:

void

ADC\_Start(void)

引数:

なし

機能:

AD 変換を開始します。

補足:

この関数をコールする前に、以下のいずれかのモードを選択してください:

チャンネル固定シングル変換モード

チャンネルスキャンシングル変換モード

チャンネル固定リピート変換モード

チャンネルスキャンリピート変換モード

詳細は、ADC\_SetScanMode(), ADC\_SetRepeatMode(),

ADC\_SetInputChannel(), ADC\_SetScanChannel() を参照してください。

AD 変換をスタートさせる場合、ADC\_SetVref (ENABLE)をコールして Vref を有効にしてください。なお、Vref 有効後、3  $\mu$ s の安定時間が必要です。その後、ADC\_Start()をコールしてください。

戻り値:

なし

### 3.2.3.4 ADC\_SetScanMode

スキャンモードの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

ADC\_SetScanMode(FunctionalState *NewState*)

引数:

**NewState:** 以下から、スキャンモードを設定します。

➤ **ENABLE:** チャンネルスキャン

➤ **DISABLE:** チャンネル固定

**機能:**

AD 変換スキャンモードを設定します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.5 ADC\_SetRepeatMode

リピートモードの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

ADC\_SetRepeatMode(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState**: 以下から、リピートモードを設定します。

- **ENABLE**: リピート変換
- **DISABLE**: シングル変換

**機能:**

リピートモードを設定します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.6 ADC\_SetINTMode

チャンネル固定リピート変換モード時の割り込みタイミングの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

ADC\_SetINTMode(uint8\_t **INTMode**)

**引数:**

**INTMode**: 以下から、割り込みタイミングを選択します。

- **ADC\_INT\_SINGLE**: 1 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_2**: 2 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_3**: 3 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_4**: 4 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_5**: 5 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_6**: 6 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_7**: 7 回毎、割り込み発生
- **ADC\_INT\_CONVERSION\_8**: 8 回毎、割り込み発生

**機能:**

チャンネル固定リピート変換モード時の割り込みタイミングを設定します。

**補足:**

この関数は、チャンネル固定リピート変換モード時のみ有効です。

以下は、チャンネル固定リピート変換モードの例です:

1. **ADC\_SetScanMode(DISABLE)**.

## 2. ADC\_SetRepeatMode(ENABLE).

戻り値:  
なし

### 3.2.3.7 ADC\_SetInputChannel

アナログ入力チャネルの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetInputChannel(uint8_t InputChannel)
```

引数:

**InputChannel:** 以下から、いずれか 1 つのアナログ入力チャネルを使用します。

ADC\_AN\_00, ADC\_AN\_01, ADC\_AN\_02, ADC\_AN\_03,  
ADC\_AN\_04, ADC\_AN\_05, ADC\_AN\_06, ADC\_AN\_07,  
ADC\_AN\_08, ADC\_AN\_09, ADC\_AN\_10, ADC\_AN\_11,  
ADC\_AN\_12, ADC\_AN\_13, ADC\_AN\_14.

機能:

アナログ入力チャネルを選択します。

補足:

通常変換入力の場合 1 チャネルのみ選択できます。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.8 ADC\_SetScanChannel

スキャンチャネルの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetScanChannel (uint8_t StartChannel, uint8_t Range)
```

引数:

**StartChannel:** 以下から、チャネルスキャンの先頭チャネルを設定します。

ADC\_AN\_00, ADC\_AN\_01, ADC\_AN\_02, ADC\_AN\_03,  
ADC\_AN\_04, ADC\_AN\_05, ADC\_AN\_06, ADC\_AN\_07,  
ADC\_AN\_08, ADC\_AN\_09, ADC\_AN\_10, ADC\_AN\_11,  
ADC\_AN\_12, ADC\_AN\_13, ADC\_AN\_14.

**Range:** チャネルスキャンの範囲を 1～15 のいずれか選択できます。

機能:

**StartChannel** にてチャネルスキャンの先頭チャネルの設定を、**Range** にてチャネルスキャンの範囲を設定します。

補足:

設定可能なチャネルスキャンの範囲を下表に示します。

<i>StartChannel</i>	<i>Range</i>
ADC_AN_00	1 ~ 15
ADC_AN_01	1 ~ 14
ADC_AN_02	1 ~ 13
ADC_AN_03	1 ~ 12
ADC_AN_04	1 ~ 11
ADC_AN_05	1 ~ 10
ADC_AN_06	1 ~ 9
ADC_AN_07	1 ~ 8
ADC_AN_08	1 ~ 7
ADC_AN_09	1 ~ 6
ADC_AN_10	1 ~ 5
ADC_AN_11	1 ~ 4
ADC_AN_12	1 ~ 3
ADC_AN_13	1 ~ 2
ADC_AN_14	1

上記以外の場合、**ADC\_Start()**をコールしても AD 変換は行われません。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.9 ADC\_SetVrefCut

AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
ADC_SetVrefCut(uint8_t VrefCtrl)
```

引数:

**VrefCtrl**: AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流を制御します。

- **ADC\_APPLY\_VREF\_IN\_CONVERSION**: 変換中のみ通電
- **ADC\_APPLY\_VREF\_AT\_ANY\_TIME**: リセット時以外常時通電

機能:

AVREFH-AVREFL 間のリファレンス電流を制御します。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.10 ADC\_SetIdleMode

IDLE モード時の ADC 動作制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
ADC_SetIdleMode(FunctionalState NewState)
```

引数:

**NewState**: 以下から、IDLE モード時の ADC 動作を選択します。

- **ENABLE**: 動作

➤ **DISABLE:** 停止

**機能:**

IDLE モード時の ADC 動作を制御します。

IDLE モードに移行する前にこの関数をコールする必要があります。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.11 ADC\_SetVref

Vref 回路の on/off 制御

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

ADC\_SetVref(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:** 以下から、Vref 回路の状態を選択します。

➤ **ENABLE:** ON

➤ **DISABLE:** OFF

**機能:**

Vref 回路の on/off を制御します。

**補足:**

低消費電力モードに移行する前に、**ADC\_SetVref(DISABLE)** をコールしてください。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.12 ADC\_SetInputChannelTop

最優先 AD 変換入力チャネルの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

ADC\_SetInputChannelTop(uint8\_t **TopInputChannel**)

**引数:**

**TopInputChannel:** 以下から、最優先 AD 変換入力チャネルを選択します。

**ADC\_AN\_00, ADC\_AN\_01, ADC\_AN\_02, ADC\_AN\_03,**

**ADC\_AN\_04, ADC\_AN\_05, ADC\_AN\_06, ADC\_AN\_07,**

**ADC\_AN\_08, ADC\_AN\_09, ADC\_AN\_10, ADC\_AN\_11,**

**ADC\_AN\_12, ADC\_AN\_13, ADC\_AN\_14.**

**機能:**

最優先 AD 変換入力チャネルを設定します。

**補足:**

最優先 AD 変換入力を 1 チャネルのみ選択できます。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.13 ADC\_StartTopConvert

最優先 AD 変換の開始

関数のプロトタイプ宣言:

void  
ADC\_StartTopConvert(void

引数:  
なし

機能:

最優先 AD 変換を開始します。

補足:

この関数をコールする前 **ADC\_SetInputChannelTop()**をコールしてください。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.14 ADC\_SetMonitor

AD 監視機能の許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void  
ADC\_SetMonitor(ADC\_CMPCR<sub>x</sub> **ADCMP<sub>x</sub>**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**ADCMP<sub>x</sub>**: 以下から、監視機能設定レジスタを選択します。

- **ADC\_CMPCR\_0**: ADCMPCR0
- **ADC\_CMPCR\_1**: ADCMPCR1

**NewState**: 以下から、監視機能を設定します。

- **ENABLE**: 許可(条件成立で AD 監視割り込みを発生します)
- **DISABLE**: 禁止(大小判定カウント数はクリア)

機能:

本デバイスは、2つの AD 監視機能を持ち、それぞれ設定レジスタで制御します。  
ADCMP<sub>x</sub> 設定で AD 監視レジスタを選択し、NewState で許可/禁止を設定します。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.15 ADC\_ConfigMonitor

AD 監視機能の設定

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_ConfigMonitor(ADC_CMPCRx ADCMPx,  
                  ADC_MonitorTypeDef * Monitor)
```

## 引数:

**ADCMP<sub>x</sub>**: 以下から、AD 変換レジスタを選択します。

- **ADC\_CMPCR\_0**: ADCMPCR0
- **ADC\_CMPCR\_1**: ADCMPCR1

**Monitor**: AD 監視機能に関する構造体で、大小判定カウント数、判定カウント条件、判定条件、比較対象のアナログ入力チャネルが含まれます。詳細は"データ構成"の ADC\_MonitorTypeDef を参照してください。

## 機能:

本デバイスは、2つの AD 監視機能を持ち、それぞれ設定レジスタで制御します。

**ADCMP<sub>x</sub>** 設定で AD 監視レジスタを選択し、**Monitor** で監視機能を設定します。

**補足**: この関数をコールする前に ADC 監視機能を禁止してください。

## 戻り値:

なし

### 3.2.3.16 ADC\_SetHWTrg

通常 AD 変換を開始するためのハードウェア起動要因の選択

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetHWTrg(uint8_t HwSource,  
              FunctionalState NewState)
```

## 引数:

**HwSource**: 以下から、通常 AD 変換のハードウェア起動要因を選択します。

- **ADC\_EXT\_TRG**: ADTRG 端子で起動することが可能です。
- **ADC\_MATCH\_TB5RG0**: 16 ビットタイマ/イベントカウンタのコンペアレジスタ 0 一致割り込みで起動することが可能です。(TB5RG0)

**NewState**: 以下から、ハードウェア起因による通常 AD 変換開始の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

## 機能:

**HwSource** の設定により通常 AD 変換のハードウェア起動要因を設定し、**NewState** により通常 AD 変換のハードウェア起動の許可/禁止を選択します。

この関数は TB5 の設定にも関連しています。

## 補足:

最優先 AD 変換のハードウェア起動要因に使用する場合、外部トリガを通常 AD 変換のハードウェア要因起動に使用することはできません。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.17 ADC\_SetHWTrgTop

最優先 AD 変換を開始するためのハードウェア起動要因の選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
ADC_SetHWTrgTop(uint8_t HwSource,  
                 FunctionalState NewState)
```

引数:

**HwSource**: 以下から、最優先 AD 変換のハードウェア起動要因を選択します。

- **ADC\_EXT\_TRG**: ADTRG 端子で起動することが可能です。
- **ADC\_MATCH\_TB4RG0**: 16 ビットタイマ/イベントカウンタのコンペアレジスタ 0 一致割り込みで起動することが可能です。(TB4RG0)

**NewState**: 以下から、ハードウェア起因による通常 AD 変換開始の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

**HwSource** の設定により最優先 AD 変換のハードウェア起動要因を設定し、**NewState** により最優先 AD 変換のハードウェア起動の許可/禁止を選択します。  
この関数は TB4 の設定にも関連しています。

補足:

最優先 AD 変換のハードウェア起動要因に使用する場合、外部トリガを通常 AD 変換のハードウェア要因起動に使用することはできません。

戻り値:  
なし

### 3.2.3.18 ADC\_GetConvertState

AD 変換終了フラグの取得(通常と最優先)

関数のプロトタイプ宣言:

```
WorkState  
ADC_GetConvertState(void)
```

引数:

なし

機能:

AD 変換終了フラグ (通常と最優先の両方)を取得します。この関数は、AD 変換が終了したかどうかを確認するために使います。



戻り値:

AD 変換状態:

**NormalComplete** (Bit 1) : 通常 AD 変換終了

**TopComplete** (Bit 3) : 最優先 AD 変換終了

### 3.2.3.19 ADC\_GetConvertResult

AD 変換結果の取得

関数のプロトタイプ宣言:

ADC\_Result

ADC\_GetConvertResult(uint8\_t **ADREGx**)

引数:

**ADREGx**: 以下から、ADC 変換結果レジスタを選択します。

**ADC\_REG\_00, ADC\_REG\_01, ADC\_REG\_02, ADC\_REG\_03,**  
**ADC\_REG\_04, ADC\_REG\_05, ADC\_REG\_06, ADC\_REG\_07,**  
**ADC\_REG\_08, ADC\_REG\_09, ADC\_REG\_10, ADC\_REG\_11,**  
**ADC\_REG\_12, ADC\_REG\_13, ADC\_REG\_14, ADC\_REG\_SP.**

機能:

AD 変換結果格納フラグ、オーバーランフラグ、変換結果を取得します。

補足:

変換結果が格納されると AD 変換格納フラグ **ADREGx** が **DONE** になります。本関数によって変換結果が読み出されると、AD 変換結果格納フラグ **ADREGx** がクリアされます。

変換結果格納レジスタ(ADREGx)の値が読み出される前に変換結果が上書きされた場合、AD 変換結果格納フラグ **ADREGx** に **ADC\_OVERRUN** がセットされます。本関数によってオーバーランフラグが読み出されるとオーバーランフラグがクリアされます。

アナログチャンネル入力と AD 変換結果レジスタの関係を下表に示します。

チャンネル固定シングル変換モード	
チャンネル	格納レジスタ
ADC_AN_00	ADC_REG_00
ADC_AN_01	ADC_REG_01
ADC_AN_02	ADC_REG_02
ADC_AN_03	ADC_REG_03
ADC_AN_04	ADC_REG_04
ADC_AN_05	ADC_REG_05
ADC_AN_06	ADC_REG_06
ADC_AN_07	ADC_REG_07
ADC_AN_08	ADC_REG_08
ADC_AN_09	ADC_REG_09
ADC_AN_10	ADC_REG_10
ADC_AN_11	ADC_REG_11
ADC_AN_12	ADC_REG_12
ADC_AN_13	ADC_REG_13
ADC_AN_14	ADC_REG_14

チャンネル固定リポート変換モード	
割り込み発生タイミング	格納レジスタ
Interrupt by each time AD/C	ADC_REG_00
Interrupt by each time 2 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_01
Interrupt by each time 3 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_02
Interrupt by each time 4 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_03
Interrupt by each time 5 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_04
Interrupt by each time 6 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_05
Interrupt by each time 7 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_06
Interrupt by each time 8 AD/C	ADC_REG_00 to ADC_REG_07

チャンネルスキャンシング変換モード / リポート変換モード		
スタートチャンネル	スキャンチャンネル幅	格納レジスタ
ADC_AN_00	15 channels	ADC_REG_00 to ADC_REG_14
ADC_AN_01	14 channels	ADC_REG_01 to ADC_REG_14
ADC_AN_02	13 channels	ADC_REG_02 to ADC_REG_14
ADC_AN_03	12 channels	ADC_REG_03 to ADC_REG_14
ADC_AN_04	11 channels	ADC_REG_04 to ADC_REG_14
ADC_AN_05	10 channels	ADC_REG_05 to ADC_REG_14
ADC_AN_06	9 channels	ADC_REG_06 to ADC_REG_14
ADC_AN_07	8 channels	ADC_REG_07 to ADC_REG_14
ADC_AN_08	7 channels	ADC_REG_08 to ADC_REG_14
ADC_AN_09	6 channels	ADC_REG_09 to ADC_REG_14
ADC_AN_10	5 channels	ADC_REG_10 to ADC_REG_14
ADC_AN_11	4 channels	ADC_REG_11 to ADC_REG_14
ADC_AN_12	3 channels	ADC_REG_12 to ADC_REG_14
ADC_AN_13	2 channels	ADC_REG_13 to ADC_REG_14
ADC_AN_14	1 channel	ADC_REG_14

The AD 変換モードの詳細は、関連 API を参照ください。  
最優先 AD 変換結果は、ADC\_REG\_SP に格納されます。

戻り値:

AD 変換結果:

**ADResult** (Bit 0 ~ Bit 11) : AD 変換結果が格納されます

**Stored** (Bit 12) : AD 変換結果格納フラグ

**OverRun** (Bit 13) : オーバーランフラグ

**OutputSwitching** (Bit 14) : AIN 兼用ポートの出力スイッチングフラグ

### 3.2.3.20 ADC\_SetClkSupply

ADC クロック選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

ADC\_SetClkSupply(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: 以下から、ADC クロックを選択します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

**機能:**

ADC クロックを選択します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.3.21 ADC\_SetDMAReq

通常 AD 変換、最優先 AD 変換の各 DMA 起動要因の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
ADC_SetDMAReq(uint8_t DMAReq,  
               FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**DMAReq**: 以下から AD 変換の種類を選択します。

- **ADC\_DMA\_REQ\_NORMAL**: 通常 AD 変換
- **ADC\_DMA\_REQ\_TOP**: 最優先 AD 変換

**NewState**: 以下から DMA 起動の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**機能:**

通常 AD 変換、最優先 AD 変換の各 DMA 起動要因を選択します。

**戻り値:**

なし

### 3.2.4 データ構造

#### 3.2.4.1 ADC\_MonitorTypeDef

**メンバ:**

uint8\_t

**CmpChannel**: 以下から、比較対象のアナログ入力チャネルを選択します:

**ADC\_AN\_00**, **ADC\_AN\_01**, **ADC\_AN\_02**, **ADC\_AN\_03**,  
**ADC\_AN\_04**, **ADC\_AN\_05**, **ADC\_AN\_06**, **ADC\_AN\_07**,  
**ADC\_AN\_08**, **ADC\_AN\_09**, **ADC\_AN\_10**, **ADC\_AN\_11**,  
**ADC\_AN\_12**, **ADC\_AN\_13**, **ADC\_AN\_14**.

uint32\_t

**CmpCnt**: 大小判定カウンタ数を選択します。(1 ~ 16)

ADC\_CmpCondition

**Condition**: 以下から、判定条件を選択します。

- **ADC\_LARGER\_THAN\_CMP\_REG**: 比較レジスタ(ADCMPn (n=0/1))より AD 変換結果が大
- **ADC\_SMALLER\_THAN\_CMP\_REG**: 比較レジスタ(ADCMPn (n=0/1))より AD 変換結果が小

ADC\_CmpCntMode

**CntMode** : 以下から、判定カウント条件を選択します。

- **ADC\_SEQUENCE\_CMP\_MODE**: 連続方式
- **ADC\_CUMULATION\_CMP\_MODE**: 蓄積方式

uint32\_t

**CmpValue** : AD 変換結果比較値を設定します。(0 ~ 4095)

## 3.2.4.2 ADC\_State

メンバ:

uint32\_t

**All** : すべての AD 変換状態

ビットフィールド:

uint32\_t

**Reserved0** (Bit 0) : 未使用

uint32\_t

**NormalComplete** (Bit 1) : 通常 AD 変換終了フラグ

uint32\_t

**Reserved1** (Bit 2) : 未使用

uint32\_t

**TopComplete** (Bit 3) : 最優先 AD 変換終了フラグ

uint32\_t

**Reserved2** (Bit 4 ~ Bit 31) : 未使用

## 3.2.4.3 ADC\_Result

メンバ:

uint32\_t

**All** : すべての AD 変換結果

ビットフィールド:

uint32\_t

**ADResult** (Bit 0 ~ Bit 11) : AD 変換結果の値

uint32\_t

**Stored** (Bit 12) : AD 結果終了フラグ

uint32\_t

**OverRun** (Bit 13) : オーバーランフラグ

uint32\_t

**OutputSwitching** (Bit 14) : AIN 兼用ポートの出力スイッチングフラグ

uint32\_t

**Reserved** (Bit 15 to Bit 31) : 未使用

## 4. CG

### 4.1 概要

本 CG API は以下の機能を提供します。

- 高速発振器、PLL(逡倍回路)の設定
- クロックギア、プリスケールクロック、PLL、発振器の設定
- ウォームアップタイマの設定と結果の読み出し
- 低消費電力モードの設定
- 動作モードの変更 (ノーマルモード、低消費電力モード)
- スタンバイモードに関する割り込みの設定

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_cg.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_cg.h

CG のクロックとして、以下のシンボルを使用しています。詳しくは MCU データシートの「クロックシステムブロック図」を参照してください。

**fosc** : 内部発振回路で生成されるクロック、X1、X2 端子より入力されるクロック

**fPLL** : PLL により逡倍されたクロック

**fc** : CGPLLSEL<PLL0SEL>で選択されたクロック(高速クロック)

**fgear** : CGSYSCR<GEAR[2:0]>で選択されたクロック

**fsys** : fgear と同等のクロック

**fperiph** : CGSYSCR<FPSEL>で選択されたクロック

**ΦT0** : CGSYSCR<PRCK[2:0]>で選択されたクロック (プリスケールクロック)

### 4.2 API 関数

#### 4.2.1 関数一覧

- ◆ void CG\_SetFgearLevel(CG\_DivideLevel **DivideFgearFromFc**)
- ◆ CG\_DivideLevel CG\_GetFgearLevel(void)
- ◆ void CG\_SetPhiT0Src(CG\_PhiT0Src **PhiT0Src**)
- ◆ CG\_PhiT0Src CG\_GetPhiT0Src(void)
- ◆ Result CG\_SetPhiT0Level(CG\_DivideLevel **DividePhiT0FromFc**)
- ◆ CG\_DivideLevel CG\_GetPhiT0Level(void)
- ◆ void CG\_SetSCOUTSrc(CG\_SCOUTSrc **Source**)
- ◆ CG\_SCOUTSrc CG\_GetSCOUTSrc(void)
- ◆ void CG\_SetWarmUpTime(CG\_WarmUpSrc **Source**, uint16\_t **Time**)
- ◆ void CG\_StartWarmUp(void)
- ◆ WorkState CG\_GetWarmUpState(void)
- ◆ Result CG\_SetFPLLValue(CG\_FpllValue **Newville**)
- ◆ CG\_FpllValue CG\_GetFPLLValue(void)
- ◆ Result CG\_SetPLL(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetPLLState(void)
- ◆ Result CG\_SetFosc(CG\_FoscSrc **Source**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void CG\_SetFoscSrc(CG\_FoscSrc **Source**)

- ◆ CG\_FoscSrc CG\_GetFoscSrc(void)
- ◆ FunctionalState CG\_GetFoscState(CG\_FoscSrc **Source**)
- ◆ void CG\_SetSTBYMode(CG\_STBYMode **Mode**)
- ◆ CG\_STBYMode CG\_GetSTBYMode(void)
- ◆ void CG\_SetPinStateInStop1Mode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetPinStateInStop1Mode(void)
- ◆ void CG\_SetPortKeepInStop2Mode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetPortKeepInStop2Mode(void)
- ◆ Result CG\_SetFcSrc(CG\_FcSrc **Source**)
- ◆ CG\_FcSrc CG\_GetFcSrc(void)
- ◆ void CG\_SetFtmrdSrc(CG\_FtmrdSrc **FtmrdSrc**)
- ◆ CG\_FtmrdSrc CG\_GetFtmrdSrc(void)
- ◆ void CG\_SetTMRDClk(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState CG\_GetTMRDClkState(void)
- ◆ void CG\_SetProtectCtrl(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void CG\_SetSTBYReleaseINTSrc(CG\_INTSrc **INTSource**,  
CG\_INTActiveState **ActiveState**,  
FunctionalState **NewState**)
- ◆ CG\_INTActiveState CG\_GetSTBYReleaseINTState(CG\_INTSrc **INTSource**)
- ◆ void CG\_ClearINTReq(CG\_INTSrc **INTSource**)
- ◆ CG\_NMIFactor CG\_GetNMIFlag(void)
- ◆ CG\_ResetFlag CG\_GetResetFlag(void)

## 4.2.2 関数の種類

上記関数は以下の 3 種類に分けられます。

- 1) クロックの選択:  
CG\_SetFgearLevel(), CG\_GetFgearLevel(), CG\_SetPhiT0Src(), CG\_GetPhiT0Src(),  
CG\_SetPhiT0Level(), CG\_GetPhiT0Level(), CG\_SetSCOUTSrc(),  
CG\_GetSCOUTSrc(), CG\_SetWarmUpTime(), CG\_StartWarmUp(),  
CG\_GetWarmUpState(), CG\_SetFPLLValue(), CG\_GetFPLLValue(), CG\_SetPLL(),  
CG\_GetPLLState(), CG\_SetFosc(), CG\_SetFoscSrc(), CG\_GetFoscSrc(),  
CG\_GetFoscState(), CG\_SetFcSrc(), CG\_GetFcSrc(), CG\_SetFtmrdSrc(),  
CG\_GetFtmrdSrc(), CG\_SetTMRDClk(), CG\_GetTMRDClkState(),  
CG\_SetProtectCtrl()
- 2) スタンバイモードの設定:  
CG\_SetSTBYMode(), CG\_GetSTBYMode(), CG\_SetPinStateInStop1Mode(),  
CG\_GetPinStateInStop1Mode(), CG\_SetPortKeepInStop2Mode(),  
CG\_GetPortKeepInStop2Mode()
- 3) 割り込みの設定:  
CG\_SetSTBYReleaseINTSrc(), CG\_GetSTBYReleaseINTState(), CG\_ClearINTReq(),  
CG\_GetNMIFlag(), CG\_GetResetFlag()

## 4.2.3 関数仕様

### 4.2.3.1 CG\_SetFgearLevel

fgear,fc 間の分周レベル設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetFgearLevel(CG_DivideLevel DivideFgearFromFc)
```

引数:

**DivideFgearFromFc:** 以下から、fgear,fc 間の分周レベルを選択します。

- **CG\_DIVIDE\_1:** fgear = fc
- **CG\_DIVIDE\_2:** fgear = fc/2
- **CG\_DIVIDE\_4:** fgear = fc/4
- **CG\_DIVIDE\_8:** fgear = fc/8
- **CG\_DIVIDE\_16:** fgear = fc/16

**機能:**

fgear,fc 間の分周レベルを設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.2 CG\_GetFgearLevel

fgear,fc 間の分周レベルの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_DivideLevel

CG\_GetFgearLevel(void)

**引数:**

なし。

**機能:**

fgear,fc 間の分周レベルを取得します。レジスタから読み出した値が“Reserved” の場合、**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN** を返します。

**戻り値:**

fgear, fc 間の分周レベルで、下記のいずれかの値になります。

**CG\_DIVIDE\_1:** fgear = fc

**CG\_DIVIDE\_2:** fgear = fc/2

**CG\_DIVIDE\_4:** fgear = fc/4

**CG\_DIVIDE\_8:** fgear = fc/8

**CG\_DIVIDE\_16:** fgear = fc/16

**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN:** 無効

#### 4.2.3.3 CG\_SetPhiT0Src

PhiT0(fperiph)ソースの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetPhiT0Src(CG\_PhiT0Src **PhiT0Src**)

**引数:**

**PhiT0Src:** 以下から PhiT0 ソースを選択します。

➤ **CG\_PHIT0\_SRC\_FGEAR :** fgear が PhiT0 ソース

➤ **CG\_PHIT0\_SRC\_FC:** fc が PhiT0 ソース

**機能:**

PhiT0 (ΦT0) ソースを選択します。

戻り値:  
なし

#### 4.2.3.4 CG\_GetPhiT0Src

PhiT0 (ΦT0) ソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:  
CG\_PhiT0Src  
CG\_GetPhiT0Src(void)

引数:  
なし。

機能:  
PhiT0 (ΦT0) ソースを取得します。

戻り値:  
**CG\_PHIT0\_SRC\_FGEAR** : fgear が PhiT0 ソース  
**CG\_PHIT0\_SRC\_FC** : fc が PhiT0 ソース

#### 4.2.3.5 CG\_SetPhiT0Level

PhiT0 (ΦT0) と fc 間の分周レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:  
Result  
CG\_SetPhiT0Level(CG\_DivideLevel **DividePhiT0FromFc**)

引数:  
**DividePhiT0FromFc**: PhiT0 (ΦT0) と fc 間の分周レベルを下記の値から設定します。

- **CG\_DIVIDE\_1**: ΦT0 = fc
- **CG\_DIVIDE\_2**: ΦT0 = fc/2
- **CG\_DIVIDE\_4**: ΦT0 = fc/4
- **CG\_DIVIDE\_8**: ΦT0 = fc/8
- **CG\_DIVIDE\_16**: ΦT0 = fc/16
- **CG\_DIVIDE\_32**: ΦT0 = fc/32
- **CG\_DIVIDE\_64**: ΦT0 = fc/64
- **CG\_DIVIDE\_128**: ΦT0 = fc/128
- **CG\_DIVIDE\_256**: ΦT0 = fc/256
- **CG\_DIVIDE\_512**: ΦT0 = fc/512

機能:  
プリスケラークロックの分周レベルを設定します。

戻り値:  
**SUCCESS**: 設定成功  
**ERROR**: エラー

#### 4.2.3.6 CG\_GetPhiT0Level

PhiT0(ΦT0) ,fc 間の分周レベルの取得



**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_DivideLevel

CG\_GetPhiT0Level(void)

**引数:**

なし。

**機能:**

PhiT0( $\Phi T0$ ),  $fc$  間の分周レベルを取得します。レジスタから読み出した値が“Reserved”の場合、**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN** を返します。

**戻り値:**

PhiT0( $\Phi T0$ ),  $fc$  間の分周レベル:

**CG\_DIVIDE\_1**:  $\Phi T0 = fc$

**CG\_DIVIDE\_2**:  $\Phi T0 = fc/2$

**CG\_DIVIDE\_4**:  $\Phi T0 = fc/4$

**CG\_DIVIDE\_8**:  $\Phi T0 = fc/8$

**CG\_DIVIDE\_16**:  $\Phi T0 = fc/16$

**CG\_DIVIDE\_32**:  $\Phi T0 = fc/32$

**CG\_DIVIDE\_64**:  $\Phi T0 = fc/64$

**CG\_DIVIDE\_128**:  $\Phi T0 = fc/128$

**CG\_DIVIDE\_256**:  $\Phi T0 = fc/256$

**CG\_DIVIDE\_512**:  $\Phi T0 = fc/512$

**CG\_DIVIDE\_UNKNOWN**: 無効データ

#### 4.2.3.7 CG\_SetSCOUTSrc

SCOUT 出力ソースクロック設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetSCOUTSrc(CG\_SCOUTSrc **Source**)

**引数:**

**Source**: 以下から、SCOUT 出力のソースクロックを選択します。

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_HALF\_FSYS**:  $fsys/2$  に設定

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_FSYS**:  $fsys$  に設定

➤ **CG\_SCOUT\_SRC\_PHIT0**:  $\Phi T0$  に設定

**機能:**

SCOUT 出力のソースクロックを設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.8 CG\_GetSCOUTSrc

SCOUT 出力ソースクロック設定の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

SCOUTSrc

CG\_GetSCOUTSrc(void)

引数:

なし

機能:

SCOUT 出力ソースクロック設定を取得します。

戻り値:

SCOUT 出力のソースクロック:

- **CG\_SCOUT\_SRC\_HALF\_FSYS**: fsys/2 に設定
- **CG\_SCOUT\_SRC\_FSYS**: fsys に設定
- **CG\_SCOUT\_SRC\_PHIT0**:  $\phi T0$  に設定
- **CG\_SCOUT\_SRC\_UNKNOWN**: 無効データ

## 4.2.3.9 CG\_SetWarmUpTime

ウォーミングアップ時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG\_SetWarmUpTime(CG\_WarmUpSrc **Source**,  
uint16\_t **Time**)

引数:

**Source**: 以下から、ウォーミングアップカウンタのソースクロックを選択します。

- **CG\_WARM\_UP\_SRC\_OSC\_INT**: 内部高速発振器を選択
- **CG\_WARM\_UP\_SRC\_OSC\_EXT**: 外部高速発振器を選択

**Time**: ウォーミングアップタイマーのカウント数を選択します。最大値は 0xFFFF です。

機能:

ウォーミングアップ時間とウォーミングアップカウンタを設定します。計算式は下記になります。

ウォーミングアップサイクル数 = (ウォーミングアップ時間) / (ウォームアップクロック周期)

高速発振子 8MHz 使用時、ウォーミングアップ時間 5ms を設定する場合のウォーミングアップサイクル数は以下になります:

(ウォーミングアップ時間) / (ウォームアップクロック周期) = 5ms / (1/8MHz) = 4000cycle = 0x9C40

従って、**Time** = 0x9C40 となります。

戻り値:

なし

## 4.2.3.10 CG\_StartWarmUp

ウォーミングアップ開始

関数のプロトタイプ宣言:

void  
CG\_StartWarmUp(void)

引数:  
なし。

機能:  
ウォーミングアップを開始します。

戻り値:  
なし

#### 4.2.3.11 CG\_GetWarmUpState

ウォーミングアップ動作状態 (動作中、完了)の確認

関数のプロトタイプ宣言:  
WorkState  
CG\_GetWarmUpState(void)

引数:  
なし。

機能:  
ウォーミングアップ動作状態を確認します。

```
Example of using warm-up timer:  
CG_SetWarmUpTime(CG_WARM_UP_SRC_OSC_EXT, 0x32);  
/* start warm up */  
CG_StartWarmUp();  
/* check warm up is finished or not*/  
While( CG_GetWarmUpState() == BUSY);
```

戻り値:  
ウォーミングアップ動作状態:  
**DONE**:ウォーミングアップ動作終了  
**BUSY**:ウォーミングアップ動作中

#### 4.2.3.12 CG\_SetFPLLValue

PLL (fsys 用)の逡倍値を設定

関数のプロトタイプ宣言:  
Result  
CG\_SetFPLLValue(CG\_FpllValue **NewValue**)

引数:  
**NewValue**:  
➤ **CG\_FPLL\_MULTIPLY\_8**: 8 逡倍  
➤ **CG\_FPLL\_MULTIPLY\_16**: 16 逡倍

機能:  
PLL (fsys 用)の逡倍値を設定します。

戻り値:

**SUCCESS:** 成功

**ERROR:** 失敗

## 4.2.3.13 CG\_GetFPLLValue

PLL 通倍値の取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG\_FpllValue

CG\_GetFPLLValue(void)

引数:

なし

機能:

PLL 通倍値を取得します。

レジスタ値が“Reserved”の場合、本 API の戻り値は **CG\_FPLL\_MULTIPLY\_UNKNOWN** です。

戻り値:

PLL 通倍値:

**CG\_FPLL\_MULTIPLY\_8:** 8 通倍値

**CG\_FPLL\_MULTIPLY\_16:** 16 通倍値

**CG\_FPLL\_MULTIPLY\_UNKNOWN:** 無効値

## 4.2.3.14 CG\_SetPLL

PLL 回路の設定

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG\_SetPLL(FunctionalState *NewState*)

引数:

**NewState:**

- **ENABLE:** PLL 回路を使用する
- **DISABLE:** PLL 回路を使用しない

機能:

PLL 回路の有効/無効を設定します。

戻り値:

**SUCCESS:** 成功

**ERROR:** 失敗

## 4.2.3.15 CG\_GetPLLState

PLL 回路の状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

CG\_GetPLLState(void)

**引数:**

なし。

**機能:**

PLL 回路の状態を取得します。

**戻り値:**

PLL 回路の状態

**ENABLE:** PLL 有効

**DISABLE:** PLL 無効

## 4.2.3.16 CG\_SetFosc

高速発振器(fosc)の有効/無効設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

Result

CG\_SetFosc(CG\_FoscSrc **Source**,  
FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**Source:** 以下から、fosc のソースクロックを選択します。

- **CG\_FOSC\_OSC\_EXT:** 外部高速発信
- **CG\_FOSC\_OSC\_INT:** 内部高速発信

**NewState:** 以下から、高速発振器の有効/無効を設定します。

- **ENABLE:** 有効
- **DISABLE:** 無効

**機能:**

高速発信器の有効/無効を設定します。

**戻り値:**

**SUCCESS:** 成功

**ERROR:** 失敗

## 4.2.3.17 CG\_SetFoscSrc

高速発振器(fosc)のソース設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetFoscSrc(CG\_FoscSrc Source)

**引数:**

**Source:** fosc のソースを選択します。

- **CG\_FOSC\_OSC\_EXT:** 外部高速発信子

- **CG\_FOSC\_CLKIN\_EXT**: 外部クロック入力
- **CG\_FOSC\_OSC\_INT**: 内部高速発信器

**機能:**

高速発振器(fosc)のソースを設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.18 CG\_GetFoscSrc

高速発振器のソース取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_FoscSrc

CG\_GetFoscSrc(void)

**引数:**

なし。

**機能:**

高速発振器のソースを取得します。

**戻り値:**

高速発振器のソース

**CG\_FOSC\_OSC\_EXT**: 外部高速発信子

**CG\_FOSC\_CLKIN\_EXT**: 外部クロック入力

**CG\_FOSC\_OSC\_INT**: 内部高速発信器

#### 4.2.3.19 CG\_GetFoscState

高速発信器の状態

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

CG\_GetFoscState(CG\_FoscSrc Source)

**引数:**

**Source**: 以下から、fosc のソースを指定します。

- **CG\_FOSC\_OSC\_EXT**: 外部高速発信
- **CG\_FOSC\_OSC\_INT**: 内部高速発信

**機能:**

高速発信器の状態を取得します。

**戻り値:**

fosc の状態

**ENABLE**: fosc が有効

**DISABLE**: fosc が無効

## 4.2.3.20 CG\_SetSTBYMode

スタンバイモードの選択

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetSTBYMode(CG_STBYMode Mode)
```

引数:

**Mode:** 以下から、スタンバイモードを選択します。

- **CG\_STBY\_MODE\_STOP1:** STOP1 モード (内部発振器も含めてすべての内部回路が停止)
- **CG\_STBY\_MODE\_STOP2:** STOP2 モード (一部の機能を保持して内部電源を遮断)
- **CG\_STBY\_MODE\_IDLE:** IDLE モード(CPU が停止)

機能:

スタンバイモードを選択します。

戻り値:

なし

## 4.2.3.21 CG\_GetSTBYMode

スタンバイモードの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
CG_STBYMode  
CG_GetSTBYMode(void)
```

引数:

なし。

機能:

スタンバイモードの設定状態を取得します。

“Reserved”の場合、“**CG\_STBY\_MODE\_UNKNOWN**”を返却します。

戻り値:

**CG\_STBY\_MODE\_STOP1:** STOP1 モード

**CG\_STBY\_MODE\_STOP2:** STOP2 モード

**CG\_STBY\_MODE\_IDLE:** IDLE モード

**CG\_STBY\_MODE\_UNKNOWN:** 無効なモード

## 4.2.3.22 CG\_SetPinStateInStop1Mode

STOP1 モード中の端子状態の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetPinStateInStop1Mode(FunctionalState NewState)
```

引数:

**NewState:**

- **DISABLE:** STOP1 モード中端子をドライブしません
- **ENABLE:** STOP1 モード中端子をドライブします

STOP1 モード中の端子状態制御については、MCU データシートの“低消費電力モード”を参照してください。

**機能:**

STOP1 モード時の端子状態を設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.23 CG\_GetPinStateInStop1Mode

STOP1 モード中の端子状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState

CG\_GetPinStateInStop1Mode(void)

**引数:**

なし。

**機能:**

STOP1 モード中の端子状態を取得します。

**戻り値:**

STOP1 モード中の端子状態:

- **DISABLE:** STOP1 モード中端子をドライブしません
- **ENABLE:** STOP1 モード中端子をドライブします

#### 4.2.3.24 CG\_SetPortKeepInStop2Mode

STOP2 モード中の I/O 制御信号保持状態の設定。

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetPortKeepInStop2Mode(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:**

- **DISABLE:** ポートによる制御
- **ENABLE:** DISABLE->ENABLE 設定時の状態を保持

STOP2 モード中の I/O 制御信号保持の詳細については、MCU データシートの“低消費電力モード”を参照してください。

**機能:**

STOP2 モード中の I/O 制御信号保持の有効/無効を切り替えます。

**戻り値:**

なし



## 4.2.3.25 CG\_GetPortKeepInStop2Mode

STOP2 モード中の I/O 制御信号保持状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

CG\_GetPinStateInStopMode(void)

引数:

なし。

機能:

STOP2 モード中の I/O 制御信号保持状態を取得します。

戻り値:

STOP2 モード時の端子状態:

**DISABLE:** ポートによる制御

**ENABLE:** DISABLE->ENABLE 設定時の状態を保持

## 4.2.3.26 CG\_SetFcSrc

fc のソース選択

関数のプロトタイプ宣言:

Result

CG\_SetFcSrc(CG\_FcSrc **Source**)

引数:

**Source:** fc のソースを選択します。

➤ **CG\_FC\_SRC\_FOSC** : fosc を使用

➤ **CG\_FC\_SRC\_QUARTER\_FPLL**: fpll/4 を使用

機能:

fc のソースクロックを選択します。

戻り値:

**SUCCESS:** 成功

**ERROR:** 失敗

## 4.2.3.27 CG\_GetFcSrc

fc ソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG\_FcSrc

CG\_GetFosc (void)

引数:

なし

機能:

fc ソースを取得します。

戻り値:

fc のソース:

**CG\_FC\_SRC\_FOSC** : fosc

**CG\_FC\_SRC\_QUARTER\_FPLL**: fpll/4

#### 4.2.3.28 CG\_SetFtmrdSrc

高精度タイマ TMRD のクロックソース設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

CG\_SetFtmrdSrc(CG\_TmrdUnit **TmrdUnit**,  
CG\_FtmrdSrc **FtmrdSrc**)

引数:

**TmrdUnit**: 以下から、TMRD のユニットを選択します。

**CG\_TMRD\_UNIT\_A**: ユニット A

**FtmrdSrc**: 以下から、クロックソースを選択します。

➤ **CG\_FTMRD\_SRC\_FPLL**: fpll

➤ **CG\_FTMRD\_SRC\_HALF\_FPLL**: fpll/2

➤ **CG\_FTMRD\_SRC\_QUARTER\_FPLL**: fpll/4

機能:

高精度タイマ TMRD のクロックソースを設定します。

戻り値:

なし

#### 4.2.3.29 CG\_GetFtmrdSrc

高精度タイマ TMRD のクロックソースの取得

関数のプロトタイプ宣言:

CG\_FtmrdSrc

CG\_GetFtmrdSrc(CG\_TmrdUnit **TmrdUnit**)

引数:

**TmrdUnit**: 以下から、TMRD のユニットを選択します。

**CG\_TMRD\_UNIT\_A**: ユニット A

機能:

高精度タイマ TMRD のクロックソースを取得します。

戻り値:

TMRD のクロックソースです。

**CG\_FTMRD\_SRC\_FPLL**: fpll

**CG\_FTMRD\_SRC\_HALF\_FPLL**: fpll/2

**CG\_FTMRD\_SRC\_QUARTER\_FPLL**: fpll/4

**CG\_FTMRD\_SRC\_UNKNOWN**: 無効な値

## 4.2.3.30 CG\_SetTMRDClk

TMRD クロックの許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetTMRDClk(CG_TmrUnit TmrUnit,  
               FunctionalState NewState)
```

引数:

*TmrUnit*: 以下から、TMRD のユニットを選択します。

**CG\_TMRD\_UNIT\_A**: ユニット A

*NewState*: 以下から、TMRD クロックの許可/禁止を選択します。

**DISABLE**: 許可

**ENABLE**: 禁止

機能:

TMRD クロックの許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

## 4.2.3.31 CG\_GetTMRDClkState

TMRD クロック設定の状態取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
FunctionalState  
CG_GetTMRDClkState(CG_TmrUnit TmrUnit)
```

引数:

*TmrUnit*: 以下から、TMRD のユニットを選択します。

**CG\_TMRD\_UNIT\_A**: ユニット A

機能:

TMRD クロック設定の状態を取得します。

戻り値:

TMRD クロックの設定状態:

**ENABLE**: 許可

**DISABLE**: 禁止

## 4.2.3.32 CG\_SetProtectCtrl

CG レジスタの書き込み制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
CG_SetProtectCtrl(FunctionalState NewState)
```

引数:

## **NewState**

- **DISABLE:** 書き込み禁止
- **ENABLE:** 書き込み許可

## **機能:**

CGレジスタの書き込み許可/禁止を設定します。

## **戻り値:**

なし

### **4.2.3.33 CG\_SetSTBYReleaseINTSrc**

スタンバイモードの解除割り込みソースの設定

## **関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_SetSTBYReleaseINTSrc (CG\_INTSrc **INTSource**,  
CG\_INTActiveState **ActiveState**,  
FunctionalState **NewState**)

## **引数:**

**INTSource:** 以下から、スタンバイモードの解除割り込みソースを選択します。

- **CG\_INT\_SRC\_0** : INT0
- **CG\_INT\_SRC\_1** : INT1
- **CG\_INT\_SRC\_2** : INT2
- **CG\_INT\_SRC\_3** : INT3
- **CG\_INT\_SRC\_4** : INT4
- **CG\_INT\_SRC\_5** : INT5
- **CG\_INT\_SRC\_6** : INT6
- **CG\_INT\_SRC\_7** : INT7
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_00**: 16-bit PHC compare interrupt 00
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_01**: 16-bit PHC compare interrupt 01
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_10**: 16-bit PHC compare interrupt 10
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_11**: 16-bit PHC compare interrupt 11
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_20**: 16-bit PHC compare interrupt 20
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_21**: 16-bit PHC compare interrupt 21
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_30**: 16-bit PHC compare interrupt 30
- **CG\_INT\_SRC\_PHT\_31**: 16-bit PHC compare interrupt 31
- **CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_0**: 16-bit PHC every count interrupt 0.
- **CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_1**: 16-bit PHC every count interrupt 1.
- **CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_2**: 16-bit PHC every count interrupt 2.
- **CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_3**: 16-bit PHC every count interrupt 3
- **CG\_INT\_SRC\_8** : INT8
- **CG\_INT\_SRC\_9** : INT9
- **CG\_INT\_SRC\_A** : INTA
- **CG\_INT\_SRC\_B** : INTB

**ActiveState:** 以下から、解除トリガのアクティブ状態を選択します。

- **CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_L**: "Low"レベル
- **CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_H**: "High"レベル
- **CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_FALLING**: ↓エッジ
- **CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_RISING**: ↑エッジ
- **CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_BOTH\_EDGES**: 両エッジ

**NewState:** 以下から、解除トリガの有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

スタンバイモードの解除割り込みソースを設定します。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.34 CG\_GetSTBYReleaseINTState

スタンバイモードの解除割り込みソースのアクティブ状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_INT\_ActiveState

CG\_GetSTBYReleaseINTSrc(CG\_INTSrc **INTSource**)

**引数:**

**INTSource:** 以下から、解除割り込みソースを選択します。

CG\_INT\_SRC\_0, CG\_INT\_SRC\_1, CG\_INT\_SRC\_2, CG\_INT\_SRC\_3,  
CG\_INT\_SRC\_4, CG\_INT\_SRC\_5, CG\_INT\_SRC\_6, CG\_INT\_SRC\_7,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_00, CG\_INT\_SRC\_PHT\_01,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_10, CG\_INT\_SRC\_PHT\_11,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_20, CG\_INT\_SRC\_PHT\_21,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_30, CG\_INT\_SRC\_PHT\_31,  
CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_0, CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_1,  
CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_2, CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_3,  
CG\_INT\_SRC\_8, CG\_INT\_SRC\_9, CG\_INT\_SRC\_A, CG\_INT\_SRC\_B.

**機能:**

スタンバイモードの解除割り込みソースのアクティブ状態を取得します。

**戻り値:**

解除割り込みソースのアクティブ状態

CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_L: "Low"レベル

CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_H: "High"レベル

CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_FALLING: ↓エッジ

CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_RISING: ↑エッジ

CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_BOTH\_EDGES: 両エッジ

CG\_INT\_ACTIVE\_STATE\_INVALID: 無効な値

#### 4.2.3.35 CG\_ClearINTReq

スタンバイ解除割り込み要求のクリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

CG\_ClearINTReq(CG\_INTSrc **INTSource**)

**引数:**

**INTSource:** 以下から、解除割り込みソースを選択します。

CG\_INT\_SRC\_0, CG\_INT\_SRC\_1, CG\_INT\_SRC\_2, CG\_INT\_SRC\_3,  
CG\_INT\_SRC\_4, CG\_INT\_SRC\_5, CG\_INT\_SRC\_6, CG\_INT\_SRC\_7,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_00, CG\_INT\_SRC\_PHT\_01,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_10, CG\_INT\_SRC\_PHT\_11,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_20, CG\_INT\_SRC\_PHT\_21,  
CG\_INT\_SRC\_PHT\_30, CG\_INT\_SRC\_PHT\_31,  
CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_0, CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_1,  
CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_2, CG\_INT\_SRC\_PHEVRY\_3,  
CG\_INT\_SRC\_8, CG\_INT\_SRC\_9, CG\_INT\_SRC\_A, CG\_INT\_SRC\_B.

**機能:**

スタンバイ解除割り込み要求をクリアします。

**戻り値:**

なし

#### 4.2.3.36 CG\_GetNMIFlag

NMI 起動要因フラグの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_NMI\_Factor

CG\_GetNMIFlag (void)

**引数:**

なし

**機能:**

NMI 起動要因フラグを取得します。

**戻り値:**

NMI 起動要因:

**WDT** (Bit 0) :WDT による NMI 発生

**NMIPin**(Bit 1):NMI 端子 による NMI 発生

#### 4.2.3.37 CG\_GetResetFlag

リセットフラグの取得とクリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

CG\_ResetFlag

CG\_GetResetFlag(void)

**引数:**

なし

**機能:**

リセットフラグの取得とクリアを行います。

**戻り値:**

リセットフラグ:

**ResetPin** (Bit 0) リセット端子によるリセット

**Reserved**(Bit1) 未使用  
**WDTReset** (Bit 2) WDT リセット  
**STOP2Reset**(Bit3) STOP2 モード解除  
**DebugReset** (Bit 4) SYSRESETREQ リセット  
**OFDReset** (Bit 5) OFD リセット

## 4.2.4 データ構造

### 4.2.4.1 CG\_NMIFactor

**メンバ:**  
uint32\_t  
**All** すべての NMI 要因

**ビットフィールド:**  
uint32\_t  
**WDT**(Bit 0) WDT による NMI 発生  
uint32\_t  
**NMIPin**(Bit 1) NMI 端子による NMI 発生

### 4.2.4.2 CG\_ResetFlag

**メンバ:**  
uint32\_t  
**All** すべてのリセット要因

**ビットフィールド:**  
uint32\_t  
**ResetPin**(Bit 0) RESET 端子によるリセット  
uint32\_t  
**Reserved**(Bit 1) 未使用  
uint32\_t  
**WDTReset**(Bit 2) WDT によるリセット  
uint32\_t  
**STOP2Reset**(Bit 3) STOP2 モード解除  
uint32\_t  
**DebugReset**(Bit 4) <SYSResetREQ>によるリセット  
uint32\_t  
**OFDReset**(Bit 5) OFD リセット

## 5. DAC

### 5.1 概要

本デジタルアナログコンバータは、下記の機能を持っています。

- 分解能 10ビット
- バッファアンプ内蔵
- 低消費電力モード

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_dac.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_dac.h

### 5.2 API 関数

#### 5.2.1 関数一覧

- ◆ void DAC\_SetOutputCode(TSB\_DA\_TypeDef \* **DACx**, uint16\_t **OutputCode**);
- ◆ void DAC\_Start(TSB\_DA\_TypeDef \* **DACx**);
- ◆ void DAC\_Stop(TSB\_DA\_TypeDef \* **DACx**);

#### 5.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。

- 1) DAC の設定と出力値の設定:  
DAC\_SetOutputCode()
- 2) 開始と停止制御:  
DAC\_Start(), DAC\_Stop()

#### 5.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ“TSB\_DA\_TypeDef \* **DACx**” は以下のいずれかを選択してください。

TSB\_DA0, TSB\_DA1

##### 5.2.3.1 DAC\_SetOutputCode

出力電圧設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DAC_SetOutputCode(TSB_DA_TypeDef * DACx,  
                  uint16_t OutputCode)
```

引数:

**DACx**: DAC チャンネルを選択してください。

**OutputCode**: 出力するアナログ電圧値を設定します。ビット幅が 10 ビットなので、最大設定値は 0x3ff となります。

機能:

出力するアナログ電圧値を設定します。



戻り値:  
なし

## 5.2.3.2 DAC\_Start

DAC 動作の開始

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DAC_Start(TSB_DA_TypeDef * DACx);
```

引数:

**DACx**: DAC チャンネルを選択してください。

機能:

デジタルアナログコンバータの動作を開始します。

戻り値:  
なし

## 5.2.3.3 DAC\_Stop

DAC 動作の停止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DAC_Stop(TSB_DA_TypeDef * DACx);
```

引数:

**DACx**: DAC チャンネルを選択してください。

機能:

デジタルアナログ動作を停止します。

戻り値:  
なし

## 5.2.4 データ構造

なし

## 6. DMAC

### 6.1 概要

本デバイスは、DMA 要求選択レジスタにより制御される 2 ユニットの DMA コントローラ (UNITA, UNITB) を内蔵しています。各ユニットは、4 つの転送タイプのどれかで動作します。4 つの転送タイプは、メモリ-メモリ、メモリ-周辺回路、周辺回路-メモリ、周辺回路-周辺回路です。各ユニットは 2 チャンネルの DMAC を内蔵し、DMA チャンネル 0 は DMA チャンネル 1 より優先度が高くなります。

DMA ドライバ API は DMAC 設定機能を持ち、引数には、ソースアドレス、ソースアドレスのインクリメント状態、転送ソースのビット幅、転送ソースのバースト幅、宛先アドレス、宛先アドレスのインクリメント状態、転送先ビット幅、転送先バーストサイズ、転送サイズ、転送方向、データ転送パリティ、転送割り込みステータスなどがあります。

全ドライバ API は、アプリ使用の API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm341\_dmac.c  
\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\inc\\tmpm341\_dmac.h

### 6.2 API 関数

#### 6.2.1 関数一覧

- ◆ void DMAC\_Enable(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);
- ◆ void DMAC\_Disable(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);
- ◆ DMAL\_INTRReq DMAL\_GetINTRReq(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);
- ◆ DMAL\_TxINTRReq DMAL\_GetTxINTRReq(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**);
- ◆ void DMAL\_ClearTxINTRReq(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**, DMAL\_INTSrc **INTSource**);
- ◆ DMAL\_TxINTRReq DMAL\_GetRawTxINTRReq(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**);
- ◆ WorkState DMAL\_GetChannelTxState(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**);
- ◆ void DMAL\_SetSWBurstReq(DMALCA\_ReqNum **BurstReq**);
- ◆ void DMALCB\_SetSWBurstReq(DMALCB\_ReqNum **BurstReq**);
- ◆ DMAL\_BurstReqState DMAL\_GetSWBurstReqState(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);
- ◆ void DMALCB\_SetSWSingleReq(DMALCB\_ReqNum **SingleReq**);
- ◆ DMAL\_SingleReqState DMAL\_GetSWSingleReqState(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);
- ◆ void DMAL\_SetLinkedList(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**, uint32\_t **LinkedAddr**);
- ◆ WorkState DMAL\_GetFIFOState(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**);
- ◆ void DMAL\_SetDMAHalt(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void DMAL\_SetLockedTx(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**, DMAL\_Channel **Chx**, FunctionalState **NewState**);

- ◆ void DMAC\_SetTxINTConfig(TSB\_DMACH\_TypeDef \* **DMACx**, DMAC\_Channel **Chx**, DMAC\_INTSrc **INTSource**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void DMAC\_SetDMAChannel(TSB\_DMACH\_TypeDef \* **DMACx**, DMAC\_Channel **Chx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void DMAC\_Init(TSB\_DMACH\_TypeDef \* **DMACx**, DMAC\_Channel **Chx**, DMAC\_InitTypeDef \* **InitStruct**);

## 6.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 5 種類に分かれています。

- 1) DMAC 基本設定:  
DMAC\_Enable(), DMAC\_Disable(), DMAC\_SetDMAChannel(), DMAC\_Init()
- 2) DMA 転送割り込みステータス、FIFO または DMA チャンネル状態:  
DMAC\_GetINTReq(), DMAC\_GetTxINTReq(), DMAC\_GetRawTxINTReq(),  
DMAC\_GetChannelTxState(), DMAC\_GetFIFOState()
- 3) DMA 割り込み設定、DMA 割り込み要求のクリア:  
DMAC\_ClearTxINTReq(), DMAC\_SetTxINTConfig()
- 4) DMA ソフトウェア要求の設定、および取得:  
DMACA\_SetSWBurstReq(), DMACB\_SetSWBurstReq(),  
DMAC\_GetSWBurstReqState(), DMACB\_SetSWSingleReq(), DMAC\_SetLinkedList(),  
DMAC\_GetSWSingleReqState()
- 5) その他の設定:  
DMAC\_SetDMAHalt(), DMAC\_SetLockedTx()

## 6.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ“TSB\_DMACH\_TypeDef \* **DMACx**” は以下のいずれかを選択してください。

**DMAC\_UNIT\_A, DMAC\_UNIT\_B**

### 6.2.3.1 DMAC\_Enable

DMA 回路動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DMAC_Enable(TSB_DMACH_TypeDef * DMACx);
```

引数:

**DMACx**: ユニットを選択します。

機能:

DMA 回路動作を許可します。

補足:

DMAC を使用する際、まず本関数をコールして DMA 回路を動作させてください。  
DMA 回路用レジスタは、DMA 回路が動作していないと書き込み/読み出しができません。

戻り値:

なし

## 6.2.3.2 DMAC\_Disable

DMA 回路動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DMAC_Disable(TSB_DMAL_TypeDef * DMACx);
```

引数:

**DMACx**: ユニットを選択します。

機能:

DMA 回路動作を禁止します。

戻り値:

なし

## 6.2.3.3 DMAC\_GetINTReq

DMA チャンネル割り込みステータスの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
DMAC_INTReq  
DMAC_GetINTReq(TSB_DMAL_TypeDef * DMACx);
```

引数:

**DMACx**: ユニットを選択します。

機能:

DMA チャンネル割り込み要求状態を取得します。

戻り値:

割り込み要求状態を返します。構造体"DMAC\_INTReq"の詳細はデータ構造を参照してください。

## 6.2.3.4 DMAC\_GetTxINTReq

DMA チャンネル転送割り込み要求状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
DMAC_TxINTReq  
DMAC_GetTxINTReq(TSB_DMAL_TypeDef * DMACx,  
                  DMAC_Channel Chx);
```

引数:

**DMACx**: ユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

機能:

DMA チャンネル転送割り込み要求状態を取得します。

**戻り値:**

以下のいずれかの DMA チャンネル転送割り込み要求状態を返します。

**DMAC\_TX\_NO\_REQ**: 転送割り込み要求なし

**DMAC\_TX\_END\_REQ**: 転送終了割り込み要求あり

**DMAC\_TX\_ERR\_REQ**: 転送エラー割り込み要求あり

**DMAC\_TX\_REQS**: 2 つ以上の割り込み要求あり

## 6.2.3.5 DMAC\_ClearTxINTReq

転送割り込み要求のクリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
DMAC_ClearTxINTReq(TSB_DMACH_TypeDef * DMACx,  
                   DMACH_Channel Chx,  
                   DMACH_INTSrc INTSource);
```

**引数:**

**DMACx**: ユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMACH\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMACH\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**INTSource**: 以下からリリース割り込みソースを選択します。

- **DMACH\_INT\_TX\_END**: DMA 転送終了割り込み
- **DMACH\_INT\_TX\_ERR**: DMA 転送エラー割り込み

**機能:**

転送割り込み要求をクリアします。

**戻り値:**

なし

## 6.2.3.6 DMAC\_GetRawTxINTReq

DMA チャンネルの許可前転送終了割り込み発生状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
DMACH_TxINTReq  
DMAC_GetRawTxINTReq(TSB_DMACH_TypeDef * DMACx,  
                    DMACH_Channel Chx);
```

**引数:**

**DMACx**: ユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMACH\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMACH\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**機能:**

DMA チャンネルの許可前転送終了割り込み発生状態を取得します。

**戻り値:**

以下のいずれかの DMA チャンネルの許可前転送終了割り込み発生状態を返します。

**DMAC\_TX\_NO\_REQ**: 転送前の転送終了割り込み発生なし

**DMAC\_TX\_END\_REQ**: 転送終了割り込みあり

**DMAC\_TX\_ERR\_REQ**: 転送エラー割り込みあり

**DMAC\_TX\_REQS** : 2 つ以上の割り込み要求あり

## 6.2.3.7 DMAC\_GetChannelTxState

DMA チャンネル転送状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

WorkState

```
DMAC_GetChannelTxState(TSB_DMAC_TypeDef * DMACx,  
                        DMAC_Channel Chx);
```

**引数:**

**DMACx**: ユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**機能:**

本関数は、**Chx** が **DMAC\_CHANNEL\_0** の時、DMA チャンネル 0 転送状態を取得します。**Chx** が **DMAC\_CHANNEL\_1** の時、DMA チャンネル 1 転送状態を取得します。戻り値が **BUSY** の時は、DMA チャンネルは有効で、データ送信中であることを示します。戻り値が **DONE** の時は、DMA チャンネルは無効で、データ送信は終了していることを示します。

**戻り値:**

以下どちらかの DMA 転送状態を返します。

**BUSY**、または **DONE**

## 6.2.3.8 DMACA\_SetSWBurstReq

ソフトウェアによるユニット A の DMA バースト転送要求の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

```
DMACA_SetSWBurstReq(DMACA_ReqNum BurstReq);
```

**引数:**

**BurstReq**: 以下のいずれかのバースト要求番号を選択します。

- **DMACA\_SIO0\_UART0\_RX**: SIO0/UART0 受信
- **DMACA\_SIO0\_UART0\_TX**: SIO0/UART0 送信
- **DMACA\_SIO2\_UART2\_RX**: SIO2/UART2 受信
- **DMACA\_SIO2\_UART2\_TX**: SIO2/UART2 送信
- **DMACA\_SIO4\_UART4\_RX**: SIO4/UART4 受信

- **DMACA\_SIO4\_UART4\_TX**: SIO4/UART4 送信
- **DMACA\_PULSE\_CNT2**: 2 相パルス入力カウンタ 2 カウント毎
- **DMACA\_PULSE\_CNT3**: 2 相パルス入力カウンタ 3 カウント毎
- **DMACA\_TMRB8\_CMP\_MATCH**: TMRB8 コンペア一致
- **DMACA\_TMRB9\_CMP\_MATCH**: TMRB9 コンペア一致
- **DMACA\_TMRB0\_CAPTURE0**: TMRB0 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACA\_TMRB4\_CAPTURE0**: TMRB4 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACA\_TMRB4\_CAPTURE1**: TMRB4 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACA\_TMRB5\_CAPTURE0**: TMRB5 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACA\_TMRB5\_CAPTURE1**: TMRB5 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACA\_HIGH\_PRIORITY\_ADC X**: 最優先 AD 変換終了

**機能:**

ソフトウェアによる DMA ユニット A のバースト転送要求を設定します。  
ソフトウェアでの DMA 要求とハードウェアからの同時実行は禁止です。

**戻り値:**

なし

### 6.2.3.9 DMACB\_SetSWBurstReq

ソフトウェアによるユニット B の DMA バースト転送要求の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

DMACB\_SetSWBurstReq(DMACB\_ReqNum **BurstReq**);

**引数:**

**BurstReq**: 以下のいずれかのバースト要求番号を選択します。

- **DMACB\_TMRD00\_CMP\_MATCH**: TMRD00 コンペア一致
- **DMACB\_TMRD10\_CMP\_MATCH**: TMRD10 コンペア一致
- **DMACB\_PULSE\_CNT0**: 2 相パルス入力カウンタ 0 カウント毎
- **DMACB\_PULSE\_CNT1**: 2 相パルス入力カウンタ 1 カウント毎
- **DMACB\_TMRB6\_CMP\_MATCH**: TMRB6 コンペア一致
- **DMACB\_TMRB7\_CMP\_MATCH**: TMRB7 コンペア一致
- **DMACB\_TMRB0\_CAPTURE1**: TMRB0 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACB\_TMRB2\_CAPTURE0**: TMRB2 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACB\_TMRB2\_CAPTURE1**: TMRB2 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACB\_TMRB3\_CAPTURE0**: TMRB3 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACB\_TMRB3\_CAPTURE1**: TMRB3 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACB\_TMRB6\_CAPTURE0**: TMRB6 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACB\_TMRB6\_CAPTURE1**: TMRB6 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACB\_NORMAL\_ADC**: 通常 AD 変換終了
- **DMACB\_SSP\_TX**: SSP 送信
- **DMACB\_SSP\_RX**: SSP 受信

**機能:**

ソフトウェアによるユニット B の DMA バースト転送要求を設定します。  
ソフトウェアでの DMA 要求とハードウェアからの同時実行は禁止です。

**戻り値:**

なし

## 6.2.3.10 DMAC\_GetSWBurstReqState

ソフトウェアによる DMA バースト要求状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

DMAC\_BurstReqState

DMAC\_GetSWBurstReqState(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);

引数:

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

機能:

ソフトウェアによる DMA バースト要求状態を取得します。

戻り値:

DMA バースト要求状態を返します。構造体"DMAC\_BurstReqState"の詳細はデータ構造を参照してください。

## 6.2.3.11 DMACB\_SetSWSingleReq

ソフトウェアによるユニット B の DMA シングル転送要求の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

DMACB\_SetSWSingleReq(DMACB\_ReqNum **SingleReq**);

引数:

**SingleReq**: 以下から、シングル要求番号を選択します。

- **DMACB\_SSP\_TX**: SSP 送信
- **DMACB\_SSP\_RX**: SSP 受信

機能:

ソフトウェアによる DMA シングル転送要求を設定します。ソフトウェアでの DMA 要求とハードウェアからの同時実行は禁止です。

戻り値:

なし

## 6.2.3.12 DMAC\_GetSWSingleReqState

ソフトウェアによる DMA シングル要求状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

DMAC\_SingleReqState

DMAC\_GetSWSingleReqState(TSB\_DMAL\_TypeDef \* **DMACx**);

引数:

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。



**機能:**

ソフトウェアによる DMA シングル要求状態を取得します。

**戻り値:**

DMA シングル要求状態です。構造体 "DMAC\_SingleReqState" の詳細は "データ構造" を参照してください。

## 6.2.3.13 DMAC\_SetLinkedList

DMA チャンネル・コレクションアイテムレジスタの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
DMAC_SetLinkedList(TSB_DMACH_TypeDef * DMACx,  
                   DMACH_Channel Chx,  
                   uint32_t LinkedAddr);
```

**引数:**

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMACH\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMACH\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**LinkedAddr**: 次の転送開始アドレスを指定します。0xFFFFFFFF0 まで指定可能です。

**機能:**

DMA チャンネル・コレクションレジスタを設定します。スキッター・ギャザー機能が不要な場合は、**LinkedAddr** を 0 に設定し本関数を呼び出します。

**補足:**

スキッター・ギャザー機能を用いる場合、転送ソース、転送先データアドレスは、コレクション (LinkedList) を最初に作成する必要があります。

各設定は LLI (コレクション LinkedList) と呼ばれます。各 LLI はデータブロック転送を制御します。また、DMA が通常設定であることを示し、連続データの転送を制御します。

DMA 転送終了ごとに、DMA 動作を継続するために次の LLI 設定がロードされます。(デイジーチェーン)

コレクションと共に設定されるアイテムは、以下の4ワードで設定されます。

- 1) DMACHxSrcAddr
- 2) DMACHxDestAddr
- 3) DMACHxLLI
- 4) DMACHxControl

**戻り値:**

なし

## 6.2.3.14 DMAC\_GetFIFOState

FIFO 状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
WorkState
```

```
DMAC_GetFIFOState(TSB_DMAC_TypeDef * DMACx,  
                  DMAC_Channel Chx);
```

引数:

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

➤ **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0

➤ **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

機能:

FIFO 状態を取得します。

戻り値が **BUSY** の場合は FIFO にデータが存在することを示し、**DONE** の場合は FIFO にデータがないことを示します。

戻り値:

FIFO 状態:

**BUSY**、または **DONE**

## 6.2.3.15 DMAC\_SetDMAHalt

DMA 要求の設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

```
DMAC_SetDMAHalt(TSB_DMAC_TypeDef * DMACx,  
                DMAC_Channel Chx,  
                FunctionalState NewState);
```

引数:

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

➤ **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0

➤ **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**NewState**: 以下から、DMA 要求受付制御を選択します。

➤ **ENABLE**: DMA 要求 受付

➤ **DISABLE**: DMA 要求 無視

機能:

DMA 要求受付制御を設定します。

戻り値:

なし

## 6.2.3.16 DMAC\_SetLockedTx

ロック転送の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DMAC_SetLockedTx(TSB_DMAM_TypeDef * DMACx,  
                 DMAC_Channel Chx,  
                 FunctionalState NewState);
```

**引数:**

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**NewState**: 以下から、ロック転送設定を選択します。

- **ENABLE**: ロック転送 許可
- **DISABLE**: ロック転送 禁止

**機能:**

ロック転送を設定します。

**戻り値:**

なし

## 6.2.3.17 DMAC\_SetTxINTConfig

転送割り込みの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
DMAC_SetTxINTConfig(TSB_DMAM_TypeDef * DMACx,  
                    DMAC_Channel Chx,  
                    DMAC_INTSrc INTSource,  
                    FunctionalState NewState);
```

**引数:**

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**INTSource**: 以下から、割り込みソースを選択します。

- **DMAC\_INT\_TX\_END**: 転送終了割り込み
- **DMAC\_INT\_TX\_ERR**: エラー割り込み

**NewState**: 以下から、割り込み状態を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**機能:**

転送割り込みを設定します。

**戻り値:**

なし

## 6.2.3.18 DMAC\_SetDMACChannel

DMA チャンネルの許可/禁止設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DMAC_SetDMACChannel(TSB_DMACH_TypeDef * DMACx,  
                    DMAC_Channel Chx,  
                    FunctionalState NewState);
```

引数:

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**NewState**: 以下から、DMA チャンネルの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

DMA チャンネルの許可/禁止を設定します。

DMA チャンネルの初期設定を行った後に本関数をコールし、DMA チャンネルを有効にしてください。本関数を使用し、DMA チャンネルを無効にすると、FIFO 中のデータが失われます。FIFO 中のデータ喪失を防ぐため、**DMAC\_SetDMAHalt()** をコールし、DMA 要求を無視した後、**DMAC\_GetFIFOState()** をコールし、FIFO のステータスを取得してください。その後、本関数をコールし、DMA チャンネルを無効にしてください。

戻り値:

なし

## 6.2.3.19 DMAC\_Init

DMA チャンネルの初期設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
DMAC_Init(TSB_DMACH_TypeDef * DMACx,  
          DMAC_Channel Chx,  
          DMAC_InitTypeDef * InitStruct);
```

引数:

**DMACx**: 以下からユニットを選択します。

**Chx**: 以下から DMA チャンネルを選択します。

- **DMAC\_CHANNEL\_0**: チャンネル 0
- **DMAC\_CHANNEL\_1**: チャンネル 1

**InitStruct:** 基本的な DMA 設定を含む構造体で、転送元アドレス、転送元アドレスインクリメントステート、転送元ビット幅、転送元バーストサイズ、転送先アドレス、転送先アドレスインクリメントステート、転送先ビット幅、転送先バーストサイズ、転送サイズ、転送方向、転送ペリフェラル、転送割り込み状態が含まれます。(詳細は“データ構造”を参照してください)

**機能:**

DMA チャンネルの初期設定を行います。

コンパイラのエンディアン設定に応じて DMA のエンディアン設定を行います。

**補足:**

**DMAC\_SetDMAChannel()**をコールする前に、本関数を用いて初期設定を行ってください。

**戻り値:**

なし

## 6.2.4 データ構造

### 6.2.4.1 DMAC\_InitTypeDef

**メンバ:**

uint32\_t

**TxDirection:** 以下から、転送方向を選択します。

- **DMAC\_MEMORY\_TO\_MEMORY:** メモリ->メモリ
- **DMAC\_MEMORY\_TO\_PERIPH:** メモリ->周辺回路
- **DMAC\_PERIPH\_TO\_MEMORY:** 周辺回路->メモリ
- **DMAC\_PERIPH\_TO\_PERIPH:** 周辺回路->周辺回路

uint32\_t

**SrcAddr:** 転送元アドレスを設定します。

uint32\_t

**DstAddr:** 転送先アドレスを設定します。

FunctionalState

**SrcIncrementState:** 以下から、転送元アドレスのインクリメント設定を選択します。

**ENABLE**、または **DISABLE**.

FunctionalState

**DstIncrementState:** 以下から、転送先アドレスのインクリメント設定を選択します。

**ENABLE**、または **DISABLE**.

DMAC\_BitWidth

**SrcBitWidth:** 以下から、転送元データの幅を選択します。

- **DMAC\_BYTE:** バイト
- **DMAC\_HALF\_WORD:** ハーフワード
- **DMAC\_WORD:** ワード

DMAC\_BurstSize

**SrcBurstSize:** 以下から、転送元のバーストサイズを選択します。

- **DMAC\_1\_BEAT:** 1 ビート
- **DMAC\_4\_BEATS:** 4 ビート
- **DMAC\_8\_BEATS:** 8 ビート
- **DMAC\_16\_BEATS:** 16 ビート
- **DMAC\_32\_BEATS:** 32 ビート
- **DMAC\_64\_BEATS:** 64 ビート
- **DMAC\_128\_BEATS:** 128 ビート
- **DMAC\_256\_BEATS:** 256 ビート

DMAC\_BurstSize

**DstBurstSize:** 以下から、転送先のバーストサイズを選択します。

- **DMAC\_1\_BEAT :** 1 ビート
- **DMAC\_4\_BEATS :** 4 ビート
- **DMAC\_8\_BEATS :** 8 ビート
- **DMAC\_16\_BEATS :** 16 ビート
- **DMAC\_32\_BEATS :** 32 ビート
- **DMAC\_64\_BEATS :** 64 ビート
- **DMAC\_128\_BEATS :** 128 ビート
- **DMAC\_256\_BEATS :** 256 ビート

uint32\_t

**TxSize:** 最大転送数で、最大値は 0x0FFF です。

DMACA\_ReqNum

**A\_TxDstPeriph:** 以下のいずれかのバースト要求番号を選択します。

- **DMACA\_SIO0\_UART0\_RX:** SIO0/UART0 受信
- **DMACA\_SIO0\_UART0\_TX:** SIO0/UART0 送信
- **DMACA\_SIO2\_UART2\_RX:** SIO2/UART2 受信
- **DMACA\_SIO2\_UART2\_TX:** SIO2/UART2 送信
- **DMACA\_SIO4\_UART4\_RX:** SIO4/UART4 受信
- **DMACA\_SIO4\_UART4\_TX:** SIO4/UART4 送信
- **DMACA\_PULSE\_CNT2:** 2 相パルス入力カウンタ 2 カウント毎
- **DMACA\_PULSE\_CNT3:** 2 相パルス入力カウンタ 3 カウント毎
- **DMACA\_TMRB8\_CMP\_MATCH:** TMRB8 コンペアー致
- **DMACA\_TMRB9\_CMP\_MATCH:** TMRB9 コンペアー致
- **DMACA\_TMRB0\_CAPTURE0:** TMRB0 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACA\_TMRB4\_CAPTURE0:** TMRB4 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACA\_TMRB4\_CAPTURE1:** TMRB4 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACA\_TMRB5\_CAPTURE0:** TMRB5 キャプチャ 0 割り込み
- **DMACA\_TMRB5\_CAPTURE1:** TMRB5 キャプチャ 1 割り込み
- **DMACA\_HIGH\_PRIORITY\_ADC X:** 最優先 AD 変換終了

DMACA\_ReqNum

**A\_TxSrcPeriph:** 以下のいずれかのバースト要求番号を選択します。

- **DMACA\_SIO0\_UART0\_RX:** SIO0/UART0 受信
- **DMACA\_SIO0\_UART0\_TX:** SIO0/UART0 送信
- **DMACA\_SIO2\_UART2\_RX:** SIO2/UART2 受信
- **DMACA\_SIO2\_UART2\_TX:** SIO2/UART2 送信
- **DMACA\_SIO4\_UART4\_RX:** SIO4/UART4 受信

- DMACA\_SIO4\_UART4\_TX: SIO4/UART4 送信
- DMACA\_PULSE\_CNT2: 2 相パルス入力カウンタ 2 カウント毎
- DMACA\_PULSE\_CNT3: 2 相パルス入力カウンタ 3 カウント毎
- DMACA\_TMRB8\_CMP\_MATCH: TMRB8 コンペア一致
- DMACA\_TMRB9\_CMP\_MATCH: TMRB9 コンペア一致
- DMACA\_TMRB0\_CAPTURE0: TMRB0 キャプチャ 0 割り込み
- DMACA\_TMRB4\_CAPTURE0: TMRB4 キャプチャ 0 割り込み
- DMACA\_TMRB4\_CAPTURE1: TMRB4 キャプチャ 1 割り込み
- DMACA\_TMRB5\_CAPTURE0: TMRB5 キャプチャ 0 割り込み
- DMACA\_TMRB5\_CAPTURE1: TMRB5 キャプチャ 1 割り込み
- DMACA\_HIGH\_PRIORITY\_ADC X: 最優先 AD 変換終了

DMACB\_ReqNum

**B\_TxDstPeriph:** 以下のいずれかのバースト要求番号を選択します。

- DMACB\_TMRD00\_CMP\_MATCH: TMRD00 コンペア一致
- DMACB\_TMRD10\_CMP\_MATCH: TMRD10 コンペア一致
- DMACB\_PULSE\_CNT0: 2 相パルス入力カウンタ 0 カウント毎
- DMACB\_PULSE\_CNT1: 2 相パルス入力カウンタ 1 カウント毎
- DMACB\_TMRB6\_CMP\_MATCH: TMRB6 コンペア一致
- DMACB\_TMRB7\_CMP\_MATCH: TMRB7 コンペア一致
- DMACB\_TMRB0\_CAPTURE1: TMRB0 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_TMRB2\_CAPTURE0: TMRB2 キャプチャ 0 割り込み
- DMACB\_TMRB2\_CAPTURE1: TMRB2 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_TMRB3\_CAPTURE0: TMRB3 キャプチャ 0 割り込み
- DMACB\_TMRB3\_CAPTURE1: TMRB3 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_TMRB6\_CAPTURE0: TMRB6 キャプチャ 0 割り込み
- DMACB\_TMRB6\_CAPTURE1: TMRB6 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_NORMAL\_ADC: 最優先 AD 変換
- DMACB\_SSP\_TX: SSP 送信
- DMACB\_SSP\_RX: SSP 受信

DMACB\_ReqNum

**B\_TxSrcPeriph:** 以下のいずれかのバースト要求番号を選択します。

- DMACB\_TMRD00\_CMP\_MATCH: TMRD00 コンペア一致
- DMACB\_TMRD10\_CMP\_MATCH: TMRD10 コンペア一致
- DMACB\_PULSE\_CNT0: 2 相パルス入力カウンタ 0 カウント毎
- DMACB\_PULSE\_CNT1: 2 相パルス入力カウンタ 1 カウント毎
- DMACB\_TMRB6\_CMP\_MATCH: TMRB6 コンペア一致
- DMACB\_TMRB7\_CMP\_MATCH: TMRB7 コンペア一致
- DMACB\_TMRB0\_CAPTURE1: TMRB0 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_TMRB2\_CAPTURE0: TMRB2 キャプチャ 0 割り込み
- DMACB\_TMRB2\_CAPTURE1: TMRB2 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_TMRB3\_CAPTURE0: TMRB3 キャプチャ 0 割り込み
- DMACB\_TMRB3\_CAPTURE1: TMRB3 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_TMRB6\_CAPTURE0: TMRB6 キャプチャ 0 割り込み
- DMACB\_TMRB6\_CAPTURE1: TMRB6 キャプチャ 1 割り込み
- DMACB\_NORMAL\_ADC: 通常 AD 変換終了
- DMACB\_SSP\_TX: SSP 送信
- DMACB\_SSP\_RX: SSP 受信

FunctionalState

**TxINT**: 以下から、転送割り込み状態を選択します。

- **EANBLE**: 転送割り込み許可
- **DISABLE**: 転送割り込み無効

## 6.2.4.2 DMAC\_INTReq

メンバ:

uint32\_t

**All**: DMAC 全チャンネルの割り込み発生状態です

ビットフィールド

uint32\_t

**CH0\_INTReq** : 1 DMAC チャンネル 0 の割り込み発生状態です。

uint32\_t

**CH1\_INTReq** : 1 DMAC チャンネル 1 の割り込み発生状態です。



## 7. EXB

### 7.1 概要

本デバイスは、外部にメモリや I/O などを接続するための外部バスインターフェース機能を内蔵しています。外部バスインターフェース回路 (EBIF)、チップセレクト(CS)ウェイトコントローラがこれに相当します。

チップセレクト、ウェイトコントローラは、任意の4ブロックアドレス空間のマッピングアドレス指定と、この4ブロックアドレス空間に対して、ウェイトおよびデータバス幅(8ビットまたは16ビット)を制御します。

外部バスインターフェース回路(EBIF)は、CS/内蔵ウェイトコントローラの設定にもとづき外部バスのタイミングを制御します。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義、マクロ、データタイプ、構造を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_exb.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_exb.h

### 7.2 API 関数

#### 7.2.1 関数一覧

- ◆ void EXB\_SetBusMode(uint8\_t **BusMode**);
- ◆ void EXB\_SetBusCycleExtension(uint8\_t **Cycle**);
- ◆ void EXB\_Enable(uint8\_t **ChipSelect**);
- ◆ void EXB\_Disable(uint8\_t **ChipSelect**);
- ◆ void EXB\_Init(uint8\_t **ChipSelect**, EXB\_InitTypeDef\* **InitStruct**);

#### 7.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。

- 1) EXB バスモード、バスサイクルウェイト拡張、データバス幅、チップセクタを元にした外部バスサイクルの設定:  
EXB\_SetBusMode(), EXB\_SetBusCycleExtension(), EXB\_Init()
- 2) 許可/禁止制御:  
EXB\_Enable(), EXB\_Disable()

#### 7.2.3 関数仕様

##### 7.2.3.1 EXB\_SetBusMode

EXB 外部バスモードの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void  
EXB\_SetBusMode(uint8\_t **BusMode**)

引数:

**BusMode**: 以下から EXB 外部バスモードを選択します。

- **EXB\_BUS\_SEPARATE**: セパレートバスモード
- **EXB\_BUS\_MULTIPLEX**: マルチプレクスバスモード

**機能:**

外部バスモードを設定します。**BusMode** に **EXB\_BUS\_SEPARATE** を設定した場合、バスモードはセパレートバスモードになります。**BusMode** に **EXB\_BUS\_MULTIPLEX** を設定した場合、バスモードはマルチプレクスモードになります。

**戻り値:**

なし

### 7.2.3.2 EXB\_SetBusCycleExtension

バスサイクルウェイト拡張の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
EXB_SetBusCycleExtension(uint8_t Cycle)
```

**引数:**

**Cycle**: バスサイクルウェイト拡張を指定します。

- **EXB\_CYCLE\_NONE**: 拡張なし
- **EXB\_CYCLE\_DOUBLE**: 2 倍
- **EXB\_CYCLE\_QUADRUPLE**: 4 倍

**機能:**

バスサイクルのセットアップ、ウェイト、リカバリサイクル機能を 2 倍、4 倍に設定します。

**戻り値:**

なし

### 7.2.3.3 EXB\_Enable

チップセレクトの許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
EXB_Enable(uint8_t ChipSelect)
```

**引数:**

**ChipSelect**: チップセレクトを選択します。

- **EXB\_CS0**: CS0
- **EXB\_CS1**: CS1

**機能:**

チップセレクトを許可します。

**戻り値:**

なし

## 7.2.3.4 EXB\_Disable

チップセレクトの禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
EXB_Disable(uint8_t ChipSelect)
```

引数:

**ChipSelect**: チップセレクトを選択します。

- **EXB\_CS0**: CS0
- **EXB\_CS1**: CS1

機能:

チップセレクトを禁止します。

戻り値:

なし

## 7.2.3.5 EXB\_Init

チップセレクト設定の初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
EXB_Init (uint8_t ChipSelect,  
          EXB_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

**ChipSelect**: チップセレクトを選択します。

- **EXB\_CS0**: CS0
- **EXB\_CS1**: CS1

**InitStruct**: チップセレクト空間サイズ、スタートアドレス、データバス幅、外部バスサイクルを設定する構造体です。(詳細は、“データ構造”を参照してください)

機能:

チップセレクト設定を初期化します。

戻り値:

なし

## 7.2.4 データ構造

### 7.2.4.1 EXB\_InitTypeDef

メンバ:

```
uint8_t  
AddrSpaceSize: アドレス空間を設定します。  
➤ EXB_16M_BYTE: アドレス空間 16Mbyte  
➤ EXB_8M_BYTE: アドレス空間 8Mbyte
```

- **EXB\_4M\_BYTE**: アドレス空間 4Mbyte
- **EXB\_2M\_BYTE**: アドレス空間 2Mbyte
- **EXB\_1M\_BYTE**: アドレス空間 1Mbyte
- **EXB\_512K\_BYTE**: アドレス空間 512Kbyte
- **EXB\_256K\_BYTE**: アドレス空間 256Kbyte
- **EXB\_128K\_BYTE**: アドレス空間 128Kbyte
- **EXB\_64K\_BYTE**: アドレス空間 64Kbyte

uint8\_t

**StartAddr**: 開始アドレスを設定します。最大値は 0x1FF です。

uint8\_t

**BusWidth**: データバス幅を設定します。

- **EXB\_BUS\_WIDTH\_BIT\_8**: データバス幅 8bit,
- **EXB\_BUS\_WIDTH\_BIT\_16**: データバス幅 16bit.

uint8\_t

**EndianType**: 外部メモリ/周辺 IO(ASIC 等)のエンディアンを設定します。

ENDIAN 端子	EndianType	
	"0" (CPUと同じエンディアン)	"1" (CPUと異なるエンディアン)
リトルエンディアン	リトルエンディアン	MIPS 形式
ビッグエンディアン	BE8 形式	MIPS 形式

EXB\_CyclesTypeDef

**Cycles**: 外部バス周期を設定します。

**InternalWait, ReadSetupCycle, WriteSetupCycle, ALEWaitCycle**  
(マルチプレクスバスモードのみ), **ReadRecoveryCycle,**  
**WriteRecoveryCycle, ChipSelectRecoveryCycle.** (詳細は  
“EXB\_CyclesTypeDef” を参照)

## 7.2.4.2 EXB\_CyclesType Def

メンバ:

uint8\_t

**InternalWait**: 内部ウェイト(自動挿入)を設定します。

- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_0**: 0 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_1**: 1 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_2**: 2 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_3**: 3 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_4**: 4 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_5**: 5 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_6**: 6 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_7**: 7 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_8**: 8 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_9**: 9 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_10**: 10 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_11**: 11 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_12**: 12 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_13**: 13 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_14**: 14 wait
- **EXB\_INTERNAL\_WAIT\_15**: 15 wait

uint8\_t

**ReadSetupCycle** : リード(RDn)セットアップサイクルを設定します。

- EXB\_CYCLE\_0: 0 cycle
- EXB\_CYCLE\_1: 1 cycle
- EXB\_CYCLE\_2: 2 cycle
- EXB\_CYCLE\_4: 4 cycle

uint8\_t

**WriteSetupCycle** : ライト(WRn)セットアップサイクルを設定します。

- EXB\_CYCLE\_0: 0 cycle
- EXB\_CYCLE\_1: 1 cycle
- EXB\_CYCLE\_2: 2 cycle
- EXB\_CYCLE\_4: 4 cycle

uint8\_t

**ALEWaitCycle**: ALE ウェイトサイクル(マルチプレクスバスモード時)を選択します。

- EXB\_CYCLE\_0: 0 cycle
- EXB\_CYCLE\_1: 1 cycle
- EXB\_CYCLE\_2: 2 cycle
- EXB\_CYCLE\_4: 4 cycle

uint8\_t

**ReadRecoveryCycle**: リード(RDn)リカバリサイクルを選択します。

- EXB\_CYCLE\_0: 0 cycle
- EXB\_CYCLE\_1: 1 cycle
- EXB\_CYCLE\_2: 2 cycle
- EXB\_CYCLE\_3: 3 cycle
- EXB\_CYCLE\_4: 4 cycle
- EXB\_CYCLE\_5: 5 cycle
- EXB\_CYCLE\_6: 6 cycle
- EXB\_CYCLE\_8: 8 cycle

uint8\_t

**WriteRecoveryCycle**: ライト(WRn)リカバリサイクルを選択します。

- EXB\_CYCLE\_0: 0 cycle
- EXB\_CYCLE\_1: 1 cycle
- EXB\_CYCLE\_2: 2 cycle
- EXB\_CYCLE\_3: 3 cycle
- EXB\_CYCLE\_4: 4 cycle
- EXB\_CYCLE\_5: 5 cycle
- EXB\_CYCLE\_6: 6 cycle
- EXB\_CYCLE\_8: 8 cycle

uint8\_t

**ChipSelectRecoveryCycle** : チップセレクト(CSxn)リカバリサイクルを選択します。

- EXB\_CYCLE\_0: 0 cycle
- EXB\_CYCLE\_1: 1 cycle
- EXB\_CYCLE\_2: 2 cycle
- EXB\_CYCLE\_4: 4 cycle

## 8. FC

### 8.1 概要

本デバイスは、フラッシュメモリを内蔵しています。TMPM341FD のフラッシュメモリのサイズは、512Kbyte、TMPM341FY のフラッシュメモリのサイズは 256Kbyte です。

オンボードプログラミングにおいて、CPU はソフトウェアを実行し、flash メモリへのデータ書き込み / 削除を行います。データ書き込み / 削除は JEDEC 標準型コマンドに従って行います。また、Flash メモリをモニターするレジスタを提供し、各ブロックのプロテクション状態の表示、セキュリティ機能の設定を行います。

ブロック構成は、デバイスのデータシートを参照してください。

全ドライバ API は、アプリで使用する API 定義、マクロ、データタイプ、構造を格納する以下のファイルで構成されています。

\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm341\_fc.c  
\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\inc\\tmpm341\_fc.h

### 8.2 API 関数

#### 8.2.1 関数一覧

- ◆ void FC\_SetSecurityBit(FunctionalState **NewState**)
- ◆ FunctionalState FC\_GetSecurityBit(void)
- ◆ WorkState FC\_GetBusyState(void)
- ◆ FunctionalState FC\_GetBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)
- ◆ FunctionalState FC\_ProgramBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)
- ◆ FC\_Result FC\_EraseBlockProtectState(uint8\_t **BlockGroup**)
- ◆ FC\_Result FC\_WritePage(uint32\_t **PageAddr**, uint32\_t \* **Data**)
- ◆ FC\_Result FC\_EraseBlock(uint32\_t **BlockAddr**)
- ◆ FC\_Result FC\_EraseChip(void)

#### 8.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

- 1) セキュリティ設定(Flash ROM データの読み出し、デバッグ):  
FC\_SetSecurityBit(), FC\_GetSecurityBit()
- 2) 自動動作状態およびプロテクト状態の取得:  
FC\_GetBusyState(), FC\_GetBlockProtectState()
- 3) プロテクトの設定:  
FC\_ProgramBlockProtectState(), FC\_EraseBlockProtectState()
- 4) 自動実行コマンド(書き込み、チップ消去、ブロック消去):  
FC\_WritePage(), FC\_EraseBlock(), FC\_EraseChip()

#### 8.2.3 関数仕様

##### 8.2.3.1 FC\_SetSecurityBit

セキュリティビットの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
FC\_SetSecurityBit (FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:** セキュリティビットを設定します。

- **DISABLE:** セキュリティ機能設定不可
- **ENABLE:** セキュリティビット設定可能

**機能:**

- 1) 書き込み/消去プロテクト用のすべてのプロテクトビット (PSRA<BLKn>)を”1”にします。
  - 2) FCSECBIT<SECBIT>を”1”にします。
- 上記の 2 つの条件が成立すると、セキュリティ機能が有効になります。セキュリティ機能が有効な状態の制限内容は次の通りです。
- ROM 領域のデータの読み出し。
  - JTAG/SW、トレースの通信

したがって、この API を使用する場合は、注意して実行してください。

FCSECBIT<SECBIT>はパワーオンリセットおよび低消費電力モードの STOP2 解除で初期化されます。

**戻り値:**

なし

## 8.2.3.2 FC\_GetSecurityBit

セキュリティビットの設定状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

FunctionalState  
FC\_GetSecurityBit(void)

**引数:**

なし

**機能:**

セキュリティビットの設定状態を取得します。

**戻り値:**

**DISABLE:** セキュリティ機能設定不可  
**ENABLE:** セキュリティビット設定可能

## 8.2.3.3 FC\_GetBusyState

自動動作状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

WorkState  
FC\_GetBusyState(void)

引数:

なし。

機能:

自動動作状態を取得します。

戻り値:

**BUSY**: 自動動作中

**DONE**: 自動動作終了

## 8.2.3.4 FC\_GetBlockProtectState

ブロックのプロテクト状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

FC\_GetBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)

引数:

**BlockNum**: ブロック番号を選択します。

➤ FC\_BLOCK\_0 ~ FC\_BLOCK\_5

機能:

各ブロックのプロテクト状態を示します。プロテクト状態の時には、書き込み、消去ができません。

戻り値:

ブロックプロテクトの状態:

**DISABLE**: プロテクト状態ではない。

**ENABLE**: プロテクト状態

## 8.2.3.5 FC\_ProgramBlockProtectState

ブロックのプロテクト設定

関数のプロトタイプ宣言:

FunctionalState

FC\_ProgramBlockProtectState(uint8\_t **BlockNum**)

引数:

**BlockNum**: ブロック番号を選択します。

➤ FC\_BLOCK\_0 ~ FC\_BLOCK\_5

機能:

ブロックプロテクトを設定します。プロテクト状態の時には、書き込み、消去ができません。

戻り値:

**FC\_SUCCESS**: プロテクト設定の成功

**FC\_ERROR\_PROTECTED**: プロテクト設定の失敗(すでにプロテクト済の場合は再度プロテクト設定を行いません)



FC\_ERROR\_OVER\_TIME: プロテクト設定の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 8.2.3.6 FC\_EraseBlockProtectState

プロテクトの解除

関数のプロトタイプ宣言:

FC\_Result

FC\_EraseBlockProtectState(uint8\_t **BlockGroup**)

引数:

**BlockGroup**: ブロックグループを指定してください。

➤ FC\_BLOCK\_GROUP\_1: ブロック 4, 5

➤ FC\_BLOCK\_GROUP\_0: ブロック 0~3

機能:

プロテクトビットを"0"にすることでプロテクトを解除します。

戻り値:

FC\_SUCCESS: プロテクト解除の成功

FC\_ERROR\_OVER\_TIME: プロテクト解除の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 8.2.3.7 FC\_WritePage

ページ単位の書き込み

関数のプロトタイプ宣言:

FC\_Result

FC\_WritePage(uint32\_t **PageAddr**, uint32\_t \* **Data**)

引数:

**PageAddr**: ページの開始アドレスを指定します。

**Data**: 書き込むデータバッファへのポインタを指定します。TMPM341FD のサイズは 512Byte、TMPM341FY のサイズは 256Byte です。

機能:

ページ書き込みを行います。

自動ページ書き込みは、既に消去された 1 ページにつき一回のみ実施されます。データ値が"1" または "0" のいずれかであっても、2 回以上書き込みを実施しないでください。

補足: あらかじめデータを消去せずに書き込みを行うと、デバイスに損傷を与える恐れがあります。

戻り値:

FC\_SUCCESS: 書き込み成功

FC\_ERROR\_PROTECTED: 書き込み失敗(ブロックにプロテクトが設定されている)

FC\_ERROR\_OVER\_TIME: 書き込みの失敗(自動動作のタイムアウト)

## 8.2.3.8 FC\_EraseBlock

ブロック単位の消去

関数のプロトタイプ宣言:

FC\_Result

FC\_EraseBlock(uint32\_t **BlockAddr**)

引数:

**BlockAddr**: ブロック開始アドレスを指定してください。

機能:

ブロック単位の消去を行います。プロテクトされていないブロックに対してのみ消去を行います。

戻り値:

**FC\_SUCCESS**: 消去成功

**FC\_ERROR\_PROTECTED**: 消去失敗(ブロックにプロテクトが設定されている)

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME**: 消去の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 8.2.3.9 FC\_EraseChip

チップ消去

関数のプロトタイプ宣言:

FC\_Result

FC\_EraseChip(void)

引数:

なし。

機能:

チップ消去を行います。ブロックの一部にプロテクトが設定されている場合、そのブロックのデータは消去されません。

戻り値:

**FC\_SUCCESS**: チップ消去成功。ただしブロックの一部にプロテクトが設定されている場合、そのブロックのデータは消去されません。

**FC\_ERROR\_PROTECTED**: 消去失敗(すべてのブロックにプロテクトが設定されている)

**FC\_ERROR\_OVER\_TIME**: 消去の失敗(自動動作のタイムアウト)

## 8.2.4 データ構造

なし

## 9. GPIO

### 9.1 概要

本デバイスの汎用 I/O ポートは、入出力はビット単位で指定でき、入出力ポート機能の他に、内蔵する周辺機能に対する入出力端子としても使用されます。

GPIO ドライバ API は各ポートの設定機能を持ち、入出力、プルアップ、プルダウン、オープンドレイン、CMOS などを設定します。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_gpio.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_gpio.h

### 9.2 API 関数

#### 9.2.1 関数一覧

- ◆ uint8\_t GPIO\_ReadData(GPIO\_Port **GPIO\_x**);
- ◆ uint8\_t GPIO\_ReadDataBit(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**) ;
- ◆ void GPIO\_WriteData(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Data**) ;
- ◆ void GPIO\_WriteDataBit(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**, uint8\_t **BitValue**) ;
- ◆ void GPIO\_Init(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
GPIO\_InitTypeDef \***GPIO\_InitStruct**);
- ◆ void GPIO\_SetOutput(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_SetInput(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_SetOutputEnableReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetInputEnableReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetPullUp(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**) ;
- ◆ void GPIO\_SetPullDown(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_SetOpenDrain(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **Bit\_x**,  
FunctionalState **NewState**);
- ◆ void GPIO\_EnableFuncReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **FuncReg\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);
- ◆ void GPIO\_DisableFuncReg(GPIO\_Port **GPIO\_x**, uint8\_t **FuncReg\_x**, uint8\_t **Bit\_x**);

#### 9.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。

- 1) 入出力ポートへの書き込み/読み出し:  
GPIO\_ReadData(), GPIO\_ReadDataBit(), GPIO\_WriteData(), GPIO\_WriteDataBit()
- 2) 入出力ポートの初期化と設定:  
GPIO\_SetOutput(), GPIO\_SetInput(), GPIO\_SetOutputEnableReg(),  
GPIO\_SetInputEnableReg(), GPIO\_SetPullUp(), GPIO\_SetPullDown(),  
GPIO\_SetOpenDrain(), GPIO\_Init()
- 3) その他:  
GPIO\_EnableFuncReg(), GPIO\_DisableFuncReg()

## 9.2.3 関数仕様

### 9.2.3.1 GPIO\_ReadData

DATA データレジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
GPIO_ReadData(GPIO_Port GPIO_x);
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J
- **GPIO\_PK**: GPIO port K

機能:

DATA レジスタを読み込みます。

戻り値:

DATA レジスタの値

### 9.2.3.2 GPIO\_ReadDataBit

ビット単位での DATA レジスタの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint8_t  
GPIO_ReadDataBit(GPIO_Port GPIO_x,  
uint8_t Bit_x);
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J
- **GPIO\_PK**: GPIO port K

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7

**機能:**

ビット単位で DATA データレジスタを読み込みます。

**戻り値:**

GPIO 端子の値:

- **GPIO\_BIT\_VALUE\_0:** 0
- **GPIO\_BIT\_VALUE\_1:** 1

### 9.2.3.3 GPIO\_WriteData

DATA レジスタへの書き込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_WriteData(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Data);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J
- **GPIO\_PK:** GPIO port K

**Data:** DATA レジスタに書き込む値を設定します。

**機能:**

DATA レジスタへ指定された値を書き込みます。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.4 GPIO\_WriteDataBit

ビット単位での DATA レジスタの書き込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_WriteDataBit(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  uint8_t BitValue);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J
- **GPIO\_PK:** GPIO port K

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7

**BitValue:** GPIO 端子値を選択します。

- **GPIO\_BIT\_VALUE\_0:** 0
- **GPIO\_BIT\_VALUE\_1:** 1

**機能:**

ビット単位で DATA データレジスタを書き込みます。

**戻り値:**

なし

### 9.2.3.5 GPIO\_Init

GPIO ポートの初期設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_Init(GPIO_Port GPIO_x,  
          uint8_t Bit_x,  
          GPIO_InitTypeDef * GPIO_InitStruct);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C

- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J
- **GPIO\_PK:** GPIO port K

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**GPIO\_InitStruct:** GPIO 基本設定の構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

**機能:**

GPIO ポートを IO モード、プルアップ、プルダウン、オープンドレインポート、CMOS ポートなどの設定をおこないます。本 API は **GPIO\_SetOutput()**, **GPIO\_SetInput()**, **GPIO\_SetPullUP()**, **GPIO\_SetOpenDrain()**を実行します。

**戻り値:**

なし

## 9.2.3.6 GPIO\_SetOutput

出力ポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetOutput(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Bit_x);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J
- **GPIO\_PK:** GPIO port K

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**機能:**

出力ポートに設定します。

**戻り値:**

なし

## 9.2.3.7 GPIO\_SetInput

入力ポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetInput(GPIO_Port GPIO_x,  
               uint8_t Bit_x);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J
- **GPIO\_PK:** GPIO port K

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**機能:**

入力ポートに設定します。

**戻り値:**



なし

## 9.2.3.8 GPIO\_SetOutputEnableReg

出力ポートの許可/禁止設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetOutputEnableReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                        uint8_t Bit_x,  
                        FunctionalState NewState);
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J
- **GPIO\_PK**: GPIO port K

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

**NewState**:

- **ENABLE**: 出力許可
- **DISABLE**: 出力禁止

機能:

GPIO 端子出力の許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、出力許可。

**NewState** が **DISABLE** の時、出力禁止。

戻り値:

なし

## 9.2.3.9 GPIO\_SetInputEnableReg

入力ポートの許可/禁止設定

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetInputEnableReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                        uint8_t Bit_x,  
                        FunctionalState NewState);
```

## 引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J
- **GPIO\_PK**: GPIO port K

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL**: すべての GPIO 端子

## **NewState**:

- **ENABLE**: 入力許可
- **DISABLE**: 入力禁止

## 機能:

GPIO 端子入力の許可/禁止を設定します。**NewState** が **ENABLE** の時、入力を許可します。**NewState** が **DISABLE** の時、入力を禁止します。

## 戻り値:

なし

### 9.2.3.10 GPIO\_SetPullUp

プルアップポートの設定

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_SetPullUp(GPIO_Port GPIO_x,  
                uint8_t Bit_x,  
                FunctionalState NewState);
```

## 引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I
- **GPIO\_PJ:** GPIO port J
- **GPIO\_PK:** GPIO port K

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE:** プルアップ許可
- **DISABLE:** プルアップ禁止

**機能:**

GPIO 端子プルアップの許可/禁止を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時、プルアップを許可し、**NewState** が **DISABLE** の時、プルアップを禁止します。

**戻り値:**

なし

## 9.2.3.11 GPIO\_SetPullDown

プルダウンポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetPullDown(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  FunctionalState NewState);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PI :** GPIO port I.

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3

- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE:** プルダウン許可
- **DISABLE:** プルダウン禁止

**機能:**

GPIO 端子プルダウンの許可/禁止を設定します。**NewState** が **ENABLE** の時、プルダウンを許可します。**NewState** が **DISABLE** の時、プルダウンを禁止します。

**戻り値:**

なし

## 9.2.3.12 GPIO\_SetOpenDrain

CMOS/オープンドレインポートの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_SetOpenDrain(GPIO_Port GPIO_x,  
                  uint8_t Bit_x,  
                  FunctionalState NewState);
```

**引数:**

**GPIO\_x:** GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA:** GPIO port A
- **GPIO\_PB:** GPIO port B
- **GPIO\_PC:** GPIO port C
- **GPIO\_PD:** GPIO port D
- **GPIO\_PE:** GPIO port E
- **GPIO\_PF:** GPIO port F
- **GPIO\_PG:** GPIO port G
- **GPIO\_PH:** GPIO port H
- **GPIO\_PI:** GPIO port I

**Bit\_x:** GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0:** GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1:** GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2:** GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3:** GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4:** GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5:** GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6:** GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7:** GPIO pin 7
- **GPIO\_BIT\_ALL:** すべての GPIO 端子

**NewState:**

- **ENABLE:** オープンドレイン許可
- **DISABLE:** CMOS 許可

**機能:**

GPIO 端子 CMOS/オープンドレインの許可/禁止を設定します。**NewState** が **ENABLE** の時、オープンドレインを許可します。**NewState** が **DISABLE** の時、CMOS を許可します。

**戻り値:**

なし

## 9.2.3.13 GPIO\_EnableFuncReg

機能ポートの有効設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
GPIO_EnableFuncReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                    uint8_t FuncReg_x,  
                    uint8_t Bit_x);
```

**引数:**

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J
- **GPIO\_PK**: GPIO port K

**FuncReg\_x**: GPIO 機能レジスタの番号を選択します。

- **GPIO\_FUNC\_REG\_1**: GPIO 機能レジスタ 1
- **GPIO\_FUNC\_REG\_2**: GPIO 機能レジスタ 2
- **GPIO\_FUNC\_REG\_3**: GPIO 機能レジスタ 3
- **GPIO\_FUNC\_REG\_4**: GPIO 機能レジスタ 4

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7

**機能:**

GPIO 端子の機能を有効に設定します。

**戻り値:**

なし

## 9.2.3.14 GPIO\_DisableFuncReg

機能ポートの無効設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
GPIO_DisableFuncReg(GPIO_Port GPIO_x,  
                     uint8_t FuncReg_x,  
                     uint8_t Bit_x);
```

引数:

**GPIO\_x**: GPIO ポートを選択します。

- **GPIO\_PA**: GPIO port A
- **GPIO\_PB**: GPIO port B
- **GPIO\_PC**: GPIO port C
- **GPIO\_PD**: GPIO port D
- **GPIO\_PE**: GPIO port E
- **GPIO\_PF**: GPIO port F
- **GPIO\_PG**: GPIO port G
- **GPIO\_PH**: GPIO port H
- **GPIO\_PI**: GPIO port I
- **GPIO\_PJ**: GPIO port J
- **GPIO\_PK**: GPIO port K

**FuncReg\_x**: GPIO 機能レジスタの番号を選択します。

- **GPIO\_FUNC\_REG\_1**: GPIO 機能レジスタ 1
- **GPIO\_FUNC\_REG\_2**: GPIO 機能レジスタ 2
- **GPIO\_FUNC\_REG\_3**: GPIO 機能レジスタ 3
- **GPIO\_FUNC\_REG\_4**: GPIO 機能レジスタ 4

**Bit\_x**: GPIO 端子を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **GPIO\_BIT\_0**: GPIO pin 0
- **GPIO\_BIT\_1**: GPIO pin 1
- **GPIO\_BIT\_2**: GPIO pin 2
- **GPIO\_BIT\_3**: GPIO pin 3
- **GPIO\_BIT\_4**: GPIO pin 4
- **GPIO\_BIT\_5**: GPIO pin 5
- **GPIO\_BIT\_6**: GPIO pin 6
- **GPIO\_BIT\_7**: GPIO pin 7

機能:

GPIO 端子の機能を無効に設定します。

戻り値:

なし

## 9.2.4 データ構造

### 9.2.4.1 GPIO\_InitTypeDef

メンバ:

```
uint8_t  
IOMode   ポートの入出力設定  
➤ GPIO_INPUT: 入力ポートに設定
```

- **GPIO\_OUTPUT:** 出力ポートに設定
- **GPIO\_IO\_MODE\_NONE:** 入出力モードを変更しない

uint8\_t

**PullUp** プルアップポートの許可/禁止設定

- **GPIO\_PULLUP\_ENABLE:** プルアップ許可
- **GPIO\_PULLUP\_DISABLE:** プルアップ禁止
- **GPIO\_PULLUP\_NONE:** プルアップ機能が無い、または設定変更しない

uint8\_t

**OpenDrain** オープンドレインポート/CMOSポートの設定

- **GPIO\_OPEN\_DRAIN\_ENABLE:** オープンドレインポートに設定
- **GPIO\_OPEN\_DRAIN\_DISABLE:** CMOSポートに設定
- **GPIO\_OPEN\_DRAIN\_NONE:** オープンドレイン機能がない、または設定変更しない

uint8\_t

**PullDown** プルダウンポートの許可/禁止設定

- **GPIO\_PULLDOWN\_ENABLE:** プルダウン許可
- **GPIO\_PULLDOWN\_DISABLE:** プルダウン禁止
- **GPIO\_PULLDOWN\_NONE:** プルダウン機能がない、または設定変更しない

## 10. OFD

### 10.1 概要

本製品は、周波数検知回路(OFD)を内蔵し、高調波、低調波のよなクロックの異常状態あるいは停止を検出すると、リセット信号を発生させることができます。

OFDドライバの API では、OFD 機能の有効/無効、検知周波数の設定、OFD 状態の取得などの機能セットが提供されています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_ofd.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_ofd.h

### 10.2 API 関数

#### 10.2.1 関数一覧

- ◆ void OFD\_SetRegWriteMode(FunctionalState **NewState**);
- ◆ void OFD\_Enable(void);
- ◆ void OFD\_Disable(void);
- ◆ void OFD\_SetDetectionFrequency(uint8\_t **HigherDetectionCount**,  
uint8\_t **LowerDetectionCount**);
- ◆ void OFD\_Reset(FunctionalState NewState);
- ◆ OFD\_Status OFD\_GetStatus(void);

#### 10.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。

- 1) OFD 機能の設定:  
OFD\_SetRegWriteMode(), OFD\_SetDetectionFrequency (),OFD\_Enable (),  
OFD\_Disable ()
- 2) OFD 状態の取得:  
OFD\_GetStatus()
- 3) その他:  
OFD\_Reset ()

#### 10.2.3 関数仕様

##### 10.2.3.1 OFD\_SetRegWriteMode

OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタ書き込み制御

関数のプロトタイプ宣言:

void  
OFD\_SetRegWriteMode(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタ書き込みを制御します。



- **ENABLE** : 許可。
- **DISABLE**: 禁止。

**機能:**

**NewState** が **ENABLE** の場合、OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタの書き込みを可能にします。**NewState** が **DISABLE** の場合、OFDCR2/OFDMN/OFDMX レジスタの書き込みを不可とします

**戻り値:**

なし

## 10.2.3.2 OFD\_Enable

OFD 機能の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_Enable(void)
```

**引数:**

なし。

**機能:**

OFD 機能を許可します。

**戻り値:**

なし

## 10.2.3.3 OFD\_Disable

OFD 機能の禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_Disable(void)
```

**引数:**

なし。

**機能:**

OFD 機能を禁止します。

**戻り値:**

なし

## 10.2.3.4 OFD\_SetDetectionFrequency

検知周波数の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
OFD_SetDetectionFrequency(uint32_t HigherDetectionCount,  
                           uint32_t LowerDetectionCount);
```

引数:

**HigherDetectionCount**: 検知周波数上限値のカウント値。最大値は 0x1FFU。

**LowerDetectionCount**: 検知周波数下限値のカウント値。最大値は 0x1FFU。

機能:

外部または内部発振検知用のカウント値を設定します。

戻り値:

なし

## 10.2.3.5 OFD\_Reset

OFD リセット発生制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
OFD_Reset(FunctionalState NewState)
```

引数:

**NewState**: OFD リセット発生 of 許可/禁止を選択します。

➤ **ENABLE**: 許可。

➤ **DISABLE**: 禁止。

機能:

OFD リセット of 許可/禁止を選択します。

戻り値:

なし

## 10.2.3.6 OFD\_GetStatus

OFD 動作状態、異常検知状態 of 取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
OFD_Status  
OFD_GetStatus(void)
```

引数:

なし。

機能:

OFD 動作状態と異常検知状態 of 取得します。

戻り値:

**OFD\_Status**: OFD 状態 of 格納した構造体(詳細は“データ構造説明”を参照)

10.2.4      データ構造

10.2.4.1 OFD\_Status

メンバ:

uint32\_t

*All:* すべてのデータ

*Bit*

uint32\_t

*Frequency Error:* 1            異常検知

uint32\_t

*OFDBusy:* 1                    OFD 動作中

## 11. PHC

### 11.1 概要

本デバイスは、2 相パルス入力カウンタを 4 チャンネル内蔵しています。PHCxIN0、PHCxIN1 より入力される位相差のある 2 相パルス入力の状態遷移により、アップダウンカウンタをアップまたはダウンします。PHCxIN0、PHCxIN1 は許可/禁止が選択可能なノイズフィルタを内蔵しています。

2つのコンペアレジスタを持ち、アップダウンカウンタがコンペアレジスタと一致した時に割り込みを発生させることができます。また、アップダウンカウンタ動作ごとに割り込みを発生させることもできます。

カウント動作は 3 種類存在し、モードの切り替えはレジスタにより制御します。

1. 通常動作モード(4 カウント目で UP/DOWN)
2. 4 逓倍モード(全てのカウントで UP/DOWN)
3. 2 逓倍モード
  - PHCxIN0 入力
  - PHCxIN1 入力

PHCドライバ API は、PHC チャンネルの設定、モードの設定、ノイズフィルタの設定、割り込み要求の設定、ステータスリード、カウンタリードなどが含まれます。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_phc.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_phc.h

### 11.2 API 関数

#### 11.2.1 関数一覧

- ◆ void PHC\_Enable(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**);
- ◆ void PHC\_Disable(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**);
- ◆ void PHC\_SetRunState(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, uint32\_t **Cmd**);
- ◆ void PHC\_Init(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, PHC\_InitTypeDef \* **InitStruct**);
- ◆ PHC\_INTFactor PHC\_GetINTFactor(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**);
- ◆ void PHC\_ClearINTFactor(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, uint32\_t **ClearINT**);
- ◆ void PHC\_EnableInterrupt(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, uint32\_t **EnableINT**);
- ◆ void PHC\_DisableInterrupt(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, uint32\_t **DisableINT**);
- ◆ uint16\_t PHC\_GetPulseCntValue(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**);
- ◆ void PHC\_ClearPulseCntValue(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**);
- ◆ uint16\_t PHC\_GetCompareValue(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, uint8\_t **CmpReg**);
- ◆ void PHC\_SetCompareValue(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, uint8\_t **CmpReg**, uint16\_t **CmpValue**);
- ◆ void PHC\_SetDMAReq(TSB\_PHC\_TypeDef \* **PHCx**, FunctionalState **NewState**, uint8\_t **DMAReq**);

## 11.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 3 種類に分かれています。

- 1) 各 PHC チャンネルの機能構成と制御:  
PHC\_Enable(), PHC\_Disable(), PHC\_Init(), PHC\_SetRunState()
- 2) 各 PHC チャンネルのステータスリード:  
PHC\_GetINTFactor(), PHC\_GetPulseCntValue(), PHC\_GetCompareValue()
- 3) その他:  
PHC\_ClearINTFactor(), PHC\_EnableInterrupt(), PHC\_DisableInterrupt(),  
PHC\_ClearPulseCntValue(), PHC\_SetCompareValue(), PHC\_SetDMAReq()

## 11.2.3 関数仕様

**補足:** 下記すべての API において、パラメーター “TSB\_PHC\_TypeDef \* *PHCx*” は、次のいずれかを選択してください。

TSB\_PCH0, TSB\_PCH1, TSB\_PCH2, TSB\_PCH3

### 11.2.3.1 PHC\_SetRunState

アップダウンカウンタ PHCNT のカウント動作制御

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
PHC_SetRunState(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
                uint32_t Cmd);
```

**引数:**

*PHCx*: PHCNT チャンネルを選択します。

*Cmd*: 以下からカウント動作を選択します。

- **PHC\_RUN**: 動作
- **PHC\_STOP**: 停止&クリア

**機能:**

*Cmd* が **PHC\_RUN** の場合、アップダウンカウンタのカウント動作を開始します。

*Cmd* が **PHC\_STOP** の場合、アップダウンカウンタのカウント動作を停止し、内部カウンタをクリアします。

**戻り値:**

なし

### 11.2.3.2 PHC\_Init

PHCCNT の初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
PHC_Init (TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
          PHC_InitTypeDef * InitStruct);
```

**引数:**

*PHCx*: PHCNT チャンネルを選択します。

**InitStruct:** カウントモード、ノイズフィルター制御、カウンタクリアなどの PHCNT 基本構成を含む構造体です。(詳細は“データ構成説明”を参照)

**機能:**

PHCNT を初期化します。

**戻り値:**

なし

### 11.2.3.3 PHC\_GetINTFactor

割り込み要因の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

PHC\_INTFactor

PHC\_GetINTFactor(TSB\_PHC\_TypeDef\* **PHCx**)

**引数:**

**PHCx:** PHCNT チャンネルを選択します。

**機能:**

PHCNT 割り込み要因を取得します。

**戻り値:**

PHCNT の割り込み要因: 以下は各ビットの意味です。

**Compare0** (Bit0): コンペア 0 一致割り込み

**Compare1** (Bit1): コンペア 1 一致割り込み

**Overflow** (Bit2): カウンタオーバーフロー

**Underflow** (Bit3): カウンタアンダーフロー

**補足:**

異なる割り込み要因を処理する場合は、以下のように記述してください。

```
PHC_INTFactor factor = PHC_GetINTFactor(TSB_PHC0);
if (factor.Bit.Compare0) {
    // Do A
}

if (factor.Bit.Compare1) {
    // Do B
}

if (factor.Bit.Overflow) {
    // Do C
}

if (factor.Bit.UnderFlow) {
    // Do D
}
```

### 11.2.3.4 PHC\_ClearINTFactor

割り込み要因のクリア

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
PHC_ClearINTFactor(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
uint32_t ClearINT)
```

## 引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

**ClearINT**: 以下からクリアする PHCNT 割り込み要因を選択します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **PHC\_FLG\_CMP0**: コンペア 0 一致割り込み
- **PHC\_FLG\_CMP1**: コンペア 1 一致割り込み
- **PHC\_FLG\_OVERFLOW**: カウンタオーバーフロー
- **PHC\_FLG\_UNDERFLOW**: カウンタアンダーフロー
- **PHC\_FLG\_ALL**: すべての割り込み要因

## 機能:

PHCNT 割り込みをクリアします。

## 戻り値:

なし

## 補足:

各割り込み要因は自動的にクリアされません。使用前に初期化してください。

### 11.2.3.5 PHC\_EnableInterrupt

PHCNT 割り込みの許可

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
PHC_EnableInterrupt(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
uint32_t EnableINT);
```

## 引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

**EnableINT**: 許可する割り込み要因を選択します。本引数は組み合わせ指定が可能です。

- **PHC\_CR\_INT\_COMP0**: INTPHTx0 割り込み (x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_COMP1**: INTPHTx1 割り込み (x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_COMP0\_AND\_1**: INTPHTx0 および INTPHTx1 の両割り込み(x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_EVERY**: INTPHEVRYx 割り込み (x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_ALL**: 上記全ての割り込み

## 機能:

PHCNT 割り込みを許可します。

## 戻り値:

なし

## 11.2.3.6 PHC\_DisableInterrupt

PHCNT 割り込みの禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
PHC_DisableInterrupt(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
                     uint32_t DisableINT);
```

引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

**DisableINT**: 禁止する割り込み要因を選択します。本引数は組み合わせ指定が可能です。

- **PHC\_CR\_INT\_COMP0**: INTPHTx0 割り込み (x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_COMP1**: INTPHTx1 割り込み (x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_COMP0\_AND\_1**: INTPHTx0 および INTPHTx1 の両割り込み(x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT EVERY**: INTPHEVRYx 割り込み (x: 0 ~ 3)
- **PHC\_CR\_INT\_ALL**: 上記全ての割り込み

機能:

PHCNT 割り込みを禁止します。

戻り値:

なし

## 11.2.3.7 PHC\_GetPulseCntValue

アップダウンカウンタ値の読み出し

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
PHC_GetPulseCntValue(TSB_PHC_TypeDef * PHCx);
```

引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

機能:

アップダウンカウンタ値を読み出します。

戻り値:

アップダウンカウンタ値

補足:

PHCxCNT は MCU の動作クロックと非同期でカウントアップダウンします。そのため読み出すタイミングによっては正しい値を読み出すことができません。PHCxCNT を読み出すには、PHCxCNT を 2 回読み出し、読み出した値が一致するか確認するか、INTPHEVRYx 割り込みサービスルーチンの中で、次のカウントアップダウンまでに PHCxCNT を読み出してください。



## 11.2.3.8 PHC\_ClearPulseCntValue

アップダウンカウンタ値のクリア

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
PHC_ClearPulseCntValue(TSB_PHC_TypeDef * PHCx);
```

引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

機能:

アップダウンカウンタ値をクリアします。

戻り値:

なし

補足:

本 API をコールするとカウンタ値は **0x7FFF** となります。

## 11.2.3.9 PHC\_GetCompareValue

コンペア値の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
PHC_GetCompareValue(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
                    uint8_t CmpReg)
```

引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

**CmpReg**: コンペアレジスタを選択します。

- **PHC\_COMP\_0**: コンペアレジスタ 0
- **PHC\_COMP\_1**: コンペアレジスタ 1

機能:

**CmpReg** が **PHC\_COMP\_0** の場合、コンペアレジスタ 0 の値を取得します。

**CmpReg** が **PHC\_COMP\_1** の場合、コンペアレジスタ 1 の値を取得します。

戻り値:

コンペア値

## 11.2.3.10 PHC\_SetCompareValue

コンペア値の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
PHC_SetCompareValue(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
                    uint8_t CmpReg,  
                    uint16_t CmpValue);
```

引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

**CmpReg**: コンペアレジスタを選択します。

- **PHC\_COMP\_0**: コンペアレジスタ 0
- **PHC\_COMP\_1**: コンペアレジスタ 1

**CmpValue**: コンペアレジスタへ設定する値です。

機能:

**CmpReg** が **PHC\_COMP\_0** の場合、コンペアレジスタ 0 へ値を設定します。

**CmpReg** が **PHC\_COMP\_1** の場合、コンペアレジスタ 1 へ値を設定します。

戻り値:

なし

## 11.2.3.11 PHC\_SetDMAReq

DMA 要求の許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
PHC_SetDMAReq(TSB_PHC_TypeDef * PHCx,  
               FunctionalState NewState,  
               uint8_t DMAReq);
```

引数:

**PHCx**: PHCNT チャンネルを選択します。

**NewState**: DMA 要求の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**DMAReq**: 以下を設定します。

- **PHC\_DMA\_REQ\_CAPTURE\_2**

機能:

DMA 要求の許可/禁止を選択します。

戻り値:

なし

## 11.2.4 データ構造

### 11.2.4.1 PHC\_InitTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**Mode**: 動作モードを選択します。以下より設定します。

- **PHC\_CR\_MODE\_NORMAL**: 通常モード
- **PHC\_CR\_MODE\_4TIMES**: 4 通倍モード

- **PHC\_CR\_MODE\_2TIMES\_IN0**: 2 通倍モード(PHCxIN0)
- **PHC\_CR\_MODE\_2TIMES\_IN1**: 2 通倍モード(PHCxIN1)

uint32\_t

**NoiseFilterCtrl**: ノイズフィルタの許可/禁止を選択します。

- **PHC\_CR\_NOISEFILTER\_ON**: ON
- **PHC\_CR\_NOISEFILTER\_OFF**: OFF

uint32\_t

**CountClearCtrl**: カウンタ値を初期値にする/しないを選択します。

- **PHC\_COUNT\_CONTINUE**: Don't care
- **PHC\_COUNT\_CLR**: クリア

## 11.2.4.2 PHC\_INTFactor

メンバ:

uint32\_t

**All**: PHCxCNT 割り込み要因

**Bit**

uint32\_t

**Compare0**: 1      コンペア 0 一致割り込み

uint32\_t

**Compare1**: 1      コンペア 1 一致割り込み

uint32\_t

**Overflow**: 1      カウンタオーバーフロー

uint32\_t

**UnderFlow**: 1      カウンタアンダーフロー

uint32\_t

**Reserverd**: 28      未使用

## 12. SBI

### 12.1 概要

本デバイスはシリアルバスインターフェースチャンネルを有し、各チャンネルはマルチマスタが可能で I2C バスで動作可能です。

I2C バスモードでは、SCL および SDA を通して外部デバイスと接続されます。

SBI チャンネルによりデータをフリーデータフォーマットで転送できます。フリーデータフォーマットでは、マスタモード時は送信、スレーブモード時は受信になります。

SBI ドライバ API 関数は、SBI チャンネルの自己アドレス、クロック分周、ACK クロック生成等の設定、I2C の開始・終了条件のデータ転送、データ受信・送信の制御、状態復帰、SBI チャンネルモードの表示などの機能の設定を行う関数セットです。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_sbi.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_sbi.h

### 12.2 API 関数

#### 12.2.1 関数一覧

- ◆ void SBI\_Enable(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_Disable(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_SetI2CACK(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SBI\_InitI2C(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, SBI\_InitI2CTypeDef\* **InitI2CStruct**);
- ◆ void SBI\_SetI2CBitNum(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, uint32\_t **I2CBitNum**);
- ◆ void SBI\_SWReset(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_ClearI2CINTReq(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_Generatel2Cstart(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_Generatel2Cstop(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ SBI\_I2CState SBI\_GetI2CState(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_SetIdleMode(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SBI\_SetSendData(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, uint32\_t **Data**);
- ◆ uint32\_t SBI\_GetReceiveData(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**);
- ◆ void SBI\_SetI2CFreeDataMode(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**, FunctionalState **NewState**);

#### 12.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

- 1) 共通機能の設定:  
SBI\_Enable(), SBI\_Disable(), SBI\_SetI2CACK(), SBI\_SetI2CBitNum(), SBI\_InitI2C()
- 2) 転送制御:  
SBI\_ClearI2CINTReq(), SBI\_Generatel2Cstart(), SBI\_Generatel2Cstop(),  
SBI\_IsI2ClastRxBitSet(), SBI\_GetReceiveData()
- 3) ステータス確認:  
SBI\_GetI2CState()

4) その他:

SBI\_SWReset(), SBI\_SetIdleMode(), SBI\_EnableI2CfreeDataMode()

## 12.2.3 関数仕様

補足: 下記の全 API において、パラメータ“TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**”は以下のいずれかを選択してください。

TSB\_SBI0, TSB\_SBI1

### 12.2.3.1 SBI\_Enable

SBI 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void  
SBI\_Enable(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 動作を有効にします。

戻り値:

なし

### 12.2.3.2 SBI\_Disable

SBI 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void  
SBI\_Disable(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

SBI 動作を無効にします。

戻り値:

なし

### 12.2.3.3 SBI\_SetI2CACK

I2C バスモードにおける ACK 選択

関数のプロトタイプ宣言:

void  
SBI\_SetI2CACK(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**NewState**: ACK の発生有無を選択します。

- **ENABLE**: 発生する。
- **DISABLE**: 発生しない。

**機能**:

I2C 通信のアクノリッジメントクロック(ACK)のためのクロックを発生する/発生しないを選択します。**NewState**を **ENABLE** にすると ACK クロックを発生し、**DISABLE** にすると ACK クロックを発生しません。

**戻り値**:

なし

## 12.2.3.4 SBI\_InitI2C

I2C バスモードにおける通信の初期化

**関数のプロトタイプ宣言**:

```
void  
SBI_InitI2C(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
             SBI_InitI2CTypeDef* InitI2CStruct)
```

**引数**:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**InitI2CStruct**: SBI に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

**機能**:

I2C バスアドレス、転送ビット数、出力クロックの周波数選択、ACK クロック生成、I2C 転送モードの初期化を行います。

**戻り値**:

なし

## 12.2.3.5 SBI\_SetI2CBitNum

I2C バスモードにおける転送ビット数の選択

**関数のプロトタイプ宣言**:

```
void  
SBI_SetI2CBitNum(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                  uint32_t I2CBitNum)
```

**引数**:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**I2CBitNum**: 転送ビット数(1~8)を選択します。

- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_8**: データ長 8
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_1**: データ長 1
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_2**: データ長 2
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_3**: データ長 3
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_4**: データ長 4
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_5**: データ長 5

- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_6:** データ長 6
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_7:** データ長 7

**機能:**

転送ビット数を選択します。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.6 SBI\_SWReset

ソフトウェアリセットの発生

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_SWReset(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

シリアルバスインターフェース回路を初期化するリセット信号を発生します。リセット後、すべての制御レジスタやステータスフラグはリセット後の値に初期化されます。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.7 SBI\_ClearI2CINTReq

I2C バスモードにおける INTSBIx 割り込み要求解除

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_ClearI2CINTReq(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

**引数:**

**SBIx:** SBI チャンネルを指定します。

**機能:**

SBI 割り込み要求を解除します。

**戻り値:**

なし

## 12.2.3.8 SBI\_GeneratI2CStart

I2C バスモードにおけるスタート状態の発生

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SBI_GeneratI2CStart(TSB_SBI_TypeDef* SBIx)
```

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

I2C バスモードをマスタにし、I2C バスにスタートコンディションを出力します。

戻り値:

なし

## 12.2.3.9 SBI\_Generatel2CStop

I2C バスモードにおけるストップ状態の発生

関数のプロトタイプ宣言:

void

SBI\_Generatel2CStop(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

I2C バスモードをマスタにし、I2C バスにストップコンディションを出力します。

戻り値:

なし

## 12.2.3.10 SBI\_Getl2CState

I2C バスモードにおける SBI チャンネルの状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

SBI\_l2CState

SBI\_Getl2CState(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

I2C バスモード中の SBI チャンネルの状態を読み込みます。SBI 割り込みの ISR で本関数をコールし、SBI チャンネルの状態によってプロセスを変更します。

戻り値:

I2C モードでの SBI チャンネルの状態

## 12.2.3.11 SBI\_SetIdleMode

IDLE モード時の動作の許可/禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void



SBI\_SetIdleMode(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**NewState**: システムが idle モードの時の動作を指定します。

➤ **ENABLE**: 許可。

➤ **DISABLE**: 禁止。

機能:

**NewState** が **ENABLE** の場合 IDLE モードに遷移しても SBI チャンネルは動作します。

**DISABLE** を選択すると IDLE モード時に禁止されます。

戻り値:

なし

## 12.2.3.12 SBI\_SetSendData

データ送信

関数のプロトタイプ宣言:

void

SBI\_SetSendData(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**,  
uint32\_t **Data**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**Data**: 送信データ。(最大値は 0xFF です)

機能:

設定データを送信します。**SBI\_GenerateI2Cstart()**の実行によりスタートコンディションを出力後、または ACK (通常は SBI 割り込みにより発生)受信後、データを送信します。

戻り値:

なし

## 12.2.3.13 SBI\_GetReceiveData

データ受信

関数のプロトタイプ宣言:

uint32\_t

SBI\_GetReceiveData(TSB\_SBI\_TypeDef\* **SBIx**)

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

機能:

データを受信します。**SBI\_GenerateI2Cstart()**の実行によりスタートコンディションを出力後、または ACK (通常は SBI 割り込みにより発生)受信後、データを受信します。

戻り値:  
受信データ

## 12.2.3.14 SBI\_SetI2CFreeDataMode

アドレス認識モードの指定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SBI_SetI2CFreeDataMode(TSB_SBI_TypeDef* SBIx,  
                        FunctionalState NewState)
```

引数:

**SBIx**: SBI チャンネルを指定します。

**NewState**: アドレス認識モードを指定します。

- **ENABLE**: スレーブアドレスを認識しない。(フリーデータフォーマット)
- **DISABLE**: スレーブアドレスを認識する。

機能:

I2C モードにおけるデータフォーマットをフリーデータフォーマットにします。フリーデータフォーマットの場合、スレーブデバイスがデータ受信中にマスターデバイスは常にデータ送信を行います。転送データをノーマル I2C フォーマットにする場合は **SBI\_InitI2C()** をコールしてください。

戻り値:  
なし

## 12.2.4 データ構造

### 12.2.4.1 SBI\_InitI2CTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**I2CSelfAddr**: I2C モードにおけるスレーブアドレスを指定します。(0x01~0xFE)

uint32\_t

**I2CDataLen**: I2C モードにおける SBI チャンネルの転送ビット数を指定します。

- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_8**: データ長 8
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_1**: データ長 1
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_2**: データ長 2
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_3**: データ長 3
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_4**: データ長 4
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_5**: データ長 5
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_6**: データ長 6
- **SBI\_I2C\_DATA\_LEN\_7**: データ長 7

uint32\_t

**I2CClkDiv**: I2C 転送のソースクロックを選択します。

- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_104**: fsys/104
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_136**: fsys/136
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_200**: fsys/200

- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_328:** fsys/328
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_584:** fsys/584
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_1096:** fsys/1096
- **SBI\_I2C\_CLK\_DIV\_2120:** fsys/2120

FunctionalState

**I2CACKState:** ACK の有効/無効を選択します。

- **ENABLE:** 有効。
- **DISABLE:** 無効。

## 12.2.4.2 SBI\_I2CState

メンバ:

uint32\_t

**All:** I2C モードの全ての状態

ビットフィールド:

uint32\_t

**LastRxBit:** 最終受信ビットモニタ

uint32\_t

**GeneralCall:** ゼネラルコール検出モニタ

uint32\_t

**SlaveAddrMatch:** スレーブアドレス一致モニタ

uint32\_t

**ArbitrationLost:** アービトレーションロスト検出モニタ

uint32\_t

**INTReq:** 割り込み要求状態モニタ

uint32\_t

**BusState:** バス状態モニタ

uint32\_t

**TRx:** 送信/受信選択状態モニタ

uint32\_t

**MasterSlave:** マスタ/スレーブ選択状態モニタ

## 13. SSP

### 13.1 概要

本デバイスは、同期式シリアルインタフェースを (SSP: Synchronous Serial Port) を 1 チャンネル内蔵しています。

同期式シリアルインタフェースは、周辺デバイスとシリアル通信を、3 タイプの同期式シリアルインタフェースで行います。

同期式シリアルインタフェースは、周辺デバイスから受信したデータのシリアル-パラレル変換を行います。送信パスは、送信モードの 16 ビット幅、8 層の送信 FIFO のデータをバッファリングし、受信パスは受信モードの 16 ビット幅、8 層の受信 FIFO のデータをバッファリングします。シリアルデータは SPDO で送信され、SPDI で受信されます。SSP はプログラマブルプリスケアラを内蔵し、入力クロック fSYS からシリアル出力クロック(CPCLK)を出力します。生成します。動作モード、フレームフォーマット、SSP のデータサイズは制御レジスタにプログラムされています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_ssp.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_ssp.h

### 13.2 API 関数

#### 13.2.1 関数一覧

- ◆ void SSP\_Enable(void);
- ◆ void SSP\_Disable(void);
- ◆ void SSP\_Init(SSP\_InitTypeDef \* **InitStruct**);
- ◆ void SSP\_SetClkPreScale(uint8\_t **PreScale**, uint8\_t **ClkRate**);
- ◆ void SSP\_SetFrameFormat(SSP\_FrameFormat **FrameFormat**);
- ◆ void SSP\_SetClkPolarity(SSP\_ClkPolarity **ClkPolarity**);
- ◆ void SSP\_SetClkPhase(SSP\_ClkPhase **ClkPhase**);
- ◆ void SSP\_SetDataSize(uint8\_t **DataSize**);
- ◆ void SSP\_SetSlaveOutputCtrl(FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SSP\_SetMSMode(SSP\_MS\_Mode **Mode**);
- ◆ void SSP\_SetLoopBackMode(FunctionalState **NewState**);
- ◆ void SSP\_SetTxData(uint16\_t **Data**);
- ◆ uint16\_t SSP\_GetRxData(void);
- ◆ WorkState SSP\_GetWorkState(void);
- ◆ SSP\_FIFOState SSP\_GetFIFOState(SSP\_Direction **Direction**);
- ◆ void SSP\_SetINTConfig(uint32\_t **IntSrc**);
- ◆ SSP\_INTState SSP\_GetINTConfig(void);
- ◆ SSP\_INTState SSP\_GetPreEnableINTState(void);
- ◆ SSP\_INTState SSP\_GetPostEnableINTState(void);
- ◆ void SSP\_ClearINTFlag(uint32\_t **IntSrc**);
- ◆ void SSP\_SetDMACtrl(SSP\_Direction **Direction**, FunctionalState **NewState**);

## 13.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 6 種類に分かれています。

- 1) 共通関数:  
SSP\_Init(), SSP\_SetClkPreScale(), SSP\_SetFrameFormat(), SSP\_SetClkPolarity(),  
SSP\_SetClkPhase(), SSP\_SetDataSize(), SSP\_SetMSMode()
- 2) データ送受信:  
SSP\_SetTxData(), SSP\_GetRxData()
- 3) SSP 割り込み関連:  
SSP\_SetINTConfig(), SSP\_GetINTConfig(), SSP\_GetPreEnableINTState(),  
SSP\_GetPostEnableINTState(), SSP\_ClearINTFlag()
- 4) SSP ステータスの取得:  
SSP\_GetWorkState(), SSP\_GetFIFOState()
- 5) モジュールの有効/無効設定:  
SSP\_Enable(), SSP\_Disable()
- 6) その他:  
SSP\_SetSlaveOutputCtrl(), SSP\_SetLoopBackMode(), SSP\_SetDMACtrl()

## 13.2.3 関数仕様

### 13.2.3.1 SSP\_Enable

同期式シリアルインタフェース動作の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_Enable(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

SSP 動作を有効にします。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.2 SSP\_Disable

同期式シリアルインタフェース動作の禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_Disable(void)
```

**引数:**

なし

**機能:**

SSP 動作を無効にします。

戻り値:  
なし

### 13.2.3.3 SSP\_Init

SSP 通信の初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_Init(SSP_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

**InitStruct**: SSP に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

SSP 通信の初期化を行います。

本 API がコールする API は以下の通りです。

```
    SSP_SetFrameFormat(),  
    SSP_SetClkPreScale(),  
    SSP_SetClkPolarity(),  
    SSP_SetClkPhase(),  
    SSP_SetDataSize(),  
    SSP_SetMSMode().
```

戻り値:  
なし

### 13.2.3.4 SSP\_SetClkPreScale

送受信のビットレート設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetClkPreScale(uint8_t PreScale,  
                   uint8_t ClkRate)
```

引数:

**PreScale**: クロックプリスケール除数を 2~254 の間で設定します。

**ClkRate**: シリアルクロックレートを 0~255 の間で設定します。

機能:

送受信のビットレートを設定します。**SSP\_Init()** によりコールされます。

Tx と Rx 用の本ビットレートは下記計算式で求めることができます。

$$\text{BitRate} = \text{fsys} / (\text{PreScale} \times (1 + \text{ClkRate}))$$

**fsys** はシステム周波数です。

戻り値:  
なし

## 13.2.3.5 SSP\_SetFrameFormat

フレームフォーマットの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

SSP\_SetFrameFormat(SSP\_FrameFormat **FrameFormat**)

引数:

フレームフォーマットを選択します。

- **SSP\_FORMAT\_SPI**: SPI フレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_SSI**: SSI シリアルフレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_MICROWIRE**: Microwire フレームフォーマット

機能:

フレームフォーマットを選択します。**SSP\_Init()** からコールされます。

戻り値:

なし

## 13.2.3.6 SSP\_SetClkPolarity

SPxCLK 極性の選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

SSP\_SetClkPolarity(SSP\_ClkPolarity **ClkPolarity**)

引数:

**ClkPolarity**: SPxCLK 極性を選択します。

- **SSP\_POLARITY\_LOW**: SPxCLK は Low 状態。
- **SSP\_POLARITY\_HIGH**: SPxCLK は High 状態。

機能:

SPxCLK 極性を選択します。**SSP\_Init()** からコールされます。

戻り値:

なし

## 13.2.3.7 SSP\_SetClkPhase

SPxCLK フェーズの選択

関数のプロトタイプ宣言:

void

SSP\_SetClkPhase(SSP\_ClkPhase **ClkPhase**)

引数:

**ClkPhase**: SPxCLK フェーズを選択します。

- **SSP\_PHASE\_FIRST\_EDGE**: 1st クロックエッジでデータを取り込み

- **SSP\_PHASE\_SECOND\_EDGE:** 2nd クロックエッジでデータを取り込み

**機能:**

SPxCLK フェーズを選択します。**SSP\_Init()** からコールされます。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.8 SSP\_SetDataSize

データサイズの選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

Void

SSP\_SetDataSize(uint8\_t **DataSize**)

**引数:**

**DataSize:** データサイズを 4～16 の間で選択します。

**機能:**

データサイズを選択します。**SSP\_Init()** からコールれます。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.9 SSP\_SetSlaveOutputCtrl

スレーブモード SPxDO 出力の制御

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

SSP\_SetSlaveOutputCtrl( FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState:** スレーブモード SPxDO 出力の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可。
- **DISABLE:** 禁止。

**機能:**

スレーブモード SPxDO 出力の許可/禁止を選択します。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.10 SSP\_SetMSMode

マスタ/ スレーブモードの選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

void



SSP\_SetMSMode(SSP\_MS\_Mode **Mode**)

引数:

**Mode**: マスタ/ スレーブモードを選択します。

- **SSP\_MASTER**: デバイスがマスタ。
- **SSP\_SLAVE**: デバイスがスレーブ。

機能:

マスタ/ スレーブモードを選択します。

戻り値:

なし

### 13.2.3.11 SSP\_SetLoopBackMode

ループバックモードの制御

関数のプロトタイプ宣言:

void

SSP\_SetLoopBackMode(FunctionalState **NewState**)

引数:

**NewState**: ループバックモードの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可。
- **DISABLE**: 禁止。

機能:

ループバックモードを設定します。

例えば、ループバックモードが有効の場合、送受信間にセルフテストを行います。

戻り値:

なし

### 13.2.3.12 SSP\_SetTxData

送信 FIFO のデータ設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

SSP\_SetTxData(uint16\_t **Data**)

引数:

**Data**: 送信データを 4～16 ビットの間で設定します。

機能:

送信 FIFO にデータを設定します。

戻り値:

なし

## 13.2.3.13 SSP\_GetRxData

受信 FIFO からのデータ読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

uint16\_t

SSP\_GetRxData(void)

引数:

なし

機能:

受信 FIFO から受信データを読み込みます。

戻り値:

受信データ

## 13.2.3.14 SSP\_GetWorkState

ビジーフラグの読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

WorkState

SSP\_GetWorkState(void)

引数:

なし

機能:

ビジーフラグを読み込みます。

戻り値:

ビジーフラグ

- **BUSY:** ビジー
- **DONE:** アイドル

## 13.2.3.15 SSP\_GetFIFOState

送受信 FIFO の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

SSP\_FIFOState

SSP\_GetFIFOState(SSP\_Direction *Direction*)

引数:

**Direction:** 送受信方向を選択します。

- **SSP\_RX:** 受信 FIFO
- **SSP\_TX:** 送信 FIFO

機能:

送受信 FIFO の状態を読み込みます。

例えば、送信 FIFO の状態を判断した後でのデータ送信処理は次の通り。

```
SSP_FIFOState fifoState;  
  
fifoState = SSP_GetFIFOState(TSB_SSP0, SSP_TX);  
if ((fifoState == SSP_FIFO_EMPTY) || (fifoState == SSP_FIFO_NORMAL))  
{ SSP_SetTxData(SSP0, data_to_be_sent ); }
```

戻り値:

送受信 FIFO の状態:

- **SSP\_FIFO\_EMPTY**: FIFO が空の状態。
- **SSP\_FIFO\_NORMAL**: FIFO がフル、かつ空ではない状態。
- **SSP\_FIFO\_INVALID**: FIFO が無効の状態。
- **SSP\_FIFO\_FULL**: FIFO がフルの状態。

### 13.2.3.16 SSP\_SetINTConfig

割り込みの制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SSP_SetINTConfig(uint32_t IntSrc)
```

引数:

**IntSrc**: 割り込みの許可/禁止を選択します。

- **SSP\_INTCFG\_NONE**: すべて禁止。
- **SSP\_INTCFG\_ALL**: すべて許可。

任意の割り込みを“|”で選択します。

- **SSP\_INTCFG\_RX\_OVERRUN**: 受信オーバーラン割り込み。
- **SSP\_INTCFG\_RX\_TIMEOUT**: 受信タイムアウト割り込み。
- **SSP\_INTCFG\_RX**: 受信 FIFO 割り込み(受信 FIFO の半分以上がフル)
- **SSP\_INTCFG\_TX**: 送信 FIFO 割り込み(送信 FIFO の半分以上がフル)

機能:

割り込みの許可/ 禁止を選択します。

例えば、送受信割り込みを設定する処理は次の通り。

```
SSP_SetINTConfig( TSB_SSP, SSP_INTCFG_RX | SSP_INTCFG_TX )
```

戻り値:

なし

### 13.2.3.17 SSP\_GetINTConfig

割り込み制御の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
SSP_INTState  
SSP_GetINTConfig(void)
```

引数:

なし

機能:

割り込みの許可/禁止状態を取得します。  
例えば、SSP\_SetINTConfig()で許可または禁止した割り込みソースを確認することができます。

**戻り値:**

SSP\_INTState: 割り込み設定状態。詳細は"データ構造"を参照。

### 13.2.3.18 SSP\_GetPreEnableINTState

許可前の割り込み状態の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

SSP\_INTState  
SSP\_GetPreEnableINTState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

許可前の割り込み状態を読み込みます。

**戻り値:**

SSP\_INTState: 許可前の割り込み状態。詳細は"データ構造"を参照。

### 13.2.3.19 SSP\_GetPostEnableINTState

許可後の割り込み状態の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

SSP\_INTState  
SSP\_GetPostEnableINTState(void)

**引数:**

なし

**機能:**

禁止前の割り込み状態を読み込みます。

**戻り値:**

SSP\_INTState: 許可前の割り込み状態。詳細は"データ構造"を参照。

### 13.2.3.20 SSP\_ClearINTFlag

割り込みフラグのクリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
SSP\_ClearINTFlag(uint32\_t *IntSrc*)

**引数:**

*IntSrc*: クリアする割り込みフラグを選択します。

- **SSP\_INTCFG\_RX\_OVERRUN**: 受信オーバーラン割り込みフラグ。
- **SSP\_INTCFG\_RX\_TIMEOUT**: 受信タイムアウト割り込みフラグ
- **SSP\_INTCFG\_ALL**: すべての割り込みフラグ。

**機能:**

割り込みフラグをクリアします。

**戻り値:**

なし

### 13.2.3.21 SSP\_SetDMACtrl

送受信 FIFO の DMA 制御

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
SSP_SetDMACtrl(SSP_Direction Direction,  
                FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**Direction**: 送受信方向を選択します。

- **SSP\_RX**: 受信。
- **SSP\_TX**: 送信。

**NewState**: DMA FIFO の状態。

- **ENABLE**: 許可。
- **DISABLE**: 禁止。

**機能:**

送受信 FIFO の DMA 許可/禁止を選択します。

**戻り値:**

なし

## 13.2.4 データ構造

### 13.2.4.1 SSP\_InitTypeDef

**メンバ:**

SSP\_FrameFormat

**FrameFormat**: フレームフォーマットを選択します。

- **SSP\_FORMAT\_SPI**: SPI フレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_SSI**: SSI フレームフォーマット
- **SSP\_FORMAT\_MICROWIRE**: Microwire フレームフォーマット

uint8\_t

**PreScale**: クロックプリスケール除数を 2～254 の間で設定します。

SSP\_ClkPolarity

**CkPolarity**: SPxCLK 極性を選択します。

- **SSP\_POLARITY\_LOW**: SPxCLK 極性は Low 状態。
- **SSP\_POLARITY\_HIGH**: SPxCLK 極性は High 状態。

SSP\_ClkPhase

**ClkPhase:** SPxCLK フェーズを設定します。

- **SSP\_PHASE\_FIRST\_EDGE:** 1st クロックエッジでデータを取り込み
- **SSP\_PHASE\_SECOND\_EDGE:** 2nd クロックエッジでデータを取り込み

uint8\_t

**DataSize:** データを 4～16 ビットの間で設定します。

SSP\_MS\_Mode

**Mode:** マスタ/ スレーブモードを選択します。

- **SSP\_MASTER:** デバイスがマスタ
- **SSP\_SLAVE:** デバイスがスレーブ

## 13.2.4.2 SSP\_INTState

メンバ:

uint32\_t

**All:** 割り込み要因

ビットフィールド:

uint32\_t

**OverRun:** 1 オーバー欄割り込み

uint32\_t

**TimeOut:** 1 受信タイムアウト

uint32\_t

**Rx:** 1 受信

uint32\_t

**Tx:** 1 送信

uint32\_t

**Reserved:** 28 未使用

## 14. TMRB

### 14.1 概要

本デバイスは、10 チャンネルの多機能 16 ビットタイマ/ イベントカウンタ (TMRB0 ~ TMRB9)を内蔵しています。各チャンネルは下記モードで動作します。

- 16 ビットインタバルタイマモード
- 16 ビットイベントカウンタモード
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG) モード
- タイマ同期モード(各 4 チャンネルの出力設定可能)

また、キャプチャ機能を利用することで、次のような用途に使用することができます。

- 周波数測定
- パルス幅測定
- 時間差測定

本ドライバは、クロック分割、サイクル、デューティ期間、キャプチャタイミング、フリップフロップの設定など各チャンネルの設定を行う関数セットです。また、アップカウンタ、フリップフロップ出力の制御など動作状態の制御、割り込み要因、キャプチャレジスタ値の取得など、ステータスの表示も行います。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_tmr.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_tmr.h

### 14.2 API 関数

#### 14.2.1 関数一覧

- ◆ void TMRB\_Enable(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_Disable(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_SetRunState(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **Cmd**);
- ◆ void TMRB\_Init(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, TMRB\_InitTypeDef \* **InitStruct**);
- ◆ void TMRB\_SetCaptureTiming(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **CaptureTiming**);
- ◆ void TMRB\_SetFlipFlop(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, TMRB\_FFOutputTypeDef \* **FFStruct**);
- ◆ TMRB\_INTFactor TMRB\_GetINTFactor(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_SetINTMask(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **INTMask**);
- ◆ void TMRB\_ChangeLeadingTiming(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **LeadingTiming**);
- ◆ void TMRB\_ChangeTrailingTiming(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint32\_t **TrailingTiming**);
- ◆ uint16\_t TMRB\_GetUpCntValue(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ uint16\_t TMRB\_GetCaptureValue(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint8\_t **CapReg**);
- ◆ void TMRB\_ExecuteSWCapture(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**);
- ◆ void TMRB\_SetIdleMode(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRB\_SetSyncMode(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**);

- ◆ void TMRB\_SetDoubleBuf(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRB\_SetExtStartTrg(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**,  
uint8\_t **TrgMode**);
- ◆ void TMRB\_SetClkInCoreHalt(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint8\_t **ClkState**);
- ◆ void TMRB\_SetExtInput(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, uint8\_t **ExtInput**);
- ◆ void TMRB\_SetDMAReq(TSB\_TB\_TypeDef \* **TBx**, FunctionalState **NewState**,  
uint8\_t **DMAReq**);

## 14.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

- 1) 各タイマの設定:  
TMRB\_Enable(), TMRB\_Disable(), TMRB\_Init(), TMRB\_SetRunState(),  
TMRB\_ChangeLeadingTiming(), TMRB\_ChangeTrailingTiming()
- 2) キャプチャ機能の設定:  
TMRB\_SetCaptureTiming(), TMRB\_ExecuteSWCapture()
- 3) ステータスの確認:  
TMRB\_GetINTFactor(), TMRB\_GetUpCntValue(), TMRB\_GetCaptureValue()
- 4) その他:  
TMRB\_SetFlipFlop(), TMRB\_SetINTMask(), TMRB\_SetIdleMode(),  
TMRB\_SetSyncMode(), TMRB\_SetDoubleBuf(), TMRB\_SetExtStartTrg(),  
TMRB\_SetClkInCoreHalt(), TMRB\_SetExtInput(), TMRB\_SetDMAReq()

## 14.2.3 関数仕様

**補足:** 引数に記述されている “TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**” は特に記載の無い限り以下から選択してください。

**TSB\_TB0, TSB\_TB1, TSB\_TB2, TSB\_TB3, TSB\_TB4, TSB\_TB5, TSB\_TB6,  
TSB\_TB7, TSB\_TB8, TSB\_TB9**

### 14.2.3.1 TMRB\_Enable

TMRB 機能の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
TMRB\_Enable(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)

**引数:**

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**機能:**

TMRB 機能を有効にします。

**戻り値:**

なし

### 14.2.3.2 TMRB\_Disable

TMRB 機能の禁止

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
TMRB\_Disable(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)



引数:

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

機能:

TMRB 機能を無効にします。

戻り値:

なし

### 14.2.3.3 TMRB\_SetRunState

カウンタ動作の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetRunState(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  uint32_t Cmd)
```

引数:

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**Cmd:** カウンタ動作を選択します。

- **TMRB\_RUN:** カウント
- **TMRB\_STOP:** 停止&クリア

機能:

**Cmd** が **TMRB\_RUN** の場合、アップカウンタがカウントを開始します。

**Cmd** が **TMRB\_STOP** の場合、アップカウンタはカウントを停止し、同時にカウンタをクリアします。

戻り値:

なし

### 14.2.3.4 TMRB\_Init

TMRB チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_Init(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
           TMRB_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**InitStruct:** TMRB に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

機能:

カウンティングモード、クロック分周、アップカウンタ設定、サイクル、デューティ期間の初期設定を行います。

戻り値:  
なし

## 14.2.3.5 TMRB\_SetCaptureTiming

キャプチャタイミングの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetCaptureTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                      uint32_t CaptureTiming)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**CaptureTiming**: キャプチャタイミングを選択します。

- **TMRB\_DISABLE\_CAPTURE**: キャプチャ機能を無効にします。
- **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING**: TBxIN0↑ TBxIN1↑
- **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING\_FALLING**: TBxIN0↑ TBxIN0↓
- **TMRB\_CAPTURE\_OUTPUT\_EDGE**: TBxFF0↑ TBxFF0↓

機能:

**CaptureTiming** が **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING** の場合、TBxIN0 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0) にカウント値を取り込み、TBxIN1 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1) にカウント値を取り込みます。

**CaptureTiming** が **TMRB\_CAPTURE\_IN\_RISING\_FALLING** の場合、TBxIN0 端子入力の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0) にカウント値を取り込み、TBxIN0 端子入力の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1) にカウント値を取り込みます。

**CaptureTiming** が **TMRB\_CAPTURE\_OUTPUT\_EDGE** の場合、TBxFF0 の立ち上がりでキャプチャレジスタ 0 (TBxCP0) にカウント値を取り込み、TBxFF0 端子入力の立ち下がりでキャプチャレジスタ 1 (TBxCP1) にカウント値を取り込みます。

TMRB7, TMRB8, TMRB9 のフリップフロップ出力を他のチャンネルのキャプチャトリガとして使用できます。

**TMRB0~1**: TB7OUT  
**TMRB2~3**: TB8OUT  
**TMRB4~6**: TB9OUT

戻り値:  
なし

## 14.2.3.6 TMRB\_SetFlipFlop

フリップフロップ機能の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetFlipFlop(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                 TMRB_FFOutputTypeDef* FFStruct)
```

**引数:**

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**FFStruct:** TMRB のフリップフロップ機能に関する構造体です。(詳細は"データ構造"を参照)

**機能:**

フリップフロップ出力変更のタイミングを設定します。また出力レベルも設定できます。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.7 TMRB\_GetINTFactor

割り込み要因の取得。

**関数のプロトタイプ宣言:**

TMRB\_INTFactor

TMRB\_GetINTFactor(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)

**引数:**

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**機能:**

割り込み要因を取得します。

**戻り値:**

TMRB の割り込み要因:

**MatchLeadingTiming** (Bit0): 一致フラグ(TBxRG0)

**MatchTrailingTiming** (Bit1): 一致フラグ(TBxRG1)

**OverFlow** (Bit2): オーバーフローフラグ

**補足:**

異なる割り込み要因を処理する場合は、以下のように記述してください。

```
TMRB_INTFactor factor = TMRB_GetINTFactor(TSB_TB0);
if (factor.Bit.MatchLeadingTiming) {
    // Do A
}

if (factor.Bit.MatchTrailingTiming) {
    // Do B
}

if (factor.Bit.OverFlow) {
    // Do C
}
```

## 14.2.3.8 TMRB\_SetINTMask

割り込みマスク要因の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_SetINTMask(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                uint32_t INTMask)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**INTMask**: マスクする割り込みを選択します。

- **TMRB\_MASK\_MATCH\_TRAILING\_INT**: 一致フラグ(TBxRG0)
- **TMRB\_MASK\_MATCH\_LEADING\_INT**: 一致フラグ(TBxRG1)
- **TMRB\_MASK\_OVERFLOW\_INT**: オーバーフロー割り込み。
- **TMRB\_NO\_INT\_MASK**: マスクしない。

**機能:**

**TMRB\_MASK\_MATCH\_TRAILING\_INT** 選択時、アップカウンタ値と TBxRG1 が一致した場合、割り込みは発生しません。

**TMRB\_MASK\_MATCH\_LEADING\_INT** 選択時、アップカウンタ値と TBxRG0 が一致した場合、割り込みは発生しません。

**TMRB\_MASK\_OVERFLOW\_INT** 選択時、オーバーフロー発生時の割り込みは発生しません。

**TMRB\_NO\_INT\_MASK** 選択時、割り込みマスクはすべてクリアされます。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.9 TMRB\_ChangeLeadingTiming

デューティの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_ChangeLeadingTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                          uint32_t LeadingTiming)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**LeadingTiming**: デューティ値を設定します。最大値は 0xFFFF です。

**機能:**

デューティを設定します。実際のデューティのインターバルは、CG の校正と **ClkDiv**(詳細は"データ構造"を参照) の値によります。

**戻り値:**

なし。

**補足:**

**LeadingTiming** は **TrailingTiming** を超えることはできません。

## 14.2.3.10 TMRB\_ChangeTrailingTiming

周期の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRB_ChangeTrailingTiming(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                           uint32_t TrailingTiming)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**TrailingTiming**: 周期を設定します。最大は 0xFFFF です。

**機能:**

周期を設定します。実際の周期は、CG の校正と **ClkDiv**(詳細は"データ構造"を参照) の値によります。

**戻り値:**

なし。

**補足:**

**TrailingTiming** は **LeadingTiming** より小さくすることはできません。

## 14.2.3.11 TMRB\_GetUpCntValue

アップカウンタ値の読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint16_t  
TMRB_GetUpCntValue(TSB_TB_TypeDef* TBx)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**機能:**

アップカウンタ値の読み込みを行います。

**戻り値:**

アップカウンタ値

## 14.2.3.12 TMRB\_GetCaptureValue

キャプチャレジスタの読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
uint16_t  
TMRB_GetCaptureValue(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                      uint8_t CapReg)
```

**引数:**

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**CapReg**: キャプチャレジスタを選択します。

➤ **TMRB\_CAPTURE\_0**: キャプチャレジスタ 0

➤ TMRB\_CAPTURE\_1: キャプチャレジスタ 1

**機能:**

*CapReg* が TMRB\_CAPTURE\_0 の場合、キャプチャレジスタ 0 の値を読み込み、*CapReg* が TMRB\_CAPTURE\_1 の場合、キャプチャレジスタ 1 の値を読み込みます。

**戻り値:**

キャプチャされた値

## 14.2.3.13 TMRB\_ExecuteSWCapture

ソフトウェアキャプチャの実行

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
TMRB\_ExecuteSWCapture(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**)

**引数:**

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**機能:**

キャプチャレジスタ 0 (TBxCP0)にカウント値を取り込みます。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.14 TMRB\_SetIdleMode

IDLE 時の動作設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
TMRB\_SetIdleMode(TSB\_TB\_TypeDef\* **TBx**,  
FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**TBx:** TMRB チャンネルを指定します。

**NewState:** IDLE 時の動作を指定します。

- **ENABLE:** 動作
- **DISABLE:** 停止

**機能:**

**NewState** が **ENABLE** の場合、IDLE 時でも TMRB チャンネルは動作します。**DISABLE** の場合、IDLE 時は動作を停止します。

**戻り値:**

なし

## 14.2.3.15 TMRB\_SetSyncMode

同期モードの切り替え

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetSyncMode(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

**TBx**: 以下から TMRB チャンネルをします。

**TSB\_TB0**, **TSB\_TB1**, **TSB\_TB2**, **TSB\_TB3**, **TSB\_TB4**, **TSB\_TB5**,  
**TSB\_TB6**, **TSB\_TB7**.

**NewState**: 同期モードを切り替えます。

- **ENABLE**: 同期動作
- **DISABLE**: 個別動作(チャンネル毎)

機能:

TMRB0～TMRB3 を同期モードに設定すると、TMRB0 のスタートに同期して動作がスタートし、TMRB4～TMRB7 を同期モードに設定すると、TMRB4 のスタートに同期して動作がスタートします。

戻り値:

なし

補足:

同期モードを使用するために、TMRB0、TMRB4 のカウントを開始する前に、**TMRB\_SetRunState()** によって TMRB0～TMRB3、TMRB4～TMRB7 をスタートしてください。

## 14.2.3.16 TMRB\_SetDoubleBuf

ダブルバッファ動作の制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetDoubleBuf(TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  FunctionalState NewState)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**NewState**: ダブルバッファの有効/無効を選択します。

- **ENABLE**: 許可。
- **DISABLE**: 禁止。

機能:

ダブルバッファ動作の許可/禁止を設定します。

戻り値:

なし

## 14.2.3.17 TMRB\_SetExtStartTrg

外部トリガの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetExtStartTrg (TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                     FunctionalState NewState,  
                     uint8_t TrgMode)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**NewState**: カウントスタート方法を選択します。

- **ENABLE**: 外部トリガ
- **DISABLE**: ソフトスタート

**TrgMode**: 外部トリガのアクティブエッジを選択します。

- **TMRB\_TRG\_EDGE\_RISING**: 立ち上がりエッジ
- **TMRB\_TRG\_EDGE\_FALLING**: 立ち下りエッジ

機能:

外部トリガによる変換開始の有無とアクティブエッジの設定を行います。

補足:

**NewState** が **ENABLE** の場合のみ **TrgMode** を選択できます。

戻り値:

なし

## 14.2.3.18 TMRB\_SetClkInCoreHalt

デバッグ HALT 中のクロック動作

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetClkInCoreHalt (TSB_TB_TypeDef* TBx, uint8_t ClkState)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを指定します。

**ClkState**: デバッグ HALT 中のクロック動作を選択します。

- **TMRB\_RUNNING\_IN\_CORE\_HALT**: 動作
- **TMRB\_STOP\_IN\_CORE\_HALT**: 停止

機能:

デバッグツール使用時に HALT モードに遷移した場合、TMRB クロック動作/停止の設定を行いません。

戻り値:

なし



## 14.2.3.19 TMRB\_SetExtInput

外部入力の設定。

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetExtInput (TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                  uint8_t ExtInput)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを選択します。

**ExtInput**: 以下のいずれかの外部入力を選択してください。

- **TMRB\_EXT\_INPUT\_TBxIN**: TBxIN0/1
- **TMRB\_EXT\_INPUT\_PHCxIN**: PHCxIN0/1

機能:

外部入力として TBxIN0/1 または PHCxIN0/1 を設定します。

戻り値:

なし

## 14.2.3.20 TMRB\_SetDMAReq

DMA 要求の制御

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRB_SetExtStartTrg (TSB_TB_TypeDef* TBx,  
                     FunctionalState NewState,  
                     uint8_t DMAReq)
```

引数:

**TBx**: TMRB チャンネルを選択します。

**NewState**: 以下から DMA 要求の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**DMAReq**: 以下から DMA 要求の種類を選択します。

- **TMRB\_DMA\_REQ\_CMP\_MATCH**: コンペア一致
- **TMRB\_DMA\_REQ\_CAPTURE\_1**: インพุットキャプチャ 1
- **TMRB\_DMA\_REQ\_CAPTURE\_0**: インพุットキャプチャ 0

機能:

DMA 要求の制御を行います。

戻り値:

なし

補足:

TBxIM レジスタで割り込みをマスク設定している場合、DMA 要求を許可しても要求は発生しません。

## 14.2.4 データ構造

### 14.2.4.1 TMRB\_InitTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**Mode:** タイマモードを選択します。

- **TMRB\_INTERVAL\_TIMER:** インタバルタイマ
- **TMRB\_EVENT\_CNT:** イベントカウンタモード

uint32\_t

**ClkDiv:** インタバルタイマのソースクロックの分周を選択します。

- **TMRB\_CLK\_DIV\_2:** fperiph / 2
- **TMRB\_CLK\_DIV\_8:** fperiph / 8
- **TMRB\_CLK\_DIV\_32:** fperiph / 32
- **TMRB\_CLK\_DIV\_64:** fperiph / 64
- **TMRB\_CLK\_DIV\_128:** fperiph / 128
- **TMRB\_CLK\_DIV\_256:** fperiph / 256
- **TMRB\_CLK\_DIV\_512:** fperiph / 512

uint32\_t

**TrailingTiming:** TBnRG1 へ書き込む周期 (最大 0xFFFF)

uint32\_t

**UpCntCtrl:** アップカウンタの動作を選択します。

- **TMRB\_FREE\_RUN:** 周期が一致した後も、0xFFFF になるまでアップカウンタは停止しません。その後、カウンタがクリアされ、0 からカウントを開始します。
- **TMRB\_AUTO\_CLEAR:** **TrailingTiming** と一致したときに、0 クリアされ、再スタートします。

uint32\_t

**LeadingTiming:** TBnRG0 に書き込むデューティ (最大 0xFFFF)。**TrailingTiming** 以上の値を設定できません。

### 14.2.4.2 TMRB\_FFOutputTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**FlipflopCtrl:** フリップフロップのレベルを選択します。

- **TMRB\_FLIPFLOP\_INVERT:** TBxFF0 の値を反転(ソフト反転)します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_SET:** TBxFF0 を"1"にセットします。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_CLEAR:** TBxFF0 を"0"にクリアします。

uint32\_t

**FlipflopReverseTrg:** 以下から、フリップフロップの反転トリガを選択します。

- **TMRB\_DISALBE\_FLIPFLOP:** 反転トリガを無効にします。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_TAKE\_CATPURE\_0:** アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 0 に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_TAKE\_CATPURE\_1:** アップカウンタの値がキャプチャレジスタ 1 に取り込まれた時にタイマフリップフロップを反転します。

- **TMRB\_FLIPFLOP\_MATCH\_TRAILING:** アップカウンタと周期との一致時にタイムフリップフロップを反転します。
- **TMRB\_FLIPFLOP\_MATCH\_LEADING:** アップカウンタとデューティとの一致時にタイムフリップフロップを反転します。

## 14.2.4.3 TMRB\_INTFactor

メンバ:

uint32\_t

**All:** TMRB 割り込み要因

ビットフィールド:

uint32\_t

**MatchLeadingTiming:** 1 デューティとの一致検出

uint32\_t

**MatchTrailingTiming:** 1 周期との一致検出

uint32\_t

**Overflow:** 1 オーバーフロー

uint32\_t

**Reserved:** 29 未使用

## 15. TMRD

### 15.1 概要

本デバイスは、高分解能 16 ビットタイマ出力を 1 ブロック内蔵しています。1 ブロックには 2 ユニットのタイマが内蔵されており、それぞれタイマ出力を 2 チャネル内蔵しています。

TMRD は、2 つのタイマユニット(TMRD0、TMRD1)とこれらタイマユニットにクロックを供給する 2 つのクロック設定回路(プリスケアラ)から構成され、以下の機能を内蔵しています。

- 16 ビットインターバルタイマ
- 16 ビットプログラマブル矩形波出力 (PPG)

16 ビットインターバルタイマでは、以下の 2 つのモードを内蔵しています。

- タイマモード: TMRD0 と TMRD1 が独立して動作します。
- 連動タイマモード: TMRD0 と TMRD1 のタイマ動作が同時にスタートします。

16 ビットプログラマブルパルス矩形波出力では、以下の 2 つのモードを内蔵しています。

- PPG モード: TMRD0 と TMRD1 は独立して動作し、プログラムされた 2ch+2ch の矩形波を出力します。
- 連動 PPG モード: TMRD0 と TMRD1 は同時動作し、プログラムされた 3ch+1ch あるいは 4ch の矩形波を出力します。

本ドライバ API は、クロック動作、タイミング制御、PPG 出力制御、波形制御、DMA 要求の設定、割り込み要因、アップカウンタのクリアなどの TMRD 設定を行います。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API を定義する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_tmr.c  
/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_tmr.h

### 15.2 API 関数

#### 15.2.1 関数一覧

- ◆ void TMRD\_Enable(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**);
- ◆ void TMRD\_Disable(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**);
- ◆ void TMRD\_SetRunStateInHalt(uint8\_t **RunState**);
- ◆ void TMRD\_SetRunStateInIdle(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, uint8\_t **RunState**);
- ◆ void TMRD\_SetMode(uint8\_t **Mode**);
- ◆ void TMRD\_SetClkDivision(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, uint8\_t **ClkDiv**);
- ◆ void TMRD\_SetUpCntCtrl(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, uint8\_t **UpCntCtrl**);
- ◆ void TMRD\_SetPPGInitLeadingEdge(uint8\_t **PPGChannel**, uint8\_t **WaveEdge**);
- ◆ void TMRD\_SetCMPRegWritePath(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, uint8\_t **WritePath**);
- ◆ void TMRD\_SetCMP0INTSrc(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, uint8\_t **INTSrc**);
- ◆ void TMRD\_SetRunState(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, uint8\_t **RunState**);
- ◆ void TMRD\_SetPhaseRelation(uint8\_t **PhaseRelation**);
- ◆ void TMRD\_EnableUpdateCMPReg(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**);
- ◆ void TMRD\_SetDMAReq(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, FunctionalState **NewState**);
- ◆ void TMRD\_SetInitTiming(TSB\_TD\_TypeDef \* **TDx**, TMRD\_TimingTypeDef \* **Timing**);

*TimingStruct*);

- ◆ void TMRD\_ChangeTiming(uint8\_t *TimingType*, uint32\_t *Timing*);
- ◆ uint16\_t TMRD\_GetTiming(uint8\_t *TimingType*);

## 15.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 5 種類に分かれています。

- 1) 各タイマの設定:  
TMRD\_Enable(), TMRD\_Disable(), TMRD\_SetUpCntCtrl (), TMRD\_SetMode(),  
TMRD\_SetRunState()
- 2) クロック制御:  
TMRD\_SetRunStateInHalt(), TMRD\_SetRunStateInIdle(), TMRD\_SetClkDivision()
- 3) PPG 出力や矩形波の制御:  
TMRD\_SetPPGInitLeadingEdge(), TMRD\_SetPhaseRelation()
- 4) コンペアレジスタやタイマレジスタの制御:  
TMRD\_SetCMPRegWritePath(), TMRD\_EnableUpdateCMPReg(),  
TMRD\_SetInitTiming(), TMRD\_ChangeTiming(), TMRD\_GetTiming()
- 5) 割り込み要因や DMA 要求の設定:  
TMRD\_SetCMP0INTSrc(), TMRD\_SetDMAReq()

## 15.2.3 関数仕様

補足: 引数に記載されている“TSB\_TD\_TypeDef \* *TDx*”は以下のいずれかを指定してください。

TSB\_TD0, TSB\_TD1

### 15.2.3.1 TMRD\_Enable

クロック供給の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void  
TMRD\_Enable(TSB\_TD\_TypeDef \* *TDx*)

引数:

*TDx*: TMRD ブロックを選択します。

機能:

クロック供給を許可します。

戻り値:

なし

### 15.2.3.2 TMRD\_Disable

クロック動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void  
TMRD\_Disable(TSB\_TD\_TypeDef \* *TDx*)

引数:

*TDx*: TMRD ブロックを選択します。

**機能:**

クロック供給を無効にします。

**戻り値:**

なし

### 15.2.3.3 TMRD\_SetRunStateInHalt

デバッグ中の動作設定(HALT 時のアップカウンタ)

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRD_SetRunStateInHalt(uint8_t RunState)
```

**引数:**

**RunState**: デバッグ中の動作設定(HALT 中のアップカウンタ)を選択します。

- **TMRD\_RUN**: 動作(アップカウンタは停止しません)
- **TMRD\_STOP**: 停止(アップカウンタのみ停止します)

**機能:**

デバッグ中の動作(HALT 中のアップカウンタ)を設定します。

**戻り値:**

なし

### 15.2.3.4 TMRD\_SetRunStateInIdle

IDLE 中の動作設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRD_SetRunStateInIdle(TSB_TD_TypeDef * TDx,  
                        uint8_t RunState)
```

**引数:**

**TDx**: TMRD ブロックを選択します。

**RunState**: IDLE 中の動作を選択します。

- **TMRD\_RUN**: 動作
- **TMRD\_STOP**: 停止

**機能:**

IDLE 中の動作を設定します。

**戻り値:**

なし

### 15.2.3.5 TMRD\_SetMode

動作モードの選択

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void
TMRD_SetMode(uint8_t Mode)
```

## 引数:

**Mode:** 以下から動作モードを選択します。

マクロ定義	TMRD0 の動作モード	TMRD1 の動作モード
<b>TMRD_MODE_BOTH_TMR</b>	タイマモード	タイマモード
<b>TMRD_MODE_0TMR_1PPG</b>	タイマモード	PPG モード
<b>TMRD_MODE_0PPG_1TMR</b>	PPG モード	タイマモード
<b>TMRD_MODE_BOTH_PPG</b>	PPG モード	PPG モード
<b>TMRD_MODE_INTERLOCK_TMR</b>	TMRD0 と TMRD1 を同時スタートさせるタイマモード	
<b>TMRD_MODE_INTERLOCK_PPG</b>	TMRD0 と TMRD1 が連動する PPG モード (TMRD0 と TMRD1 が生成する波形の位相関係を可変出来ます)	

## 機能:

TMR0 と TMR1 の動作モードを選択します。

## 戻り値:

なし

## 補足:

動作モードが **TMRD\_MODE\_INTERLOCK\_PPG** の場合、TMRDCLK0 と TMRDCLK1 は個別に設定できません。TMRDCLK1 と TMRDCLK0 は同じ周波数になります。

### 15.2.3.6 TMRD\_SetClkDivision

TMRD0 のプリスケラ選択 (TMRDCLK0 の周波数選択)

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void
TMRD_SetClkDivision(TSB_TD_TypeDef* TDx,
uint8_t ClkDiv)
```

## 引数:

**TDx:** TMRD ブロックを選択します。

**ClkDiv:** TMRD0 のプリスケラを選択 (TMRDCLK0 の周波数を選択) します。

- **TMRD\_CLK\_DIV\_1:** TMRDCLK = ftmrd
- **TMRD\_CLK\_DIV\_2:** TMRDCLK = ftmrd/2
- **TMRD\_CLK\_DIV\_4:** TMRDCLK = ftmrd/4
- **TMRD\_CLK\_DIV\_8:** TMRDCLK = ftmrd/8
- **TMRD\_CLK\_DIV\_16:** TMRDCLK = ftmrd/16

## 機能:

TMRD0 のプリスケラを選択 (TMRDCLK0 の周波数を選択) します。

戻り値:  
なし

補足:

PPG モードの場合、TMRD1 のプリスケール選択は無効です。また TMRD1 のプリスケールは TMRD0 と同じ値になります。このため、本 API による TMRD0 のプリスケール選択を行ってください。

## 15.2.3.7 TMRD\_SetUpCntCtrl

CP00/CP10 一致時のアップカウンタ 0/1(UC0/UC1)動作設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void TMRD_SetUpCntCtrl(TSB_TD_TypeDef * TDx, uint8_t UpCntCtrl)
```

引数:

*TDx*: TMRD ブロックを選択します。

*UpCntCtrl*: CP00/CP10 一致時のアップカウンタ動作を選択します。

- **TMRD\_FREE\_RUN**: 一致検出にかかわらずフリーランカウンタとして動作
- **TMRD\_AUTO\_CLEAR**: 一致検出で"0"に初期化

機能:

CP00/CP10 一致時のアップカウンタ 0/1(UC0/UC1)動作を設定します。

戻り値:  
なし

補足:

PPG モード、または連動 PPC モードでは、*UpCntCtrl* = **TMRD\_FREE\_RUN** の設定は無効です。

## 15.2.3.8 TMRD\_SetPPGInitLeadingEdge

信号 a0/a1、b0/b1 の leading/trailing edge の初期設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRD_SetPPGInitLeadingEdge(uint8_t PPGChannel,  
                           uint8_t WaveEdge)
```

引数:

*PPGChannel*: 以下から PPG 出力チャンネルを選択します。

- **TMRD\_PPG\_CHANNEL\_A0**: ch00 の PPG 出力信号 a0
- **TMRD\_PPG\_CHANNEL\_A1**: ch00 の PPG 出力信号 a1
- **TMRD\_PPG\_CHANNEL\_B0**: ch10 の PPG 出力信号 b0
- **TMRD\_PPG\_CHANNEL\_B1**: ch10 の PPG 出力信号 b1

*WaveEdge*: 以下から leading edge/trailing edge を選択します。



- **TMRD\_WAVE\_EDGE\_RISING**: Leading edge が立ち上がり、trailing edge が立下りです。
- **TMRD\_WAVE\_EDGE\_FALLING**: Leading edge が立ち上がり、trailing edge が立下りです。

**機能:**

信号 a0/a1、b0/b1 の leading/trailing edge の初期設定を行います。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.9 TMRD\_SetCMPRegWritePath

コンペアレジスタへのデータ書き込み経路設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void
TMRD_SetCMPRegWritePath(TSB_TD_TypeDef* TDx,
                        uint8_t WritePath)
```

**引数:**

**TDx**: TMRD ブロックを選択します。

**WritePath**: コンペアレジスタへのデータ書き込み経路を選択します。

- **TMRD\_CMP\_WRITE\_DIRECT**: CPI の命令によるダイレクト書き込み
- **TMRD\_CMP\_WRITE\_INDIRECT**: タイマレジスタ経由書き込み(更新フラグを設定してください)

**機能:**

コンペアレジスタへのデータ書き込み経路を設定します。

**WritePath** が **TMRD\_CMP\_WRITE\_DIRECT** の場合、タイマレジスタへの書き込みと同時に、同値が対応するコンペアレジスタに書き込まれます。

**WritePath** が **TMRD\_CMP\_WRITE\_INDIRECT** の場合、TMRD\_EnableUpdateCMPReg()による更新フラグの設定が必要です。それぞれのモードの機能については以下を参照してください。

タイマモード時	TDnmMOD<TDCLE>="0"	アップカウンタのオーバーフロー時のコンペアレジスタ(TDmnCPx)の値が、タイマレジスタ(TDmnRGx)の値に更新されます。
	TDnmMOD<TDCLE>="1"	コンパレータ(CP00/CP10)の一致時にコンペアレジスタ(TDmnCPx)の値が、タイマレジスタ(TDmnRGx)の値に更新されます。
PPG モード	コンペアレジスタ(CP00/CP10)の一致時にコンペアレジスタ(TDmnCPx)の値が、タイマレジスタ(TDmnRGx)の値に更新されます。	
連動 PPG モード	TMRD0 の更新方法は、PPG モードと同じです。 TMRD1 の更新方法は、次の通りです。 コンパレータ 05(UC05)の一致時にコンペアレジスタ(TDmnCPx)の値が、タイマレジスタ(TDmnRGx)の値に更新されます。	

戻り値:  
なし

補足:  
連動 PPG モードの場合、TMRD1 のプリスケアラ選択は無効となり、TMRD0 で選択したプリスケアラクロックで動作します。したがって、この場合は TMRD0 のプリスケアラの設定のみを行ってください。

## 15.2.3.10 TMRD\_SetCMP0INTSrc

INTTDxCMP0 の割り込み要因設定

関数のプロトタイプ宣言:  
void  
TMRD\_SetCMP0INTSrc(TSB\_TD\_TypeDef\* **TDx**,  
uint8\_t **INTSrc**)

引数:  
**TDx**: TMRD ブロックを選択します。

**INTSrc**: INTTDxCMP0 割り込み要因を選択します。  
➤ **TMRD\_INT\_NONE**: 割り込み要因なし  
➤ **TMRD\_INT\_MATCH\_CYCLE**: CP00/CP10 の一致  
➤ **TMRD\_INT\_MATCH\_PHASE**: CP05(TMRD0 のみ)の一致  
➤ **TMRD\_INT\_UC\_OVERFLOW**: COUNTER0/1(UC0/UC1)のオーバーフロー

機能:  
INTTDxCMP0 の割り込み要因を設定します。

戻り値:  
なし

補足:  
PPG モードでは、**TMRD\_INT\_UC\_OVERFLOW** は無効で割り込み要因となりません。  
連動 PPG モードでは、TMRD1 の **TMRD\_INT\_MATCH\_CYCLE** は無効で割り込み要因となりません。  
TMRD1 の **TMRD\_INT\_MATCH\_PHASE** は無効で割り込み要因はありません。

## 15.2.3.11 TMRD\_SetRunState

カウンタ動作の設定

関数のプロトタイプ宣言:  
TMRD\_SetRunState(TSB\_TD\_TypeDef\* **TDx**,  
uint8\_t **RunState**)

引数:  
**TDx**: TMRD ブロックを選択します。

**RunState:** カウンタ動作を選択します。

- **TMRD\_RUN:** カウント
- **TMRD\_STOP:** 停止&クリア

**機能:**

カウンタ動作を設定します。

**戻り値:**

なし

**補足:**

連動タイマモード及び連動 PPG モードの場合、TMRD1 の設定は無効となり COUNTER(UC0)と連動して動作を開始します。

## 15.2.3.12 TMRD\_SetPhaseRelation

A 相出力に対する B 相出力の位相関係の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRD_SetPhaseRelation(uint8_t PhaseRelation)
```

**引数:**

**PhaseRelation:** A 相出力に対する B 相出力の位相関係を選択します。

- **TMRD\_PHASE\_DELAY\_OR\_SAME:** 遅らせる、または同位相
- **TMRD\_PHASE\_FAST\_OR\_SAME:** 進める、または同位相

**機能:**

A 相出力に対する B 相出力の位相関係を設定します。

**戻り値:**

なし

**補足:**

連動 PPG モードのみ有効です。A 相及び B 相出力は、タイマモード、連動タイマモード、PPG モードで切り替えできません。

## 15.2.3.13 TMRD\_EnableUpdateCMPReg

更新イネーブルフラグの設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRD_EnableUpdateCMPReg(TSB_TD_TypeDef* TDx)
```

**引数:**

**TDx:** TMRD ブロックを選択します。

**機能:**

更新イネーブルフラグを設定します。

関連機能の TMRD\_SetCMPRegWritePath() も合わせてご確認ください。

**戻り値:**

なし

**補足:**

連動 PPG では TMRD0 の有効イネーブルフラグ設定時、TMRD1 の有効イネーブルフラグが同時に設定されますので、再度 TMRD1 の設定を行わないでください。またコンペアレジスタ 05(CP05) が一致すると、このフラグは 0 クリアされます。

## 15.2.3.14 TMRD\_SetDMAReq

DMA 要求許可設定(INTTDxCMP0)

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRD_SetDMAReq(TSB_TD_TypeDef* TDx,  
                FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**TDx:** TMRD ブロックを選択します。

**NewState:** DMA 要求の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

DMA 要求の許可/禁止を設定します。

**戻り値:**

なし

## 15.2.3.15 TMRD\_SetInitTiming

タイミング設定の初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
TMRD_SetInitTiming(TSB_TD_TypeDef* TDx,  
                   TMRD_TimingTypeDef* TimingStruct)
```

**引数:**

**TDx:** TMRD ブロックを選択します。

**TimingStruct:** タイミング設定の構造体です。詳細は"データ構造"を参照してください。

**機能:**

周波数タイミング、周期タイミング、trailing timing、位相のシフト量などの設定を行います。

**戻り値:**

なし

補足:

**TimingStruct** 構造体の各パラメータの設定可能値については、"データ構造"を参照してください。

## 15.2.3.16 TMRD\_ChangeTiming

タイミング値の変更

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
TMRD_ChangeTiming(uint8_t TimingType,  
                  Uint32_t Timing)
```

引数:

**TimingType**: 以下から変更するタイミングの種類を選択します。

- **TMRD\_TIMING\_TD0\_CYCLE**: TMRD0 の周期設定 (TD0RG0)
- **TMRD\_TIMING\_A0\_LEADING**: 信号 a0 の leading timing (TD0RG1)
- **TMRD\_TIMING\_A0\_TRAILING**: 信号 a0 の trailing timing (TD0RG2)
- **TMRD\_TIMING\_A1\_LEADING**: 信号 a1 の leading timing (TD0RG3)
- **TMRD\_TIMING\_A1\_TRAILING**: 信号 a1 の trailing timing (TD0RG4)
- **TMRD\_TIMING\_PHASE\_SHIFT**: 位相のシフト量 (TD0RG5)
- **TMRD\_TIMING\_TD1\_CYCLE**: TMRD1 の周期タイミング (TD1RG0)
- **TMRD\_TIMING\_B0\_LEADING**: 信号 b0 の leading timing (TD1RG1)
- **TMRD\_TIMING\_B0\_TRAILING**: 信号 b0 の trailing timing (TD1RG2)
- **TMRD\_TIMING\_B1\_LEADING**: 信号 b1 の leading timing (TD1RG3)
- **TMRD\_TIMING\_B1\_TRAILING**: 信号 b1 の trailing timing (TD1RG4)

**Timing**: タイミング設定値を設定します。データの範囲は 0x02~0x10000 です。

機能:

タイミング設定を変更します。一部のタイミング設定を変更する場合に有効な API です。

戻り値:

なし

補足:

**Timing** 値について、各タイミングの設定範囲については"データ構造"を参照してください。

## 15.2.3.17 TMRD\_GetTiming

タイミング値の取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint16_t  
TMRD_GetTiming(uint8_t TimingType)
```

引数:

**TimingType:** 以下から変更するタイミングの種類を選択します。

- **TMRD\_TIMING\_TD0\_CYCLE:** TMRD0 の周期設定 (TD0RG0)
- **TMRD\_TIMING\_A0\_LEADING:** 信号 a0 の leading timing (TD0RG1)
- **TMRD\_TIMING\_A0\_TRAILING:** 信号 a0 の trailing timing (TD0RG2)
- **TMRD\_TIMING\_A1\_LEADING:** 信号 a1 の leading timing (TD0RG3)
- **TMRD\_TIMING\_A1\_TRAILING:** 信号 a1 の trailing timing (TD0RG4)
- **TMRD\_TIMING\_PHASE\_SHIFT:** 位相のシフト量(TD0RG5)
- **TMRD\_TIMING\_TD1\_CYCLE:** TMRD1 の周期タイミング(TD1RG0)
- **TMRD\_TIMING\_B0\_LEADING:** 信号 b0 の leading timing (TD1RG1)
- **TMRD\_TIMING\_B0\_TRAILING:** 信号 b0 の trailing timing (TD1RG2)
- **TMRD\_TIMING\_B1\_LEADING:** 信号 b1 の leading timing (TD1RG3)
- **TMRD\_TIMING\_B1\_TRAILING:** 信号 b1 の trailing timing (TD1RG4)

**機能:**

タイミング設定値を取得します。

**戻り値:**

タイミング設定値

## 15.2.4 データ構造

### 15.2.4.1 TMRD\_TimingTypeDef

**メンバ:**

uint32\_t

**Cycle:** TMRD0/1 の周期 (RG0)

uint16\_t

**LeadingTiming0:** TMRD0/1 の信号 a0/b0 の leading timing (RG1)

uint16\_t

**TrailingTiming0:** TMRD0/1 の信号 a0/b0 の trailing timing (RG2)

uint16\_t

**LeadingTiming1:** TMRD0/1 の信号 a1/b1 の leading timing (RG3)

uint16\_t

**TrailingTiming1:** TMRD0/1 の信号 a1/b1 の trailing timing (RG4)

uint16\_t

**PhaseShiftTiming:** 位相のシフト量 (RG5, TMRD0 のみ)

**補足:**

モードごとの各パラメータは、下表を参照してください。

Timer Unit	Compare register	16-bit interval timer	
		<TDCLE> = "0"	<TDCLE> = "1"
TMRD0	TD0CP0	$0x0000 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0001 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$
	TD0CP1	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD0CP2	$0x0000 \leq \text{CPRG2}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG2}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD0CP3	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD0CP4	$0x0000 \leq \text{CPRG4}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG4}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD0CP5	$0x0000 \leq \text{CPRG5}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG5}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
TMRD1	TD1CP0	$0x0000 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0001 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$
	TD1CP1	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD1CP2	$0x0000 \leq \text{CPRG2}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG2}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD1CP3	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD1CP4	$0x0000 \leq \text{CPRG4}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0000 \leq \text{CPRG4}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$

16 ビットタイマモードにおけるコンペアレジスタの設定範囲

Timer Unit	Compare register	16-bit programmable pulse generation	
		PPG	Interlock PPG
TMRD0	TD0CP0	$0x0001 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$	$0x0001 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$
	TD0CP1	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0]$	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0]$
	TD0CP2	$\text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$	$\text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD0CP3	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0]$	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0]$
	TD0CP4	$\text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$	$\text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$
	TD0CP5	don't care	$0x0000 \leq \text{CPRG5}[15:0] < (\text{CPRG0}[15:0] + 2)$
TMRD1	TD1CP0	$0x0001 \leq \text{CPRG0}[15:0] \leq 0xFFFF$	don't care
	TD1CP1	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0]$	$0x0000 \leq \text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0]$
	TD1CP2	$\text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$	$\text{CPRG1}[15:0] < \text{CPRG2}[15:0] \leq \text{TD0CP0} < \text{CPRG0}[15:0]$
	TD1CP3	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0]$	$0x0000 \leq \text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0]$
	TD1CP4	$\text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0] \leq \text{CPRG0}[15:0]$	$\text{CPRG3}[15:0] < \text{CPRG4}[15:0] \leq \text{TD0CP0} < \text{CPRG0}[15:0]$

16 ビット PPG モードにおけるコンペアレジスタの設定範囲

## 16. SIO/UART

### 16.1 概要

本デバイスのシリアル I/O チャンネルは、I/O インタフェースモード(同期通信モード)と 7, 8, 9 ビット長の UART モード(非同期通信)を実装しています。9 ビット UART モードでは、シリアルリンク(マルチコントローラ・システム) でマスタコントローラがスレーブコントローラを起動するときにウェイクアップ機能が使用されます。

本ドライバは、ボーレート、ビット長、パリティチェック、ストップビット、フローコントロールなどの各チャンネルの設定に関する関数、およびデータ送受信、エラーチェックなどの動作に関する機能を備えています。

全ドライバ API は、マクロ、データタイプ、構造、API 定義を格納する以下のファイルで構成されています。

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/src/tmpm341\_uart.c

/Libraries/TX03\_Periph\_Driver/inc/tmpm341\_uart.h

### 16.2 API 関数

#### 16.2.1 関数一覧

- ◆ void UART\_Enable(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_Disable(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ WorkState UART\_GetBufState(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, uint8\_t **Direction**)
- ◆ void UART\_SWReset(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_Init(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, UART\_InitTypeDef\* **InitStruct**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetRxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_SetTxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, uint32\_t **Data**)
- ◆ void UART\_DefaultConfig(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ UART\_Err UART\_GetErrState(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)
- ◆ void UART\_SetWakeUpFunc(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_SetIdleMode(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_SetRxDMAReq (TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_SetTxDMAReq (TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_FIFOConfig(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_SetFIFOTransferMode(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t  
**TransferMode**)
- ◆ void UART\_TRxAutoDisable(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, UART\_TRxDisable  
**TrxAutoDisable**)
- ◆ void UART\_RxFIFOINTCtrl(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_TxFIFOINTCtrl(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, FunctionalState **NewState**)
- ◆ void UART\_RxFIFOByteSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **BytesUsed**)
- ◆ void UART\_RxFIFOFillLevel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **RxFIFOLevel**)
- ◆ void UART\_RxFIFOINTSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **RxINTCondition**)
- ◆ void UART\_RxFIFOClear(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ void UART\_TxFIFOFillLevel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **TxFIFOLevel**)
- ◆ void UART\_TxFIFOINTSel(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**, uint32\_t **TxINTCondition**)
- ◆ void UART\_TxFIFOClear(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)



- ◆ uint32\_t UART\_GetRxFIFOOverRunStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ uint32\_t UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus(TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)
- ◆ void SIO\_Enable(TSB\_SC\_TypeDef \* **SIOx**)
- ◆ void SIO\_Disable(TSB\_SC\_TypeDef \* **SIOx**)
- ◆ uint8\_t SIO\_GetRxData(TSB\_SC\_TypeDef \* **SIOx**)
- ◆ void SIO\_SetTxData(TSB\_SC\_TypeDef \* **SIOx**, uint8\_t **Data**)
- ◆ void SIO\_Init(TSB\_SC\_TypeDef \* **SIOx**, uint32\_t **IOClkSel**, SIO\_InitTypeDef \* **InitStruct**)

## 16.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 4 種類に分かれています。

1. 初期化と設定:  
UART\_Enable(), UART\_Disable(), UART\_Init(), UART\_DefaultConfig(),  
SIO\_Enable(), SIO\_Disable(), SIO\_Init()
2. 送受信設定とエラー確認:  
UART\_GetBufState(), UART\_GetRxData(), UART\_SetTxData(),  
UART\_GetErrState(), SIO\_GetRxData(), SIO\_SetTxData()
3. その他:  
UART\_SetRxDMAReq(), UART\_SetTxDMAReq(), UART\_SWReset(),  
UART\_SetWakeUpFunc(), UART\_SetIdleMode()
4. FIFO モードの設定:  
UART\_FIFOConfig(), UART\_SetFIFOTransferMode(), UART\_TrxAutoDisable(),  
UART\_RxFIFOINTCtrl(), UART\_TxFIFOINTCtrl(), UART\_RxFIFOByteSel(),  
UART\_RxFIFOFillLevel(), UART\_RxFIFOINTSel(), UART\_RxFIFOClear(),  
UART\_TxFIFOFillLevel(), UART\_TxFIFOINTSel(), UART\_TxFIFOClear(),  
UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus(), UART\_GetRxFIFOOverRunStatus(),  
UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus(), UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus()

## 16.2.3 関数仕様

補足: UART\_SetRxDMAReq()関数と UART\_SetTxDMAReq()関数の引数に記述している“TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**”は、以下から選択してください。

**UART0, UART2, UART4**

その他の関数の引数に記述している“TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**”は以下から選択してください。

**UART0, UART1, UART2, UART3, UART4**

また、引数に記述している“TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**”は以下から選択してください。

**SIO0, SIO1, SIO2, SIO3, SIO4**

### 16.2.3.1 UART\_Enable

UART 機能の許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Enable(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

UART 機能を有効にします。

戻り値:  
なし

## 16.2.3.2 UART\_Disable

UART 機能の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_Disable(TSB_SC_TypeDef* UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

UART 機能を無効にします。

戻り値:  
なし

## 16.2.3.3 UART\_GetBufState

送受信バッファ状態の読み込み

関数のプロトタイプ宣言:

```
WorkState  
UART_GetBufState(TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
uint8_t Direction)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**Direction**: 送信/受信を選択します。

- **UART\_RX**: 受信
- **UART\_TX**: 送信

機能:

**Direction** が **UART\_RX** の場合、以下の受信バッファの状態を返します。

**DONE**: 受信データはバッファに保存済み

**BUSY**: データ受信中

**Direction** が **UART\_TX** の場合、以下の送信バッファの状態を返します。

**DONE**: バッファ中のデータは送信済み

**BUSY**: データ送信中

戻り値:

**DONE**: バッファリード/ライト可能状態

**BUSY**: 送受信中

## 16.2.3.4 UART\_SWReset

ソフトウェアリセットの実行

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
UART\_SWReset(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

ソフトウェアリセットを実行します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.5 UART\_Init

UART チャンネルの初期化

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
UART\_Init(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
          UART\_InitTypeDef\* **InitStruct**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**InitStruct**: UART に関する構造体です。(詳細は“データ構造”を参照)

**機能:**

ボーレート、ビット単位の転送、ストップビット、パリティ、転送モード、フローコントロールなどの初期設定を行います。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.6 UART\_GetRxData

受信データの読み込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

uint32\_t  
UART\_GetRxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

受信データを読み込みます。**UART\_GetBufState(UARTx, UART\_RX)**にて **DONE** を読み出した後、もしくは UART (シリアルチャンネル) 割り込み関数の中で実行してください。

戻り値:

受信データです。データ範囲は 0x00～0x1FF です。

## 16.2.3.7 UART\_SetTxData

送信データの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_SetTxData(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
uint32\_t **Data**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**Data**: 送信データ(7 ビット、8 ビット、9 ビット)

機能:

送信データを設定します。**UART\_GetBufState(UARTx, UART\_TX)**にて **DONE** を読み出した後、もしくは UART (シリアルチャンネル) 割り込み関数の中で実行してください。

戻り値:

なし

## 16.2.3.8 UART\_DefaultConfig

デフォルト構成での初期化

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_DefaultConfig(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

以下の構成で初期化します:

ボーレート: 115200 bps

データ長: 8 ビット

ストップビット: 1 ビット

パリティ: なし

フローコントロール: なし

送受信有効。ボーレートジェネレータはソースクロックとして使用。

戻り値:

なし

## 16.2.3.9 UART\_GetErrState

転送エラーフラグの読み出し

**関数のプロトタイプ宣言:**

UART\_Err

UART\_GetErrState(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

転送エラーフラグを読み出します。

**戻り値:**

**UART\_NO\_ERR**: エラーなし

**UART\_OVERRUN**: オーバーランエラー

**UART\_PARITY\_ERR**: パリティエラー

**UART\_FRAMING\_ERR**: フレーミングエラー

**UART\_ERRS**: 上記の 2 つ以上のエラーが発生している

## 16.2.3.10 UART\_SetWakeUpFunc

9 ビットモード時のウェイクアップ機能の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

UART\_SetWakeUpFunc(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: ウェイクアップ機能の有効/無効を選択します。

➤ **ENABLE**: 有効

➤ **DISABLE**: 無効

**機能:**

9 ビットモード時のウェイクアップ機能を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の場合、ウェイクアップ機能を有効に、

**NewState** が **DISABLE** の場合、ウェイクアップ機能を無効に設定します。

ウェイクアップ機能は、9 ビットモード時のみ機能します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.11 UART\_SetIdleMode

IDLE 時の動作

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

UART\_SetIdleMode(TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**UARTx:** UART チャンネルを指定します。

**NewState:** IDLE 時の動作を選択します。

- **ENABLE:** 動作
- **DISABLE:** 停止

**機能:**

**NewState** が **ENABLE** の場合、IDLE 時でも UART チャンネルは動作します。**DISABLE** の場合、IDLE 時は動作を停止します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.12 UART\_SetRxDMAReq

受信割り込みによる DMA 要求の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
UART_SetRxDMAReq (TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
                  FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**UARTx:** UART チャンネルを指定します。

**NewState:** 以下から受信割り込みによる DMA 要求の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

受信割り込みによる DMA 要求 (受信割り込み INTRX 発生により DMA リクエストを発行) を設定します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.13 UART\_SetTxDMAReq

送信割り込みによる DMA 要求の設定

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
UART_SetTxDMAReq (TSB_SC_TypeDef* UARTx,  
                  FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**UARTx:** UART チャンネルを指定します。

**NewState:** 以下から送信割り込みによる DMA 要求の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE:** 許可
- **DISABLE:** 禁止

**機能:**

送信割り込みによる DMA 要求 (送信割り込み INTTX 発生により DMA リクエストを発行) を設定します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.14 UART\_FIFOConfig

FIFO の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
UART_FIFOConfig(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                 FunctionalState NewState)
```

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: FIFO の許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

**機能:**

FIFO の許可/禁止を選択します。

**NewState** が **ENABLE** の場合、FIFO を許可します。**DISABLE** の場合、FIFO を禁止します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.15 UART\_SetFIFOTransferMode

転送モードの選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

```
void  
UART_SetFIFOTransferMode(TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                          uint32_t TransferMode)
```

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TransferMode**: 転送モードを選択します。

- **UART\_TRANSFER\_PROHIBIT**: 転送禁止
- **UART\_TRANSFER\_HALFDPX\_RX**: 半二重(受信)
- **UART\_TRANSFER\_HALFDPX\_TX**: 半二重(送信)
- **UART\_TRANSFER\_FULLDPX**: 全二重

**機能:**

転送モードを選択します。

戻り値:  
なし

## 16.2.3.16 UART\_TRxAutoDisable

送信/受信の自動禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_TRxAutoDisable (TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                     UART_TRxDisable TRxAutoDisable)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TRxAutoDisable**: 送信/受信の自動禁止機能を制御します。

- **UART\_RXTXCNT\_NONE**: なし
- **UART\_RXTXCNT\_AUTODISABLE**: 自動禁止

機能:

送信/受信の自動禁止機能を制御します。

戻り値:  
なし

## 16.2.3.17 UART\_RxFIFOINTCtrl

受信 FIFO 使用時の受信割り込み許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
UART_RxFIFOINTCtrl (TSB_SC_TypeDef * UARTx,  
                    FunctionalState NewState)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: 受信 FIFO 使用時の受信割り込みの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

受信 FIFO 有効にされている時の受信割り込みの許可/禁止を切り替えます。

戻り値:  
なし

## 16.2.3.18 UART\_TxFIFOINTCtrl

送信 FIFO 使用時の送信割り込み許可

関数のプロトタイプ宣言:

```
void
```



UART\_TxFIFOINTCtrl (TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
FunctionalState **NewState**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**NewState**: 送信 FIFO 使用時の送信割り込みの許可/禁止を選択します。

- **ENABLE**: 許可
- **DISABLE**: 禁止

機能:

送信 FIFO 有効にされている時の送信割り込みの許可/禁止を切り替えます。

戻り値:

なし

## 16.2.3.19 UART\_RxFIFOByteSel

受信 FIFO 使用バイト数

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_RxFIFOByteSel (TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t **BytesUsed**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**BytesUsed**: 受信 FIFO 使用バイト数を設定します。

- **UART\_RXFIFO\_MAX**: 最大
- **UART\_RXFIFO\_RXFLEVEL**: 受信 FIFO の FILL レベルに同じ

機能:

受信 FIFO 使用バイト数を設定します。

戻り値:

なし

## 16.2.3.20 UART\_RxFIFOFillLevel

受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベルの設定

関数のプロトタイプ宣言:

void

UART\_RxFIFOFillLevel (TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t **RxFIFOLevel**)

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**RxFIFOLevel**: 受信 FIFO の fill レベルを選択します。

<b>RxFIFOLevel</b>	半二重	全二重
<b>UART_RXFIFO4B_FLEVLE_4_2B</b>	4 バイト	2 バイト
<b>UART_RXFIFO4B_FLEVLE_1_1B</b>	1 バイト	1 バイト

UART_RXFIFO4B_FLEVLE_2_2B	2 バイト	2 バイト
UART_RXFIFO4B_FLEVLE_3_1B	3 バイト	1 バイト

**機能:**

受信割り込みが発生する受信 FIFO の fill レベルを選択します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.21 UART\_RxFIFOINTSel

受信割り込み発生条件の選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

UART\_RxFIFOINTSel (TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**,  
uint32\_t **RxINTCondition**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**RxINTCondition**: 受信 割り込み発生条件を選択します。

- **UART\_RFIS\_REACH\_FLEVEL**: FIFO fill レベル==割り込み発生 fill レベル
- **UART\_RFIS\_REACH\_EXCEED\_FLEVEL**: FIFO fill レベル ≤ 割り込み発生 fill レベル

**機能:**

受信割り込み発生条件を選択します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.22 UART\_RxFIFOClear

受信 FIFO クリア

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

UART\_RxFIFOClear (TSB\_SC\_TypeDef \* **UARTx**)

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

受信 FIFO をクリアします。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.23 UART\_TxFIFOFillLevel

送信割り込みが発生する送信 FIFO の fill レベルの設定

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void
UART_TxFIFOFillLevel (TSB_SC_TypeDef * UARTx,
                      uint32_t TxFIFOLevel)
```

## 引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TxFIFOLevel**: 受信 FIFO の fill レベルを選択します。

<b>TxFIFOLevel</b>	半二重	全二重
<b>UART_TXFIFO4B_FLEVLE_0_0B</b>	Empty	Empty
<b>UART_TXFIFO4B_FLEVLE_1_1B</b>	1 バイト	1 バイト
<b>UART_TXFIFO4B_FLEVLE_2_0B</b>	2 バイト	Empty
<b>UART_TXFIFO4B_FLEVLE_3_1B</b>	3 バイト	1 バイト

## 機能:

送信割り込みが発生する送信 FIFO の fill レベルを選択します。

## 戻り値:

なし

### 16.2.3.24 UART\_TxFIFOINTSel

送信割り込み発生条件の選択

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void
UART_TxFIFOINTSel (TSB_SC_TypeDef * UARTx,
                   uint32_t TxINTCondition)
```

## 引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**TxINTCondition**: 受信 割り込み発生条件を選択します。

- **UART\_TFIS\_REACH\_FLEVEL**: FIFO fill レベル==割り込み発生 fill レベル
- **UART\_TFIS\_REACH\_EXCEED\_FLEVEL**: FIFO fill レベル ≤ 割り込み発生 fill レベル

## 機能:

送信割り込み発生条件を選択します。

## 戻り値:

なし

### 16.2.3.25 UART\_TxFIFOClear

送信 FIFO クリア

## 関数のプロトタイプ宣言:

```
void
UART_TxFIFOClear (TSB_SC_TypeDef * UARTx)
```

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

送信 FIFO をクリアします。

戻り値:

なし

## 16.2.3.26 UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus

受信 FIFO の fill レベルの取得

関数のプロトタイプ宣言:

uint32\_t

UART\_GetRxFIFOFillLevelStatus (TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**);

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO の fill レベルを取得します。

戻り値:

- **UART\_TRXFIFO\_EMPTY**: Empty
- **UART\_TRXFIFO\_1B**: 1 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_2B**: 2 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_3B**: 3 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_4B**: 4 バイト

## 16.2.3.27 UART\_GetRxFIFOOverRunStatus

受信 FIFO オーバーラン状態の取得

関数のプロトタイプ宣言:

uint32\_t

UART\_GetRxFIFOOverRunStatus (TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**);

引数:

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

機能:

受信 FIFO オーバーラン状態を取得します。

戻り値:

**UART\_RXFIFO\_OVERRUN**: オーバーラン発生

## 16.2.3.28 UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus

送信 FIFO の fill レベルの取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

uint32\_t

UART\_GetTxFIFOFillLevelStatus (TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**);

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

送信 FIFO の fill レベルの取得

**戻り値:**

- **UART\_TRXFIFO\_EMPTY**: Empty
- **UART\_TRXFIFO\_1B**: 1 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_2B**: 2 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_3B**: 3 バイト
- **UART\_TRXFIFO\_4B**: 4 バイト

## 16.2.3.29 UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus

送信 FIFO アンダーラン状態の取得

**関数のプロトタイプ宣言:**

uint32\_t

UART\_GetTxFIFOUnderRunStatus (TSB\_SC\_TypeDef\* **UARTx**);

**引数:**

**UARTx**: UART チャンネルを指定します。

**機能:**

送信 FIFO アンダーラン状態を取得します。

**戻り値:**

**UART\_TXFIFO\_UNDERRUN**: アンダーラン発生

## 16.2.3.30 SIO\_Enable

SIO 動作の許可

**関数のプロトタイプ宣言:**

void

SIO\_Enable (TSB\_SC\_TypeDef\* **SIOx**)

**引数:**

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**機能:**

SIO 動作を許可します。

**戻り値:**

なし

## 16.2.3.31 SIO\_Disable

SIO 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SIO_Disable(TSB_SC_TypeDef* SIOx)
```

引数:

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

機能:

SIO 動作を禁止します。

戻り値:

なし

## 16.2.3.32 SIO\_GetRxData

受信用バッファの取得

関数のプロトタイプ宣言:

```
uint32_t  
SIO_GetRxData(TSB_SC_TypeDef* SIOx)
```

引数:

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

機能:

受信用バッファを取得します。

戻り値:

受信用バッファ(値の範囲は 0x00 ~ 0xFF です)

## 16.2.3.33 SIO\_SetTxData

送信用バッファの設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SIO_SetTxData(TSB_SC_TypeDef* SIOx,  
               uint8_t Data)
```

引数:

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**Data**: 送信用バッファ

機能:

送信用バッファを指定します。

戻り値:

なし

## 16.2.3.34 SIO\_Init

SIO チャンネルの初期化

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
SIO_Init(TSB_SC_TypeDef* SIOx,  
          uint32_t IOClkSel,  
          SIO_InitTypeDef* InitStruct)
```

引数:

**SIOx**: SIO チャンネルを指定します。

**IOClkSel**: クロックを選択します。

- **SIO\_CLK\_BAUDRATE**: ボーレートジェネレータ
- **SIO\_CLK\_SCLKINPUT**: SCLKx 端子入力

**InitStruct**: SIO に関する構造体です。(詳細は“データ構造”を参照)

機能:

ボーレート、転送方向、転送モードなどの初期設定を行います。

戻り値:

なし

## 16.2.4 データ構造

### 16.2.4.1 UART\_InitTypeDef

メンバ

uint32\_t

**BaudRate**: UART 通信ボーレートを 2400(bps) から 115200(bps) に設定。(\*)

uint32\_t

**DataBits**: 転送ビット数を選択します。

- **UART\_DATA\_BITS\_7**: 7 ビットモード
- **UART\_DATA\_BITS\_8**: 8 ビットモード
- **UART\_DATA\_BITS\_9**: 9 ビットモード

uint32\_t

**StopBits**: ストップビット長を選択します。

- **UART\_STOP\_BITS\_1**: 1 ビット
- **UART\_STOP\_BITS\_2**: 2 ビット

uint32\_t

**Parity**: パリティを選択します。

- **UART\_NO\_PARITY**: パリティなし
- **UART\_EVEN\_PARITY**: 偶数(Even) パリティ
- **UART\_ODD\_PARITY**: 奇数(Odd) パリティ

uint32\_t

**Mode:** 転送モードを選択します。送受信の場合は、送信と受信をOR 演算子によって組み合わせてください。

- **UART\_ENABLE\_TX:** 送信許可
- **UART\_ENABLE\_RX:** 受信許可

uint32\_t

**FlowCtrl:** フロー制御モードを選択します。(\*\*)

- **UART\_NONE\_FLOW\_CTRL:** フロー制御 無効

(\*)補足:

fperiph の周波数が高すぎる、または、低すぎると、ボーレートが正しく設定できない場合があります。

(\*\*)補足:

UART\_NONE\_FLOW\_CTRLのみ選択可能です。

## 16.2.4.2 SIO\_InitTypeDef

メンバ:

uint32\_t

**InputClkEdge:** 入力クロックエッジを選択します。"0"(SIO\_SCLKS\_TXDF\_RXDR)のみ指定可能です。

uint32\_t

**IntervalTime:** 連続転送時のインターバル時間を選択します。

- **SIO\_SINT\_TIME\_NONE:** なし
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_1:** 1\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_2:** 2\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_4:** 4\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_8:** 8\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_16:** 16\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_32:** 32\*SCLK
- **SIO\_SINT\_TIME\_SCLK\_64:** 64\*SCLK

uint32\_t

**TransferMode:** 転送モードを選択します。

- **SIO\_TRANSFER\_PROHIBIT:** 転送禁止
- **SIO\_TRANSFER\_HALFDPX\_RX:** 半二重(受信)
- **SIO\_TRANSFER\_HALFDPX\_TX:** 半二重(送信)
- **SIO\_TRANSFER\_FULLDPX:** 全二重

uint32\_t

**TransferDir:** 転送方向を選択します。

- **SIO\_LSB\_FRIST:** LSB FRIST
- **SIO\_MSB\_FRIST:** MSB FRIST

uint32\_t

**Mode:** 送受信を制御します。有効ビットの組み合わせが可能です。

- **SIO\_ENABLE\_TX:** 送信許可
- **SIO\_ENABLE\_RX:** 受信許可



uint32\_t

**DoubleBuffer.** ダブルバッファの許可/禁止を選択します。

- SIO\_WBUF\_ENABLE: 許可
- SIO\_WBUF\_DISABLE: 禁止

uint32\_t

**BaudRateClock.** ボーレートジェネレータ入力クロックを選択します。

- SIO\_BR\_CLOCK\_T1:  $\phi T1$
- SIO\_BR\_CLOCK\_T4:  $\phi T4$
- SIO\_BR\_CLOCK\_T16:  $\phi T16$
- SIO\_BR\_CLOCK\_T64:  $\phi T64$

uint32\_t

**Divider.** 分周値"N"を選択します。

- SIO\_BR\_DIVIDER\_1: 1 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_2: 2 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_3: 3 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_4: 4 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_5: 5 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_6: 6 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_7: 7 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_8: 8 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_9: 9 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_10: 10 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_11: 11 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_12: 12 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_13: 13 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_14: 14 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_15: 15 分周
- SIO\_BR\_DIVIDER\_16: 16 分周

## 17. WDT

### 17.1 概要

ウォッチドッグタイマ(WDT)は、ノイズなどの原因によりCPU が誤動作(暴走)を始めた場合、これを検出し正常な状態に戻すことを目的としています。

WDTドライバの API は、検出時間、カウンタのオーバーフロー時の出力、IDLE モードでの動作設定などの引数等、ウォッチドッグタイマの設定を行う関数を提供します。

本ドライバは、以下のファイルで構成されています。  
\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\src\\tmpm341\_wdt.c  
\\Libraries\\TX03\_Periph\_Driver\\inc\\tmpm341\_wdt.h

### 17.2 API 関数

#### 17.2.1 関数一覧

- ◆ void WDT\_SetDetectTime(uint32\_t **DetectTime**)
- ◆ void WDT\_SetIdleMode(FunctionalState **NewState**)
- ◆ void WDT\_SetOverflowOutput(uint32\_t **OverflowOutput**)
- ◆ void WDT\_Init(WDT\_InitTypeDef \* **InitStruct**)
- ◆ void WDT\_Enable(void)
- ◆ void WDT\_Disable(void)
- ◆ void WDT\_WriteClearCode(void)

#### 17.2.2 関数の種類

関数は、主に以下の 2 種類に分かれています。

- 1) ウォッチドッグタイマ設定:  
WDT\_SetDetectTime(), DT\_SetOverflowOutput(), WDT\_Init(), WDT\_Enable(),  
WDT\_Disable(), WDT\_WriteClearCode()
- 2) IDLE モード時の開始・停止:  
WDT\_SetIdleMode()

#### 17.2.3 関数仕様

##### 17.2.3.1 WDT\_SetDetectTime

WDT 検出時間の設定

関数のプロトタイプ宣言:

```
void  
WDT_SetDetectTime(uint32_t DetectTime)
```

引数:

**DetectTime**: 以下から検出時間を選択します。

- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_15: 2<sup>15</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_17: 2<sup>17</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_19: 2<sup>19</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_21: 2<sup>21</sup>/fsys

- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_23: 2<sup>23</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_25: 2<sup>25</sup>/fsys

**機能:**

WDT の検出時間を設定します。

**戻り値:**

なし

### 17.2.3.2 WDT\_SetIdleMode

IDLE 時の動作選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
WDT\_SetIdleMode(FunctionalState **NewState**)

**引数:**

**NewState**: 以下から IDLE 時の WDT 動作を選択します。

- **ENABLE**: 動作
- **DISABLE**: 停止

**機能:**

本関数は、IDLE モード時の WDT カウンタの動作を設定します。

**NewState** が **ENABLE** の時は WDT カウンタ停止

**NewState** が **DISABLE** の時は WDT カウンタ作動

**補足:**

CPU が IDLE モードに入る前に、引数を選択して本関数を呼び出してください。

**戻り値:**

なし

### 17.2.3.3 WDT\_SetOverflowOutput

暴走検出後の動作選択

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
WDT\_SetOverflowOutput(uint32\_t **OverflowOutput**)

**引数:**

**OverflowOutput**: 以下から暴走検出後の動作を選択します。

- **WDT\_NMIINT**: INTWDT 割り込み要求を発生します。
- **WDT\_WDOUT**: マイコンをリセットします。

**機能:**

カウンタオーバーフロー時の NMI 割り込み/リセットの設定を行います。

**OverflowOutput** が **WDT\_NMIINT** の時、カウンタオーバーフローが発生すると NMI 割り込みが発生し、**OverflowOutput** が **WDT\_WDOUT** の時、カウンタオーバーフローが発生するとリセットが発生します。

戻り値:  
なし

## 17.2.3.4 WDT\_Init

WDT の初期化

関数のプロトタイプ宣言:

void  
WDT\_Init (WDT\_InitTypeDef\* **InitStruct**)

引数:

**InitStruct**: カウンタオーバーフロー発生時の WDT 検出時間、WDT 出力の設定を含む WDT 設定に関する構造体。(詳細は“データ構造:”を参照)

機能:

カウンタオーバーフロー発生時の WDT 検出時間、WDT 出力の設定を含む WDT 初期設定。**WDT\_SetDetectTime()**, **WDT\_SetOverflowOutput()** が呼び出されます。

戻り値:  
なし

## 17.2.3.5 WDT\_Enable

WDT 動作の許可

関数のプロトタイプ宣言:

void  
WDT\_Enable(void)

引数:

なし

機能:

WDT 動作を許可します。

戻り値:  
なし

## 17.2.3.6 WDT\_Disable

WDT 動作の禁止

関数のプロトタイプ宣言:

void  
WDT\_Disable(void)

引数:

なし

**機能:**

WDT 動作を禁止します。

**戻り値:**

なし

## 17.2.3.7 WDT\_WriteClearCode

クリアコードの書き込み

**関数のプロトタイプ宣言:**

void  
WDT\_WriteClearCode (void)

**引数:**

なし

**機能:**

クリアコードをライトします。

**戻り値:**

なし

## 17.2.4 データ構造

### 17.2.4.1 WDT\_InitTypeDef

**メンバ:**

uint32\_t

**DetectTime** 以下から検出時間を選択します。

- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_15: 2<sup>15</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_17: 2<sup>17</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_19: 2<sup>19</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_21: 2<sup>21</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_23: 2<sup>23</sup>/fsys
- WDT\_DETECT\_TIME\_EXP\_25: 2<sup>25</sup>/fsys

uint32\_t

**OverflowOutput** 以下から、カウンタオーバーフロー時の動作を選択します。

- WDT\_WDOUT: マイコンをリセットします。
- WDT\_NMIINT: INTNMI 割り込み要求を発生します。